南 丹 市

男女共同参画行動計画
策定に関する市民意識調査報告書

令和５年３月

南　丹　市

≪ 目　　次 ≫

Ⅰ　調査の目的……1
Ⅱ　調査設計……1
Ⅲ　報告書の見方……1
Ⅳ　調査結果……2
　１．回答者について……2
　２．男女平等に関する意識について……6
　３．子育てについて……18
　４．社会活動について……19
　５．就労・働き方について……29
　６．生活全般について……36
　７．人権について……39
　８．男女共同参画社会について……46
　９．自由意見……49
Ⅴ　総括……53

Ⅰ　調査の目的

本調査は、市民の皆さまの福祉に対する考えや、地域活動への参加状況の実態把握、ご意見・ご提言をお伺いし、「（仮称）第３次南丹市男女共同参画行動計画」における各種施策に反映させることを目的としています。

Ⅱ　調査設計

- 調査対象者：南丹市在住の 18 歳以上（令和５年１月現在）の男女（無作為抽出法）
- 調 査 期 間：令和５年 1 月 18 日(水)～令和５年 1 月 31 日(火)
- 調 査 方 法：郵送配布・郵送回収による郵送調査法、WEB によるオンライン回答
- 回 収 状 況：配　布　数　1,500 件
  回　収　数　　521 件　　回収率：34.7%

※一部の設問については、過年度調査（平成 24 年度、平成 29 年度に実施）との比較、経年変化による分析を行っています。

（参考：過年度調査のアンケート回収件数）
■平成 24 年度調査　有効回収数：381 件（男性 175、女性 205、性別不明 1）
■平成 29 年度調査　有効回収数：489 件（男性 235、女性 254）

Ⅲ　報告書の見方

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第２位で四捨五入したものです。そのため、単数回答であっても合計値が 100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。

- 複数回答の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が 100.0%を超える場合があります。

- 図表中において、「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。

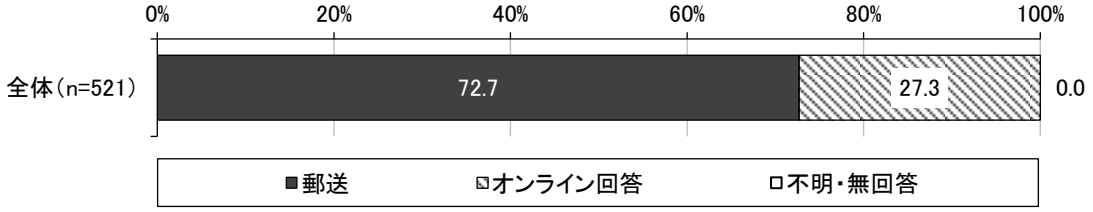
- グラフ及び表の「n 数（number of case）」は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。

Ⅳ　調査結果

１．回答者について

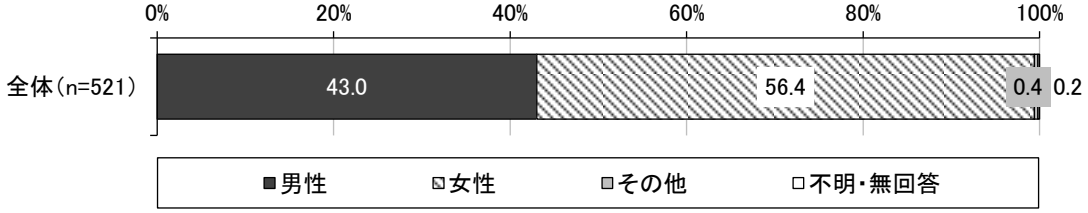
◎調査方法

調査方法についてみると、「郵送」が 72.7%、「オンライン回答」が 27.3%となっています。



◆あなたの性別を教えてください。

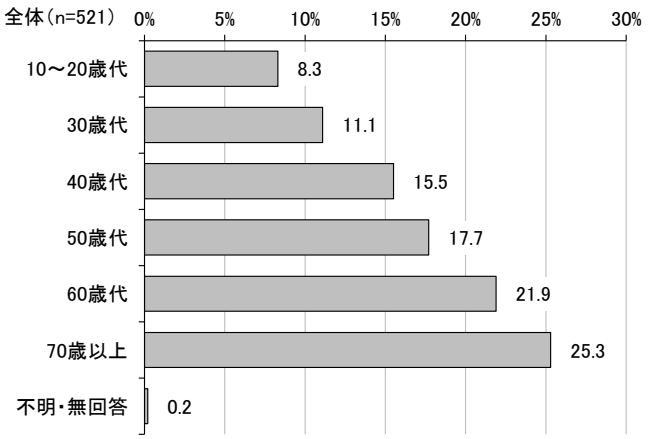
性別についてみると、「男性」が 43.0%、「女性」が 56.4%、「その他」が 0.4%となっています。

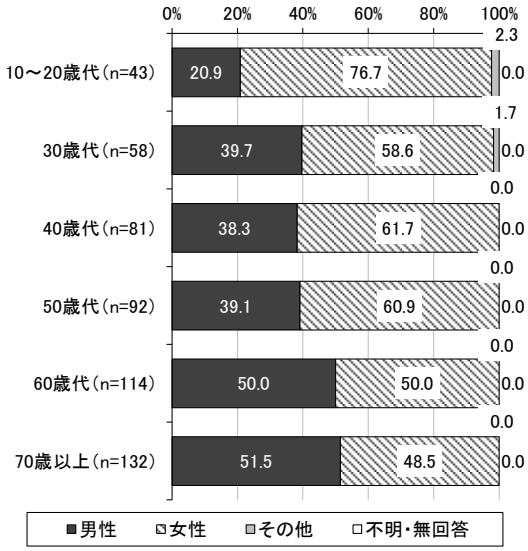


◆あなたの年齢は何歳ですか。

年齢についてみると、70 歳以上が 25.3%と最も多く、次いで 60 歳代が 21.9%、50 歳代が 17.7%となっています。

各年代の男女の構成比については、60 歳未満の男性の割合が４割を下回っており、70 歳未満の女性の割合が５割を上回っています。

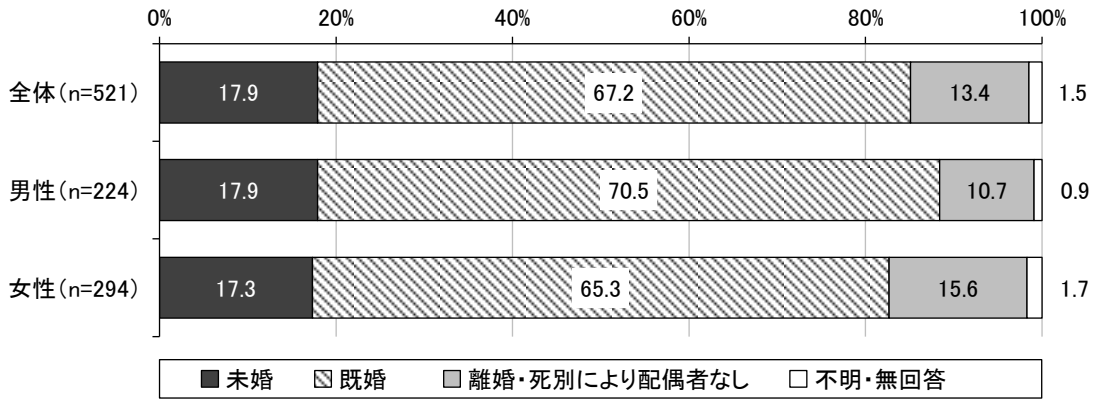




◆あなたは結婚（事実婚を含む）していますか。

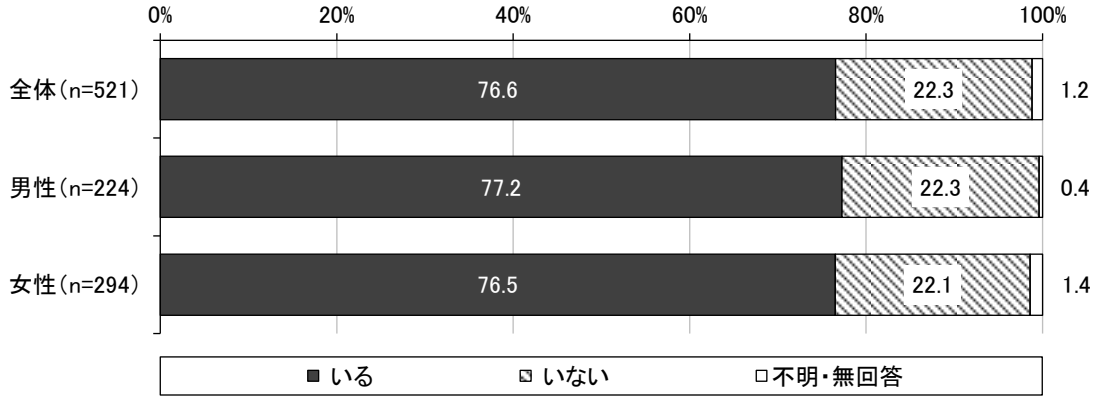
結婚の有無についてみると、「未婚」は男性が17.9%、女性が17.3%、「既婚」は男性が70.5%、女性が65.3%となっており、男女でほぼ同数となっています。

また、「離婚・死別により配偶者なし」では女性がやや高くなっています。



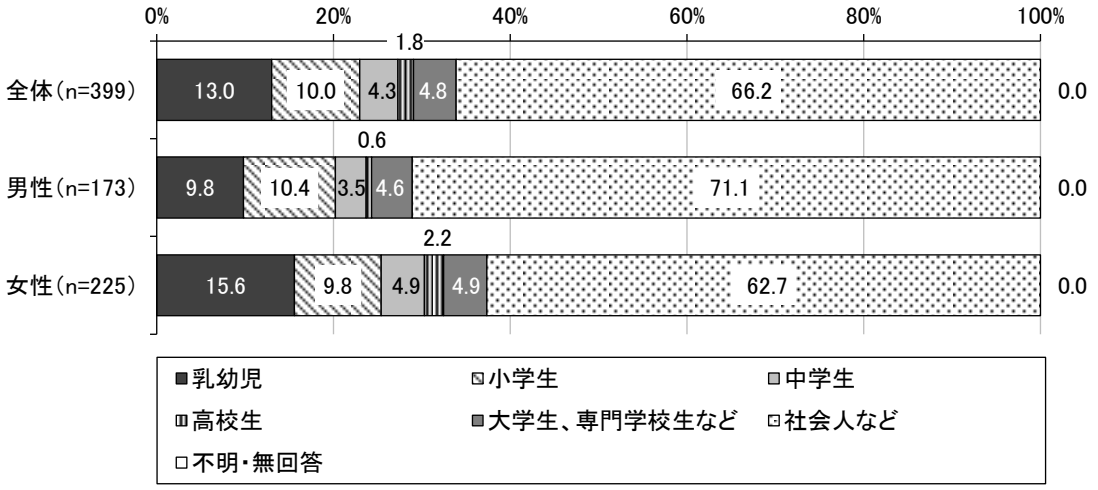
◆あなたにはお子さんがいますか。（別居を含む）

子どもの有無についてみると、「いる」は男性が77.2%、女性が76.5%、「いない」は男性が22.3%、女性が22.1%となっており、男女でほぼ同数となっています。



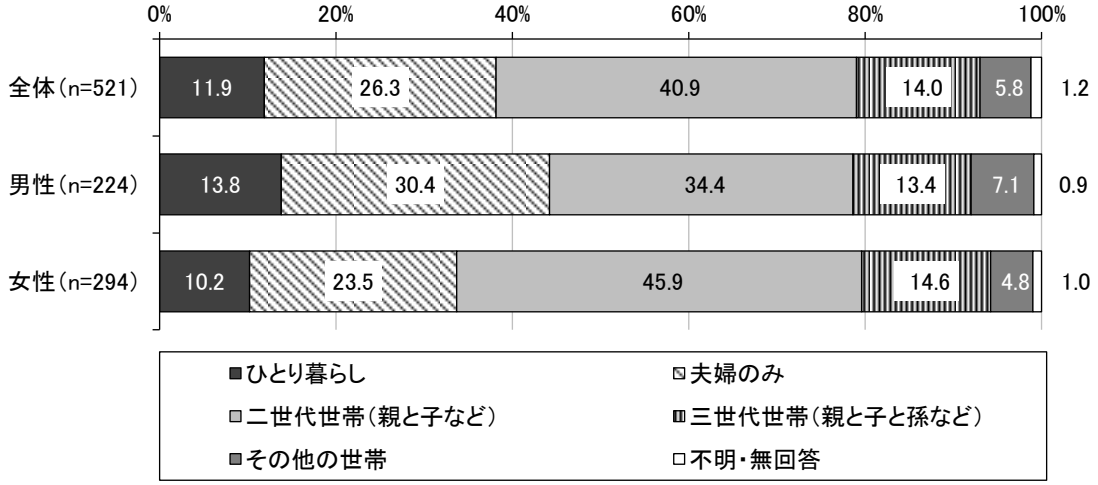
◆お子さんがいる場合、一番下のお子さんは次のうちどれにあたりますか。

一番下の子どもの区分についてみると、男女ともに「社会人など」が最も高く、それぞれ 71.1%、62.7%となっています。また、男性と比較し、女性では「乳幼児」が 5.8 ポイント高くなっています。



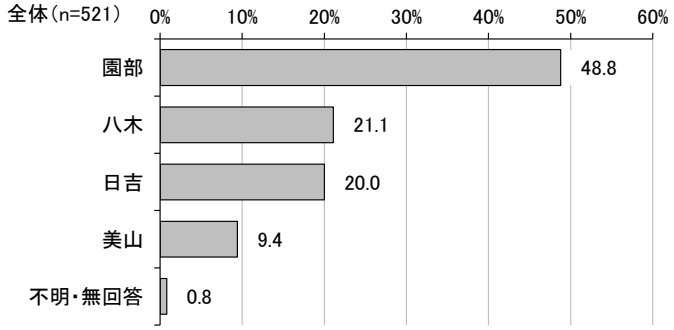
◆あなたの家族の構成は次のどれですか。

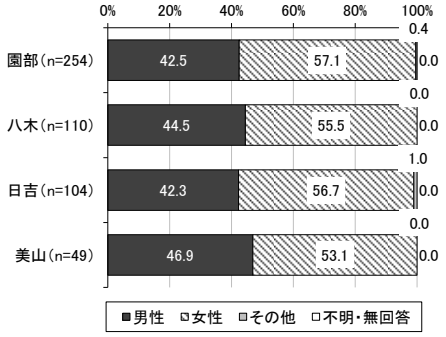
回答者の家族構成についてみると、男女ともに「二世代世帯（親と子など）」が最も高く、それぞれ 34.4%、45.9%となっています。また、女性と比較し、男性では「夫婦のみ」が 6.9 ポイント高くなっています。



◆あなたがお住まいの地域は次のどれですか。

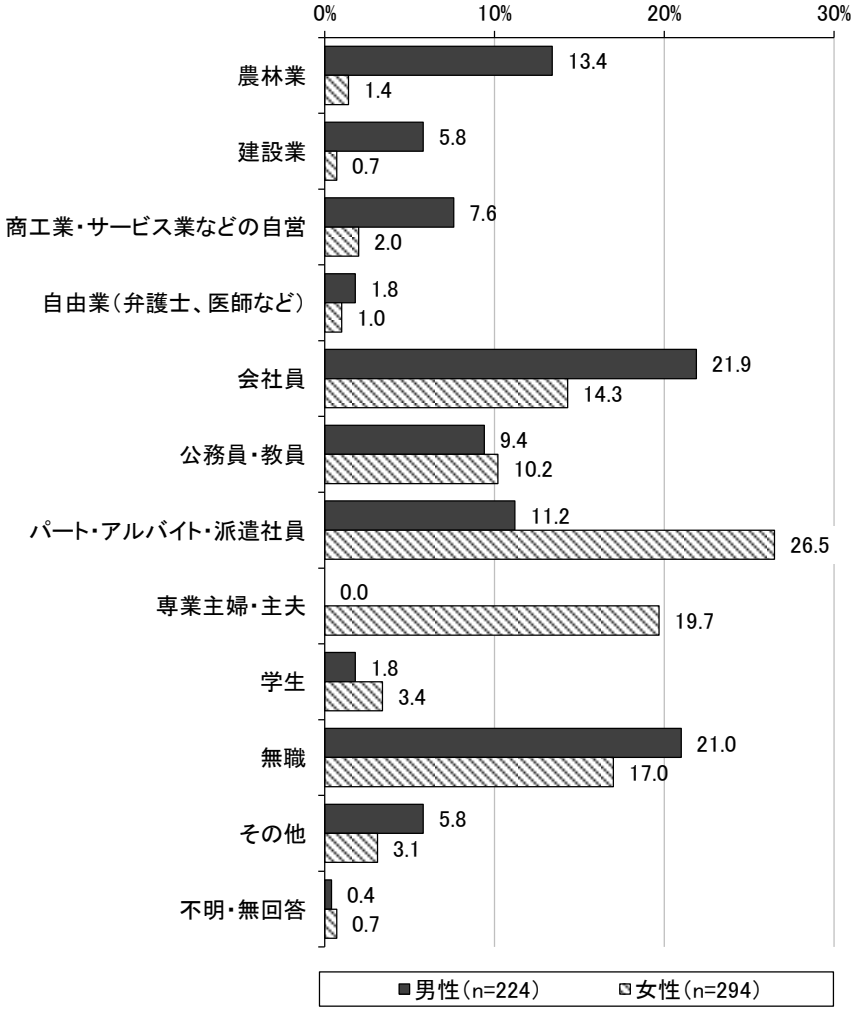
回答者の居住地域についてみると、「園部」が 48.8%と最も高く、次いで「八木」が 21.1%、「日吉」が 20.0%、「美山」が 9.4%となっています。また、男性と比較し、女性ではすべての地域において比率が高くなっています。





◆あなたの職業についてお聞きします。次に示す項目のうちどれにあたりますか。

職業についてみると、男性は「会社員」が 21.9%と最も高く、次いで「無職」が 21.0%となっています。女性は「パート・アルバイト・派遣社員」が 26.5%と最も高く、次いで「専業主婦・主夫」が 19.7%となっています。また、「専業主婦・主夫」は男性で 0.0%となっており、「パート・アルバイト・派遣社員」は男性が 11.2%と女性と比較し 15.3 ポイント低くなっています。



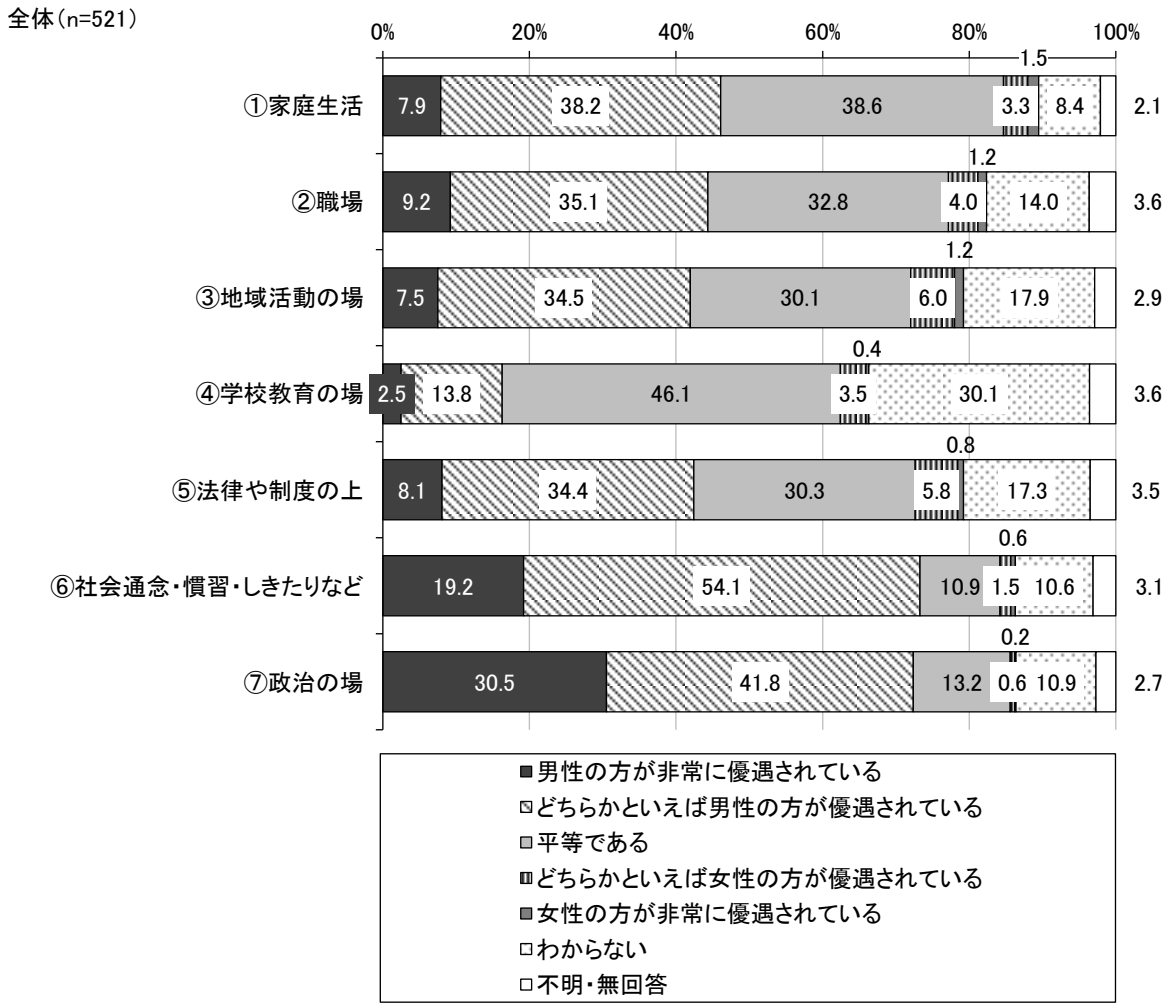
２．男女平等に関する意識について

問１　あなたは、次にあげるような分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。各項目についてあなたのお考えに最も近いものをお答えください。（①～⑦のそれぞれについて、○は１つずつ）

『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）が高い項目については、「⑥社会通念・慣習・しきたりなど」が 73.3%と最も高く、次いで「⑦政治の場」が 72.3%、「①家庭生活」が 46.1%となっています。

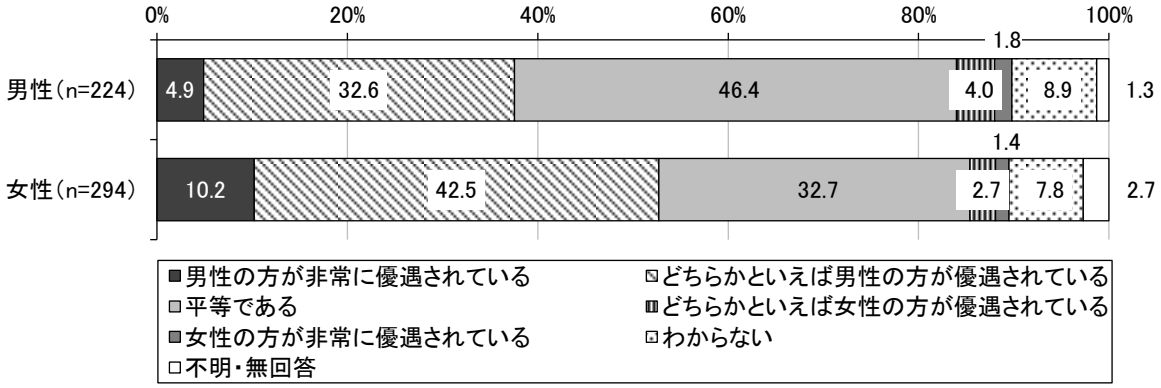
「平等である」が高い項目については、「④学校教育の場」が 46.1%と最も高く、次いで「①家庭生活」が 38.6%、「②職場」が 32.8%となっています。

『女性優遇』（「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計）は、各項目で 10%を下回っており、最も高い項目で「③地域の活動の場」が 7.2%、次いで「⑤法律や制度の上」が 6.6%、「②職場」が 5.2%となっています。



①家庭生活

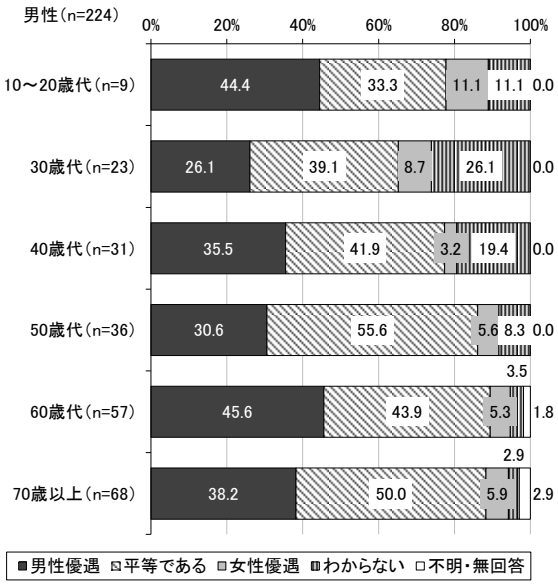
性別でみると、『男性優遇』は女性（52.7%）が男性（37.5%）を 15.2 ポイント上回っています。「平等である」は男性が女性を 13.7 ポイント上回っています。

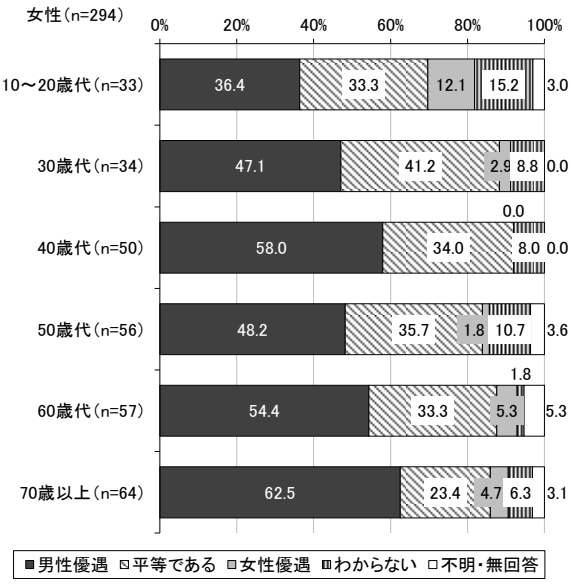


年齢別でみると、男性は 60 歳代で『男性優遇』が 45.6%と最も高くなっており、30 歳代が 26.1%と最も低くなっています。

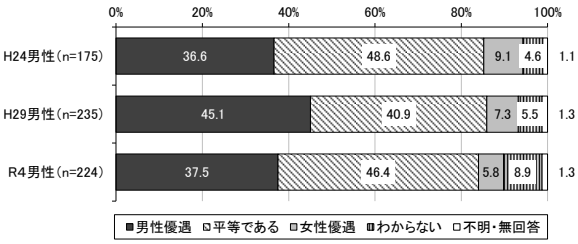
女性は 70 歳以上で『男性優遇』が 62.5%と最も高くなっており 10～20 歳代が 36.4%と最も低くなっています。

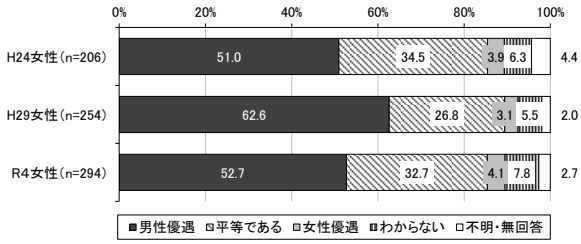
『女性優遇』については、男女ともに 10～20 歳代で最も高くなっており、男女の意識の差も小さくなっています。





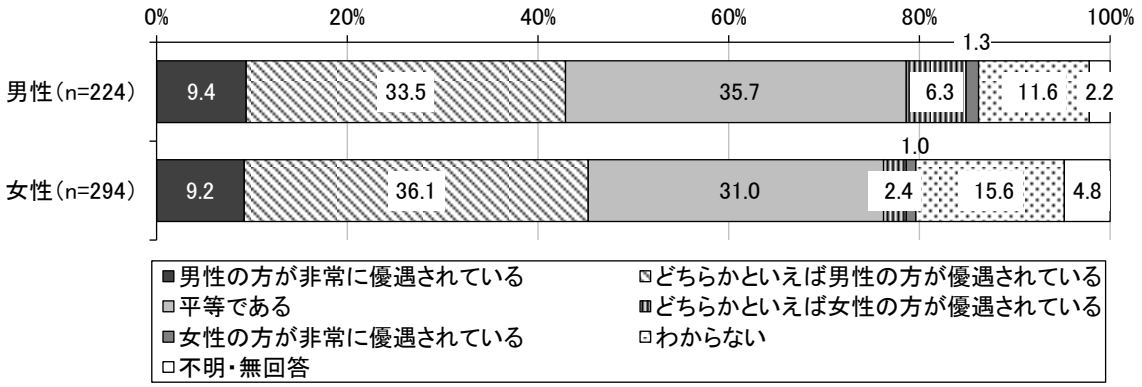
過年度調査との比較によると、男女ともに平成 29 年度調査では『男性優遇』が平成 24 年度調査を上回っていましたが、今回の調査では平成 29 年度調査を下回っており、平成 24 年度と同水準となっています。





②職場

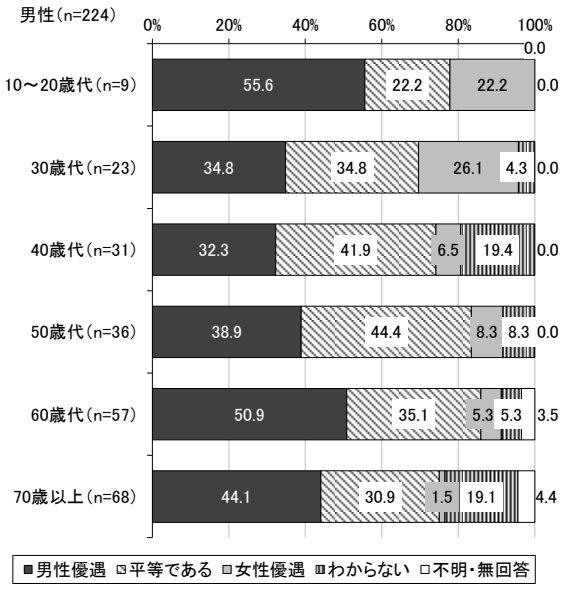
性別でみると、『男性優遇』は女性（45.3%）が男性（42.9%）を 2.4 ポイント上回っていますが、他の項目に比べて差は小さくなっています。

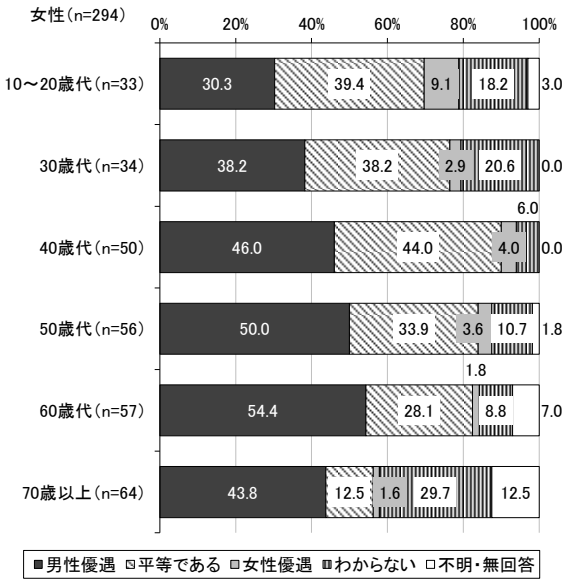


年齢別でみると、男性は 10～20 歳代で『男性優遇』が 55.6%と最も高くなっており、40 歳代が 32.3%と最も低くなっています。

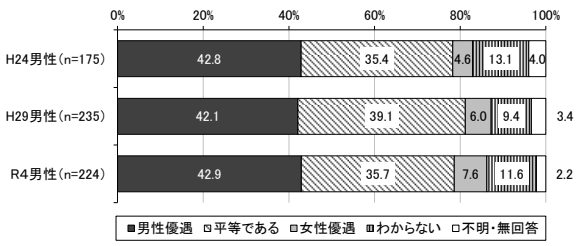
女性は 60 歳代で『男性優遇』が 54.4%と最も高くなっており、10～20 歳代が 30.3%と最も低くなっています。

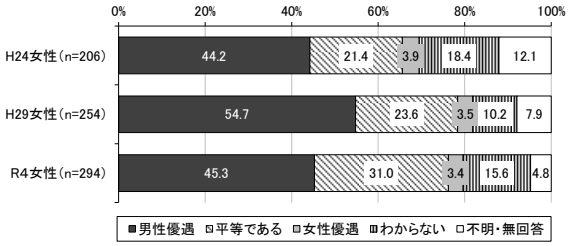
『女性優遇』は、男性が 30 歳代、女性が 10～20 歳代で最も高くなっているものの、男性と女性では 15 ポイント以上の差が見られます。





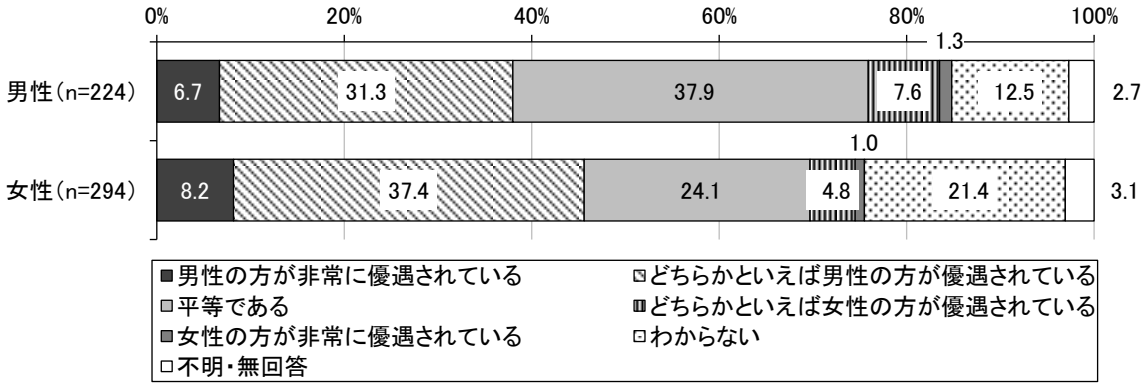
過年度調査との比較によると、男性は大きな変化がありませんが、女性は平成 29 年度調査と比べて『男性優遇』が 9.4 ポイント低くなっています。





③地域活動の場

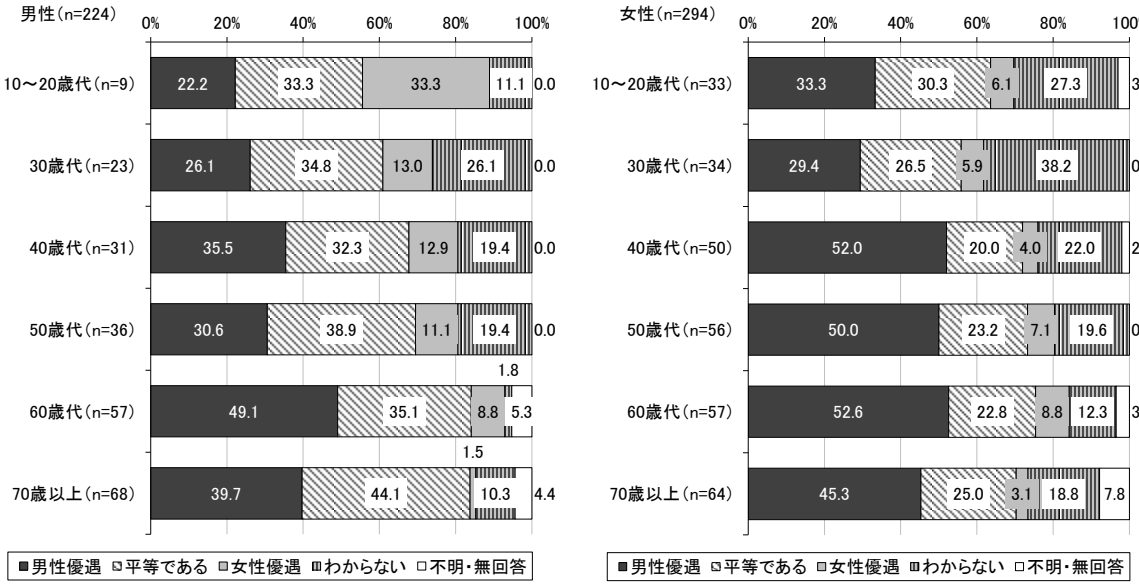
性別でみると、『男性優遇』は女性（45.6%）が男性（38.0%）を 7.6 ポイント上回っています。「平等である」は男性が女性を 13.8 ポイント上回っています。



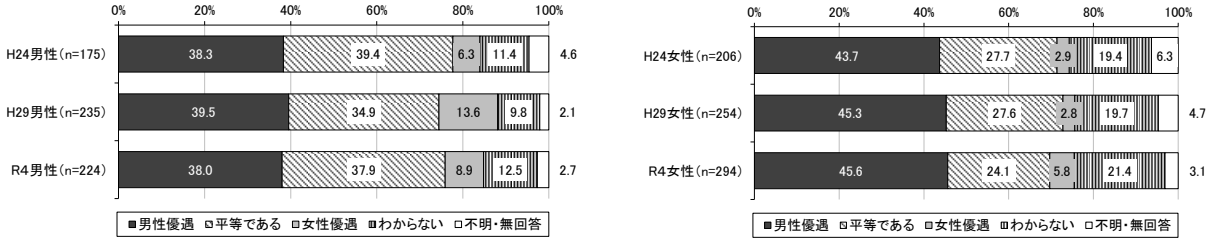
年齢別でみると、男性は 60 歳代で『男性優遇』が 49.1%と最も高くなっており、10～20 歳代が 22.2%と最も低くなっています。

女性は 60 歳代で『男性優遇』が 52.6%と最も高くなっており、30 歳代が 29.4%と最も低くなっています。

『女性優遇』は、男性では 60 歳未満において 10%以上となっているものの、女性ではすべての年代において 10%未満となっています。

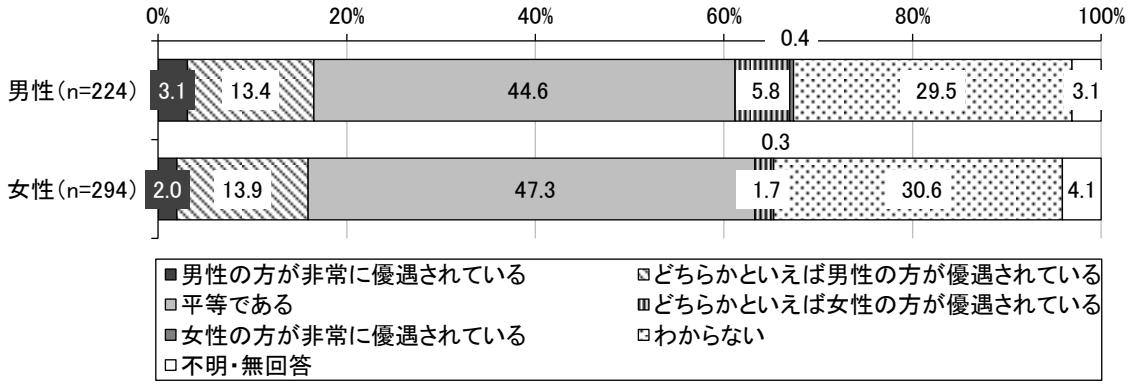


過年度調査との比較によると、男性の『女性優遇』が平成 29 年度調査と比べて 4.7 ポイント低くなっており、女性では大きな変化はありませんでした。



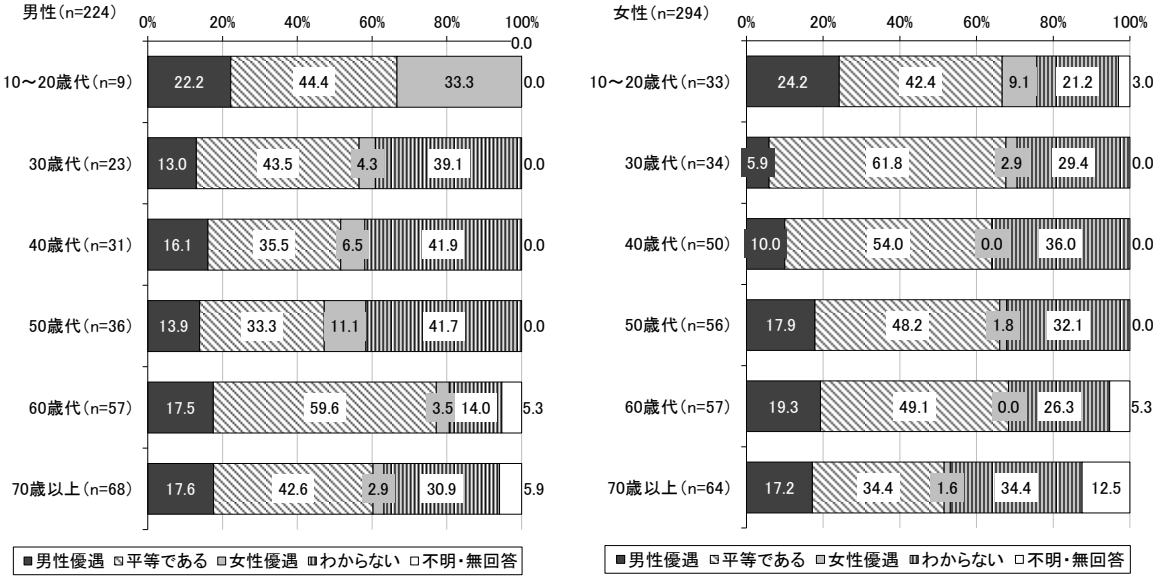
④学校教育の場

『男性優遇』が他に比べて最も低くなっています。性別でみると、『男性優遇』においては男性（16.5%）と女性（15.9%）では大きな差は見られません。『女性優遇』は男性（6.2%）が女性（2.0%）を 4.2 ポイント上回っています。また、「平等である」は男女ともに４割以上となっています。

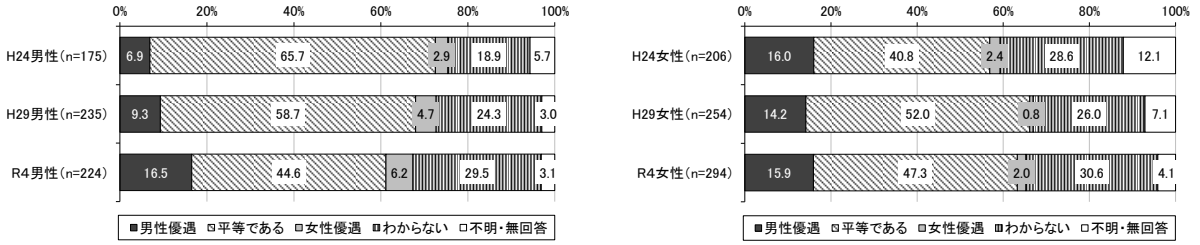


年齢別でみると、男性は 60 歳代で「平等である」が 59.6%と最も高くなっており、50 歳代が 33.3%と最も低くなっています。

女性は 30 歳代で「平等である」が 61.8%と最も高くなっており、70 歳以上が 34.4%と最も低くなっています。

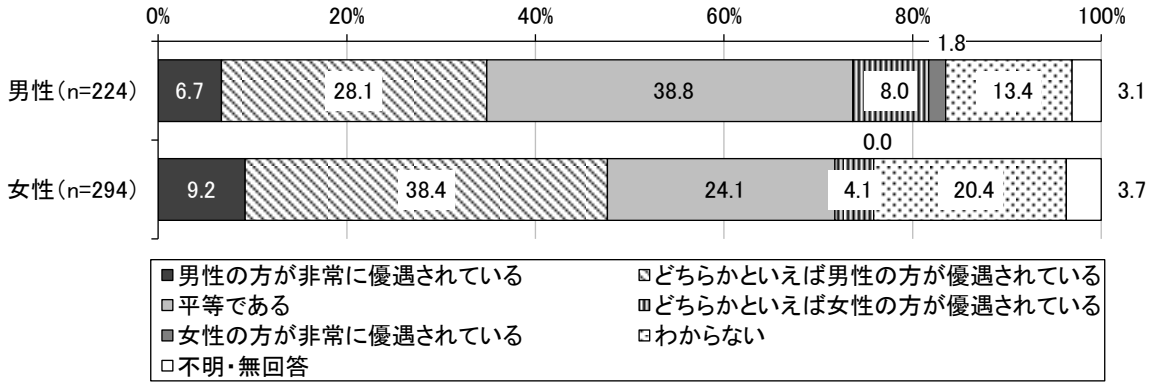


過年度調査との比較によると、男性の「わからない」が過去の調査に比べて高く、「平等である」が低くなっています。女性は「わからない」が過去の調査に比べて高くなっています。



⑤法律や制度の上

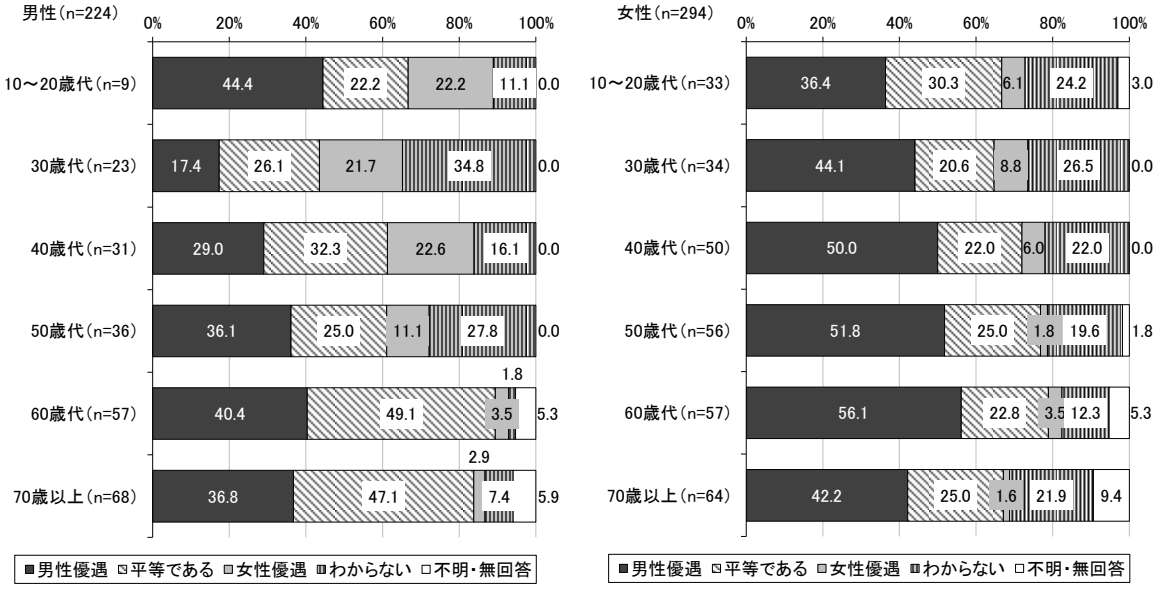
性別でみると、『男性優遇』は女性（47.6%）が男性（34.8%）を 12.8 ポイント上回っています。「平等である」は男性（38.8%）が女性（24.1%）を 14.7 ポイント上回っています。



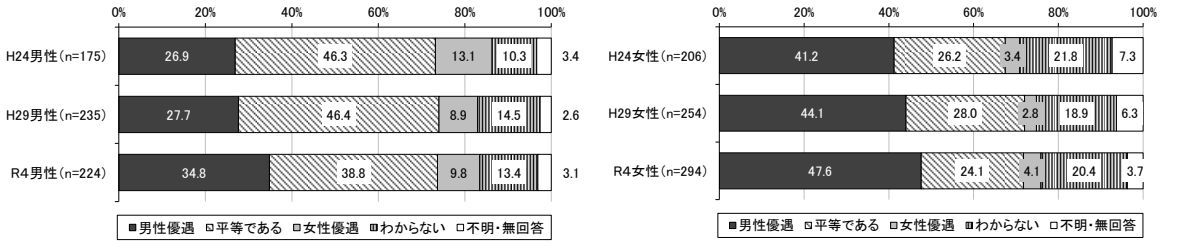
年齢別でみると、男性は 10～20 歳代で『男性優遇』が 44.4%と最も高くなっており、30 歳代が 17.4%と最も低くなっています。

女性は 60 歳代で『男性優遇』が 56.1%と最も高くなっており、10～20 歳代が 36.4%と最も低くなっています。

『女性優遇』は、男性では 50 歳未満において 20%以上となっているものの、女性ではすべての年代において 10%未満となっています。

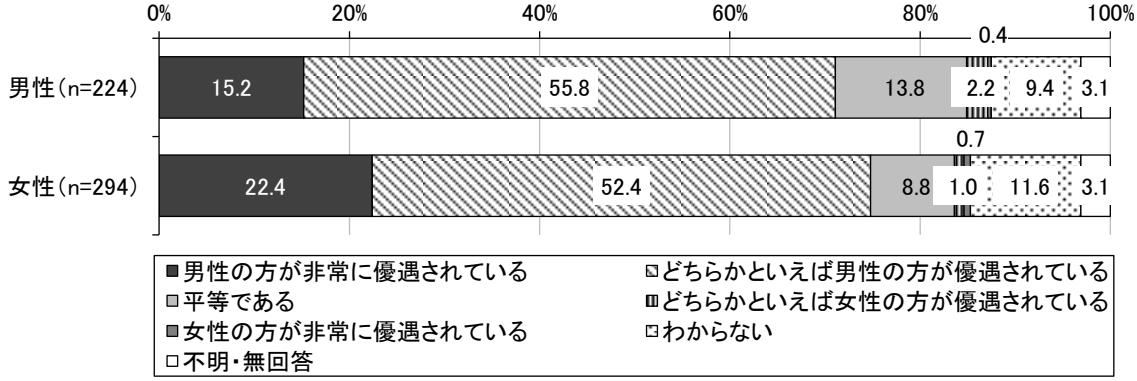


過年度調査との比較によると、男女ともに『男性優遇』が過去の調査に比べて高く、「平等である」が低くなっています。



⑥社会通念・慣習・しきたりなど

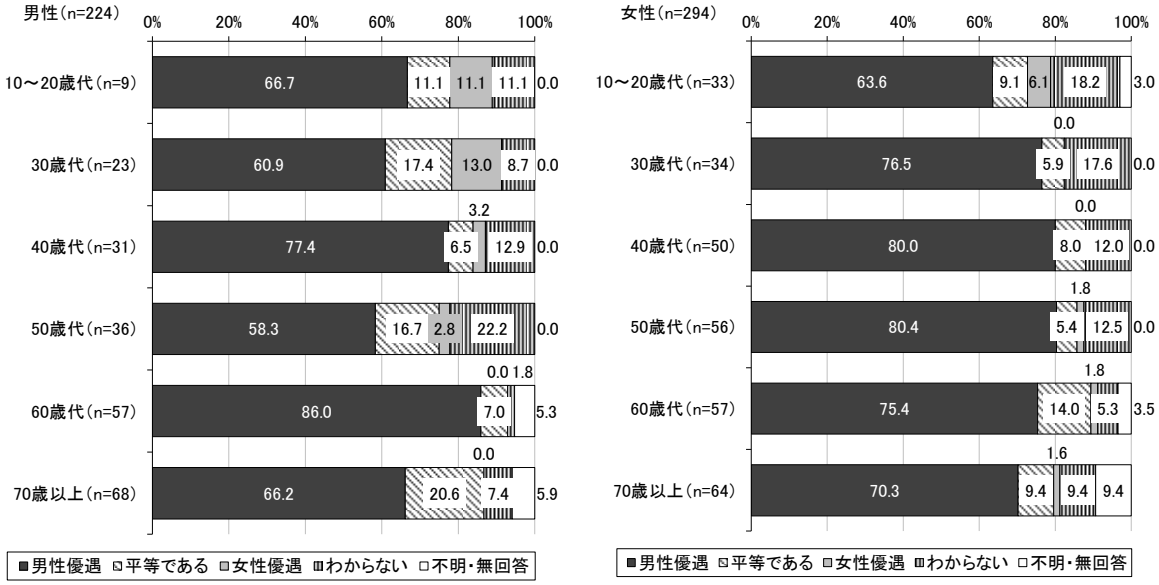
①～⑦のなかで『男性優遇』が男女ともに最も高くなっています。性別でみると、女性（74.8%）が男性（71.0%）を 3.8 ポイント上回っていますが、大きな差は見られません。「平等である」は男性が女性を 5.0 ポイント上回っています。



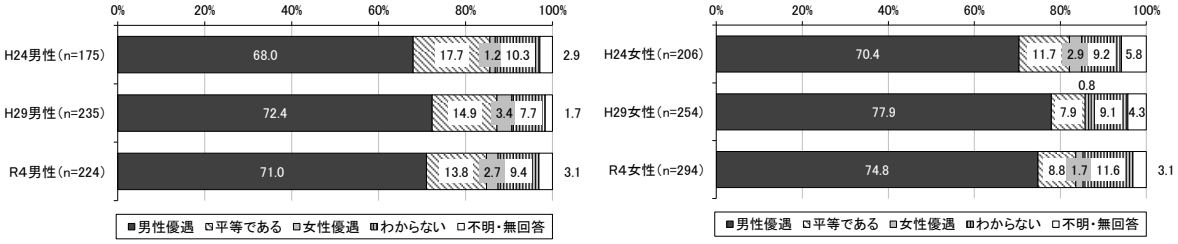
年齢別でみると、男性は 60 歳代で『男性優遇』が 86.0%と最も高くなっており、50 歳代が 58.3%と最も低くなっています。

女性は 50 歳代で『男性優遇』が 80.4%と最も高くなっており、10～20 歳代が 63.6%と最も低くなっています。

『女性優遇』は、男性の 60 歳以上と女性の 30～40 歳代では 0.0%となっています。

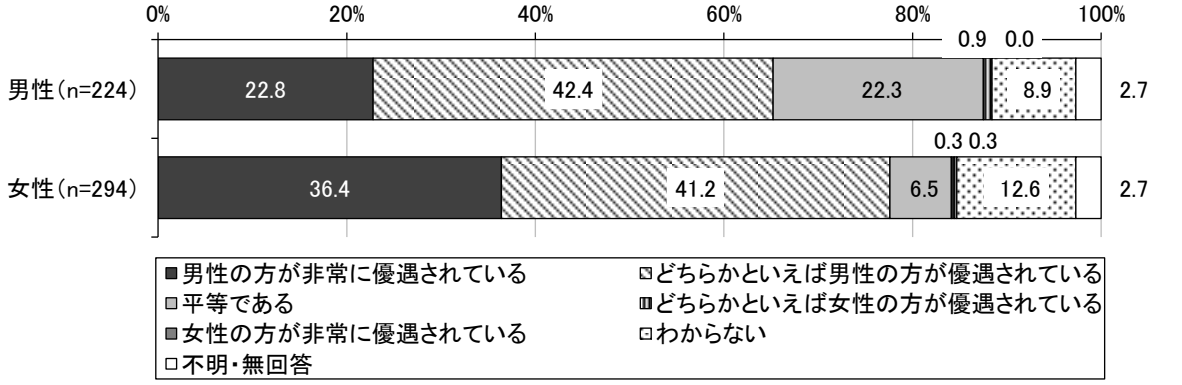


過年度調査との比較によると、男女ともに平成 29 年度に比べて『男性優遇』がやや低くなっていますが、大きな変化は見られませんでした。



⑦政治の場

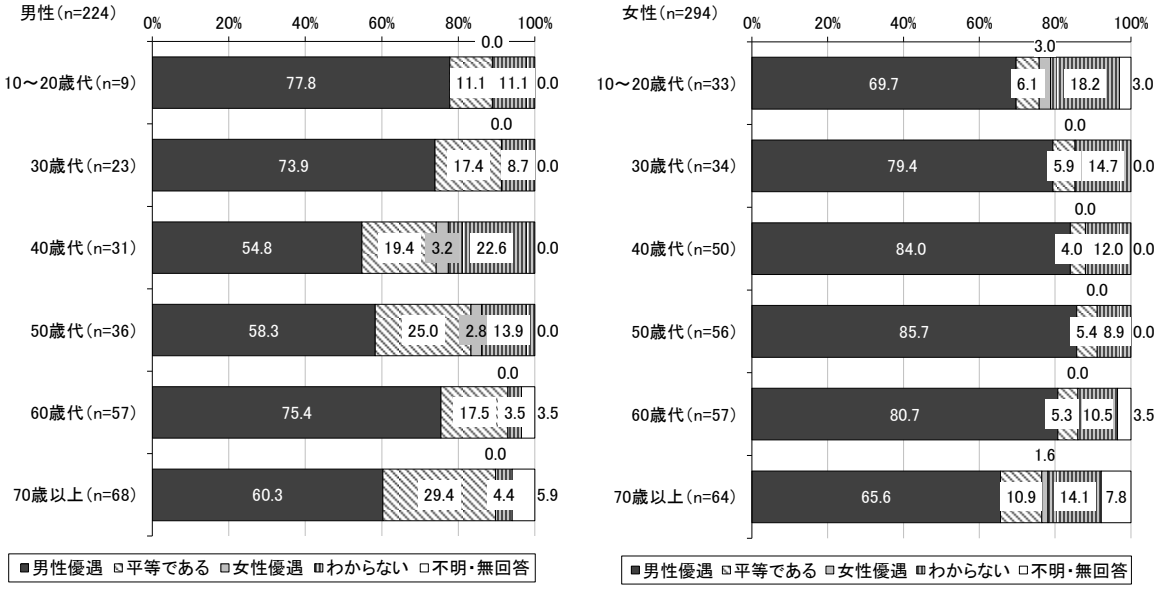
性別でみると、『男性優遇』は女性（77.6%）が男性（65.2%）を 12.4 ポイント上回っています。「平等である」は男性が女性を 15.8 ポイント上回っています。



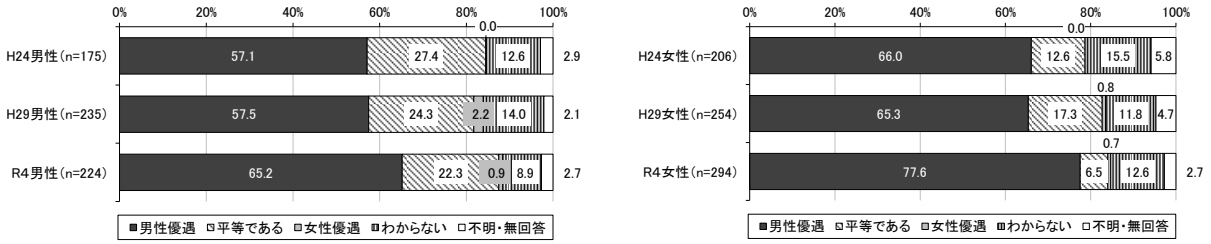
年齢別でみると、男性は 10～20 歳代で『男性優遇』が 77.8%と最も高くなっており、40 歳代が 54.8%と最も低くなっています。

女性は 50 歳代で『男性優遇』が 85.7%と最も高くなっており、70 歳以上が 65.6%と最も低くなっています。

『女性優遇』は、男性の 40～50 歳代と女性の 10～20 歳代、70 歳以上を除いた年代で 0.0%となっています。



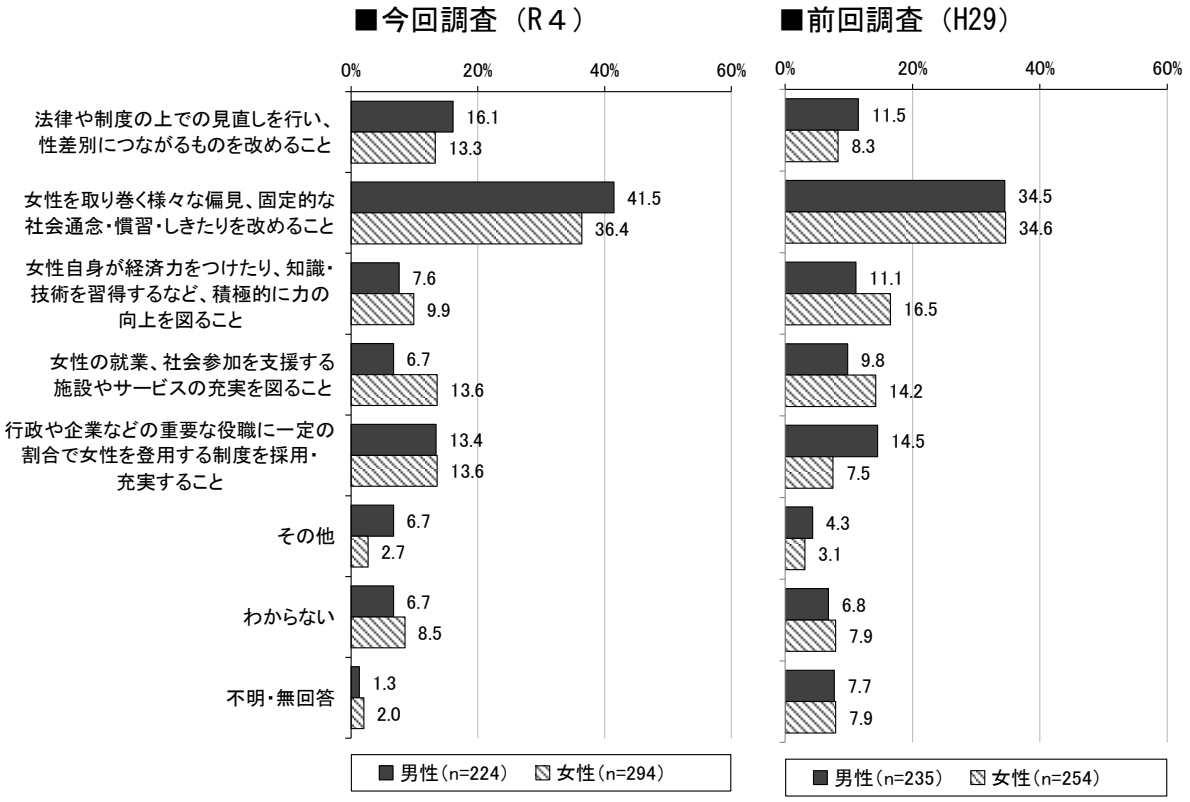
過年度調査との比較によると、男女ともに『男性優遇』が過去の調査に比べて高く、「平等である」が低くなっています。



問２　男女平等の社会にするためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○は１つだけ）

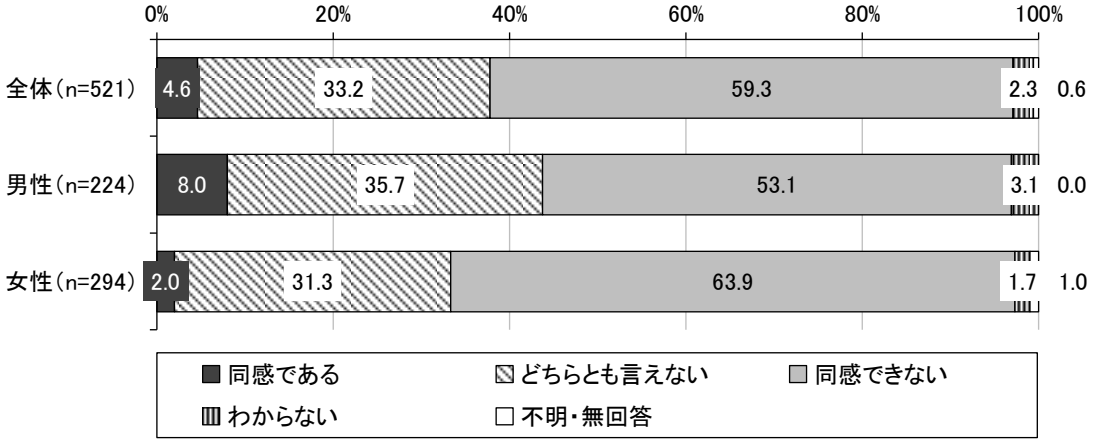
男女平等の社会にするために必要なことについてみると、男女ともに「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念・慣習・しきたりを改めること」が最も高くなっており、男性で 41.5%、女性で 36.4%となっています。次いで、男性では「法律や制度の上での見直しを行い、性差別につながるものを改めること」が 16.1%となっており、女性では「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」「行政や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること」でそれぞれ 13.6%となっています。

前回調査と比較すると、男性で「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念・慣習・しきたりを改めること」が 7.0 ポイント、女性で「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」が 6.6 ポイント低くなっています。



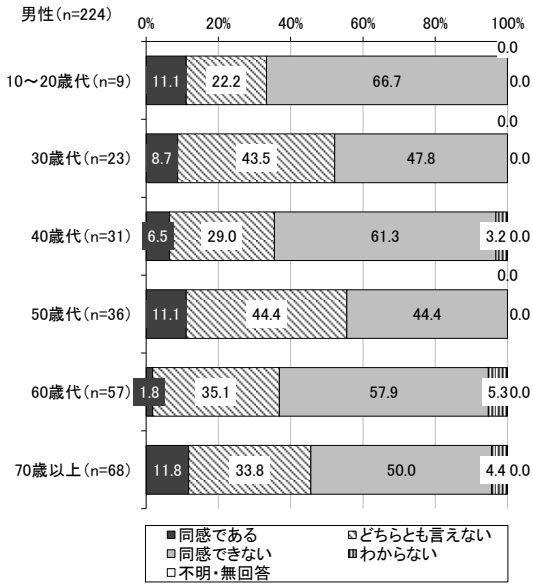
問３　「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。（○は１つだけ）

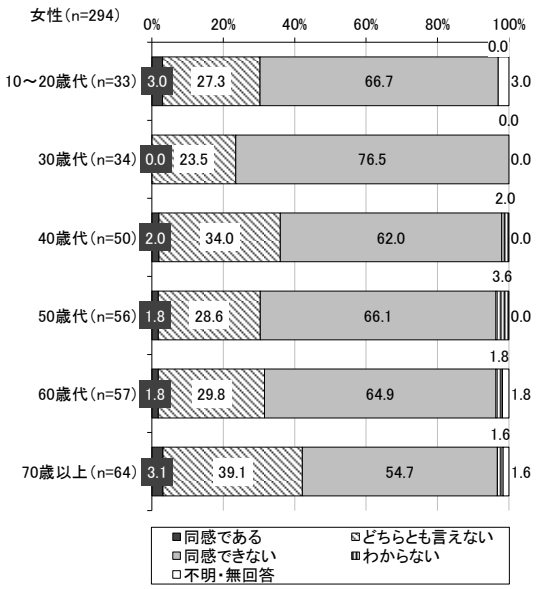
男女ともに「同感できない」が最も高くなっており、男性で 53.1%、女性で 63.9%となっています。また、「同感である」は男性（8.0%）が女性（2.0%）を 6.0 ポイント上回っています。



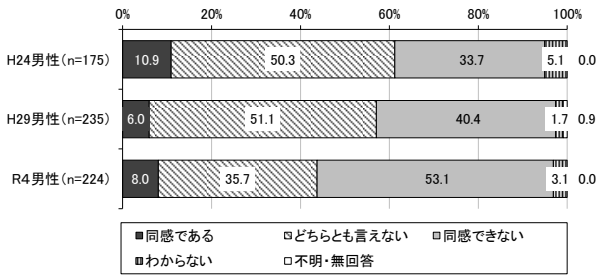
年齢別でみると、男性の「同感できない」は 10～20 歳代で 66.7%と最も高くなっており、50 歳代で 44.4%と最も低くなっています。

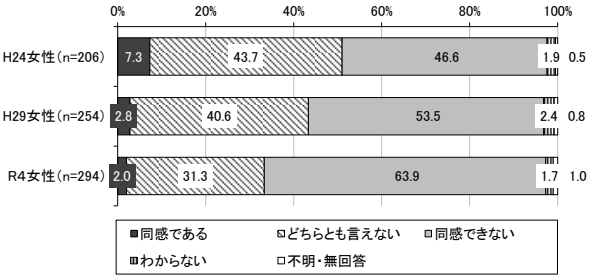
女性の「同感できない」は、30 歳代で 76.5%と最も高くなっており、70 歳以上で 54.7%と最も低くなっています。





過年度調査との比較によると、男女ともに「どちらとも言えない」が減少傾向にあり、「同感できない」が増加傾向にあります。

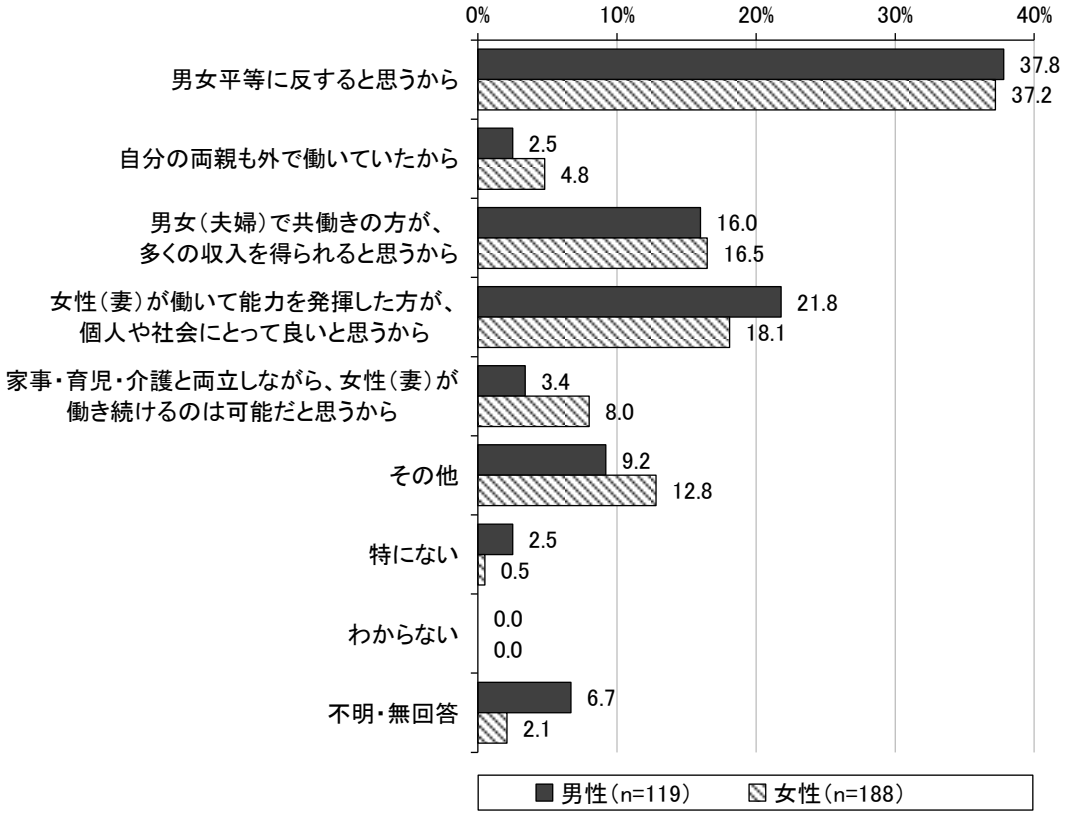




〔問３で「同感できない」と答えた方対象〕

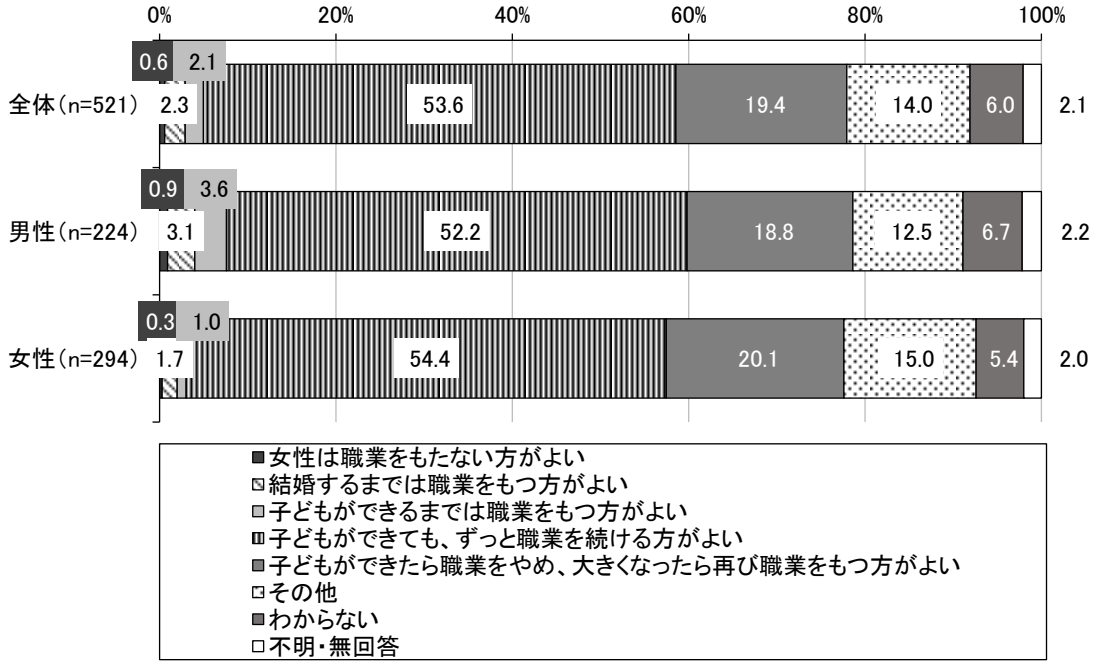
問４　それはどのような理由からですか。（○は１つだけ）

同感できない理由についてみると、男女ともに「男女平等に反すると思うから」が最も高くなっており、男性が 37.8%、女性が 37.2%となっています。次いで、「女性（妻）が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」が男性で 21.8%、女性で 18.1%、「男女（夫婦）で共働きの方が、多くの収入を得られると思うから」が男性で 16.0%、女性で 16.5%となっています。



問５　一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどう思いますか。（○は１つだけ）

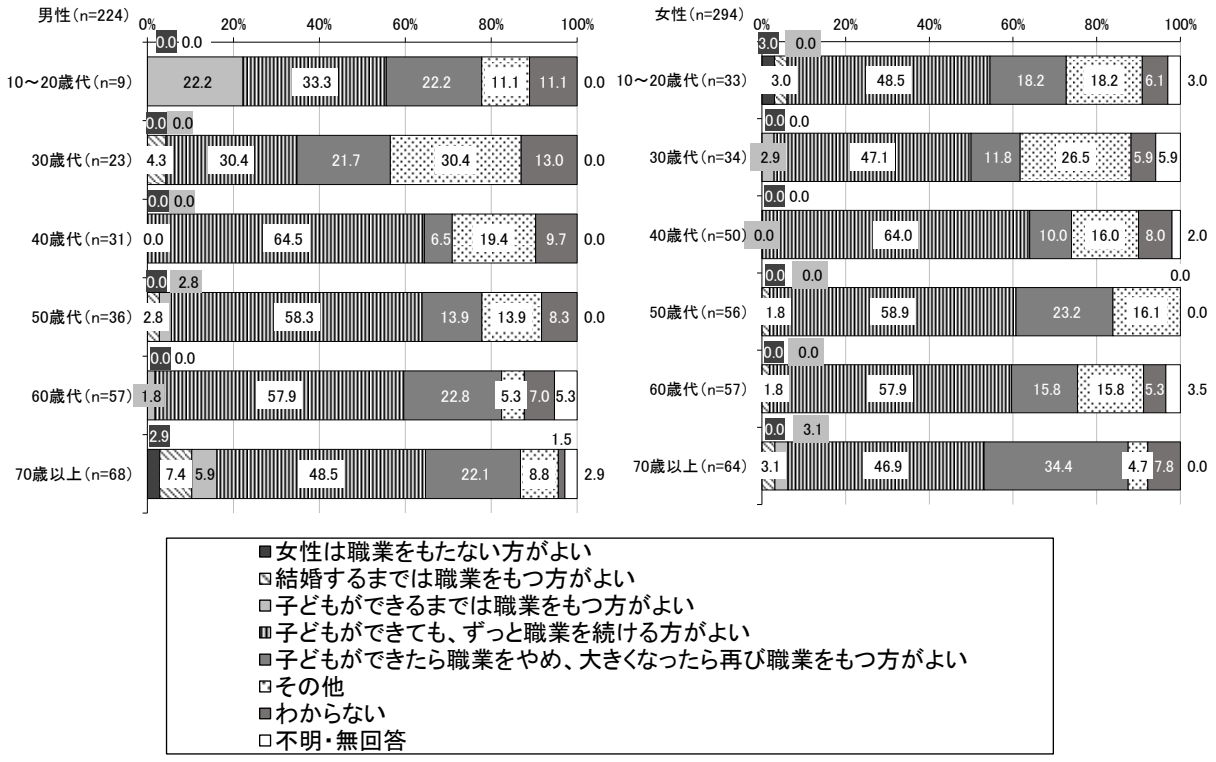
女性が職業をもつことについてみると、男女ともに「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」が最も高くなっており、男性が 52.2%、女性が 54.4%となっています。



年齢別でみると、男性の「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」は 40 歳代で 64.5%と最も高くなっており、30 歳代で 30.4%と最も低くなっています。

女性の「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」は、40 歳代で 64.0%と最も高くなっており、70 歳以上で 46.9%と最も低くなっています。

「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」は女性の 70 歳以上で 34.4%と他と比べて特に高くなっています。

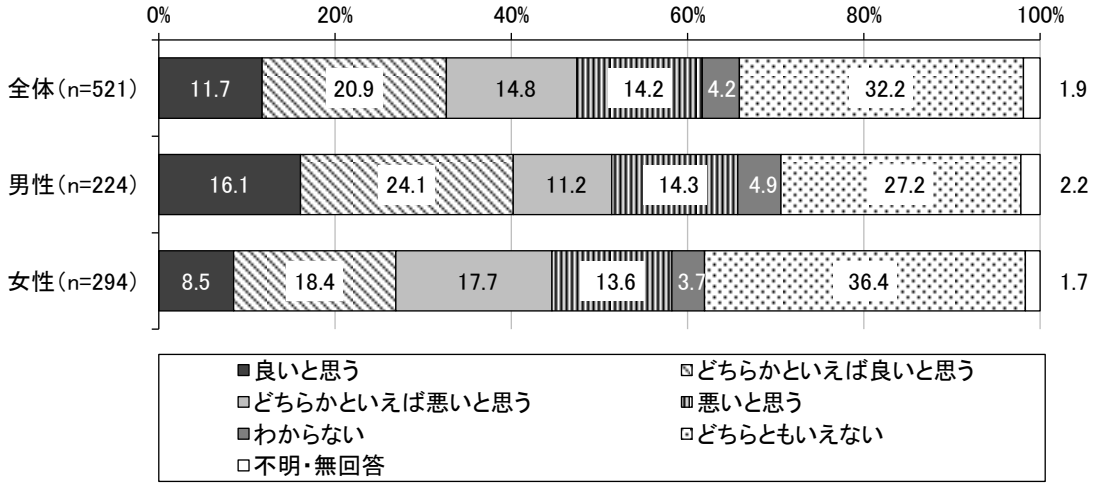


３．子育てについて

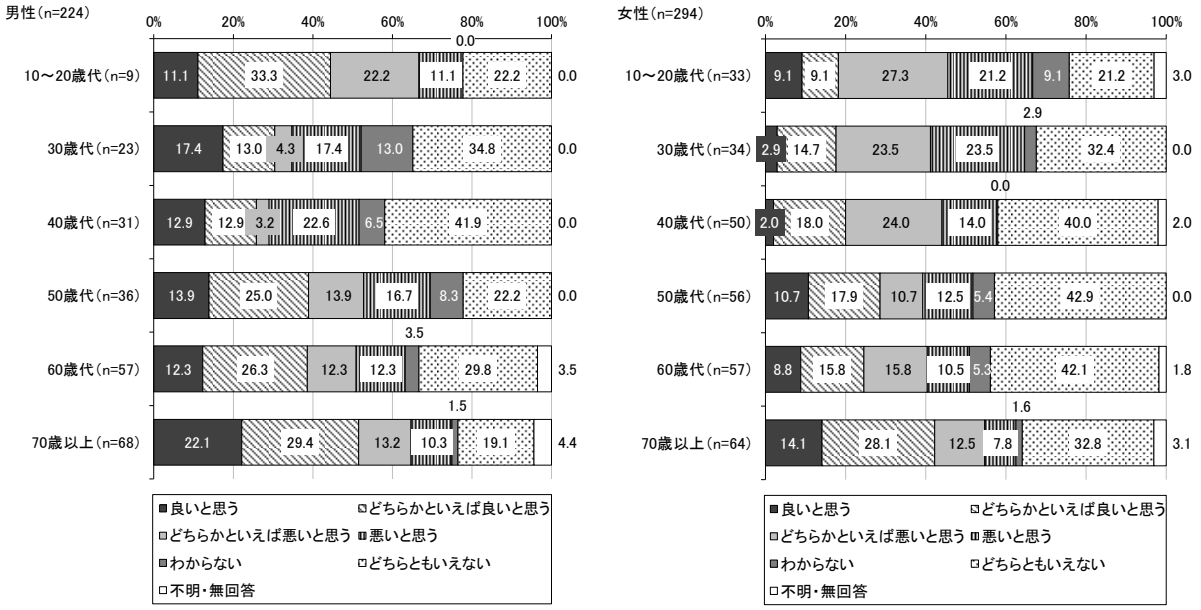
問６　あなたは「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく」という子どもの育て方、しつけについてどう思いますか。（○は１つだけ）

子どもの育て方、しつけについてみると、男性は『肯定意見』（「良いと思う」と「どちらかといえば良いと思う」の合計）が 40.2%、『否定意見』（「悪いと思う」と「どちらかといえば悪いと思う」の合計）が 25.5%、「どちらともいえない」が 27.2%となっています。

女性は『肯定意見』が 26.9%、『否定意見』が 31.3%、「どちらともいえない」が 36.4%となっています。



年齢別でみると、男女ともに 70 歳以上で『肯定意見』が最も高くなっており、男性で 51.5%、女性で 42.2%となっています。

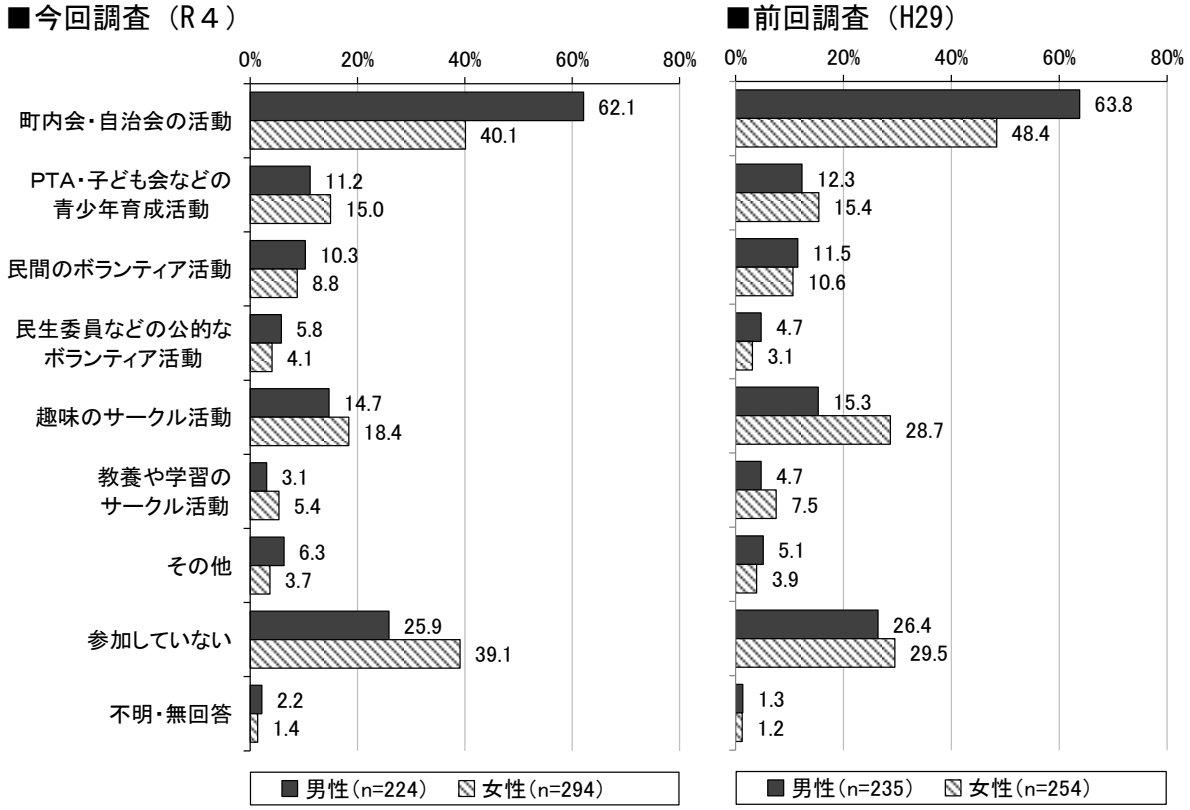


４．社会活動について

問７　あなたは地域における活動に参加していますか。
（今後新たに始める予定の活動も含めて、あてはまるものすべてに○）

地域活動の参加有無についてみると、男女ともに「町内会・自治会の活動」が最も高く、男性で 62.1%、女性で 40.1%となっています。次いで、男女ともに「参加していない」が高くなっており、男性が 25.9%、女性が 39.1%となっています。

前回調査と比較すると、女性で「趣味のサークル活動」が 10.3 ポイント低く、「参加していない」が 9.6 ポイント高くなっています。

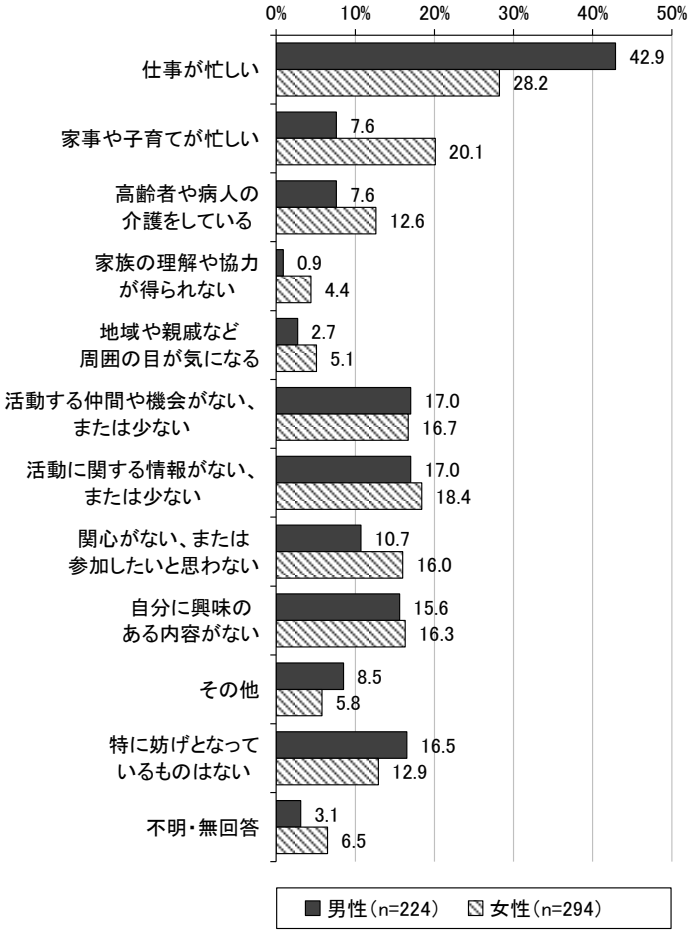


問８　あなたが仕事以外の活動をしようとする場合、その活動の支障になっていることや、今後支障になるであろうと思われることがありますか。（あてはまるものすべてに○）

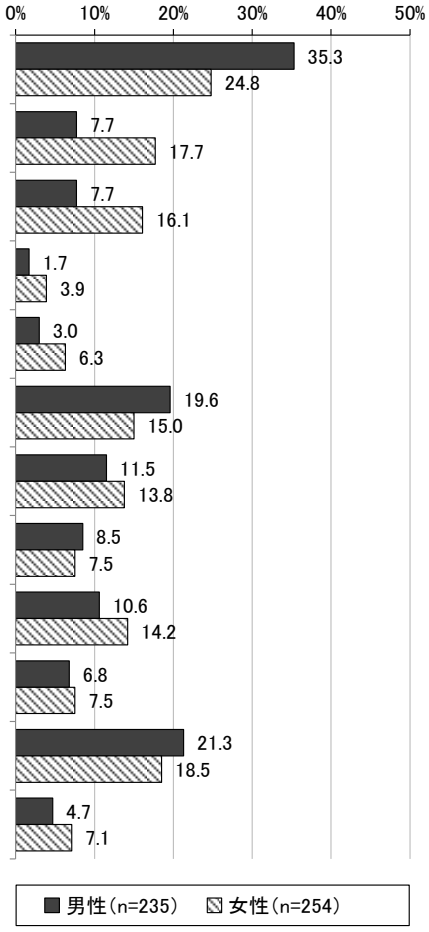
地域活動の支障となっていることについてみると、男女ともに「仕事が忙しい」が最も高くなっており、男性が 42.9%、女性が 28.2%となっています。次いで、男性では「活動する仲間や機会がない、または少ない」「活動に関する情報がない、または少ない」がそれぞれ 17.0%となっており、女性では「家事や子育てが忙しい」が 20.1%となっています。

前回調査と比較すると、男性で「仕事が忙しい」が 7.6 ポイント、女性で「関心がない、または参加したいと思わない」が 8.5 ポイント高くなっています。

■今回調査（R４）



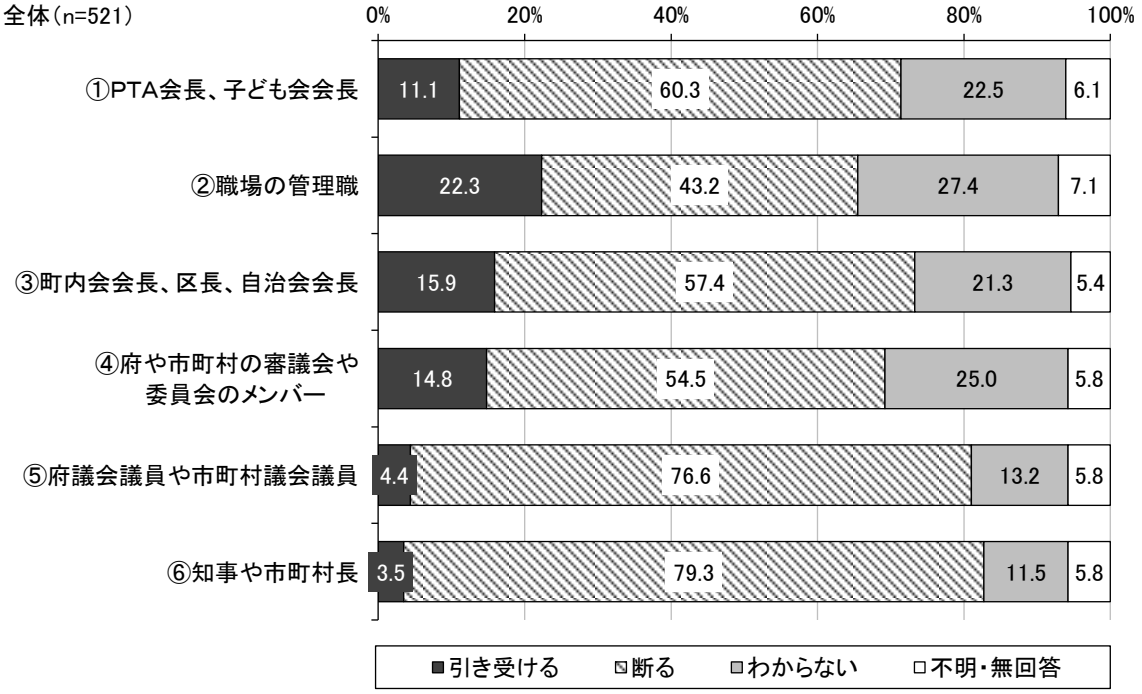
■前回調査（H29）



問９　もし、あなたが次にあげるような役職や公職に就いてほしいと依頼されたとしたらどうしますか。（①～⑥それぞれについて、○は１つずつ）

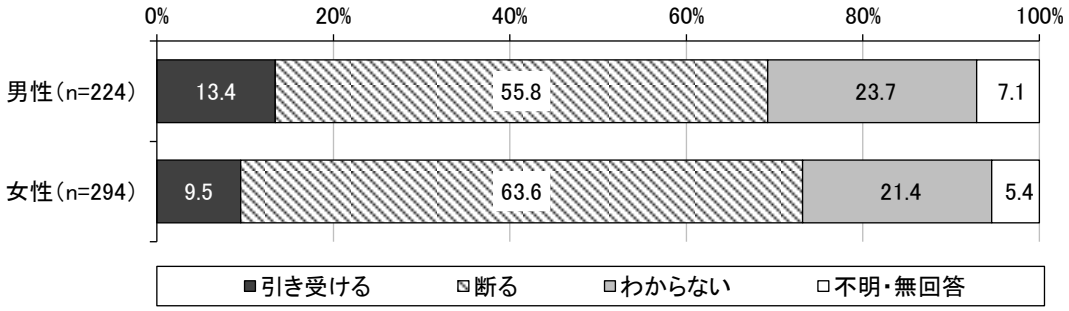
役職や公職の依頼についてみると、いずれの項目も「断る」が高く、「⑥知事や市町村長」が79.3%と最も高く、次いで「⑤府議会議員や市町村議会議員」が76.6%となっています。

また、「引き受ける」では、「②職場の管理職」が22.3%と最も高く、次いで「③町内会会長、区長、自治会会長」が15.9%なっています。



①ＰＴＡ会長、子ども会会長

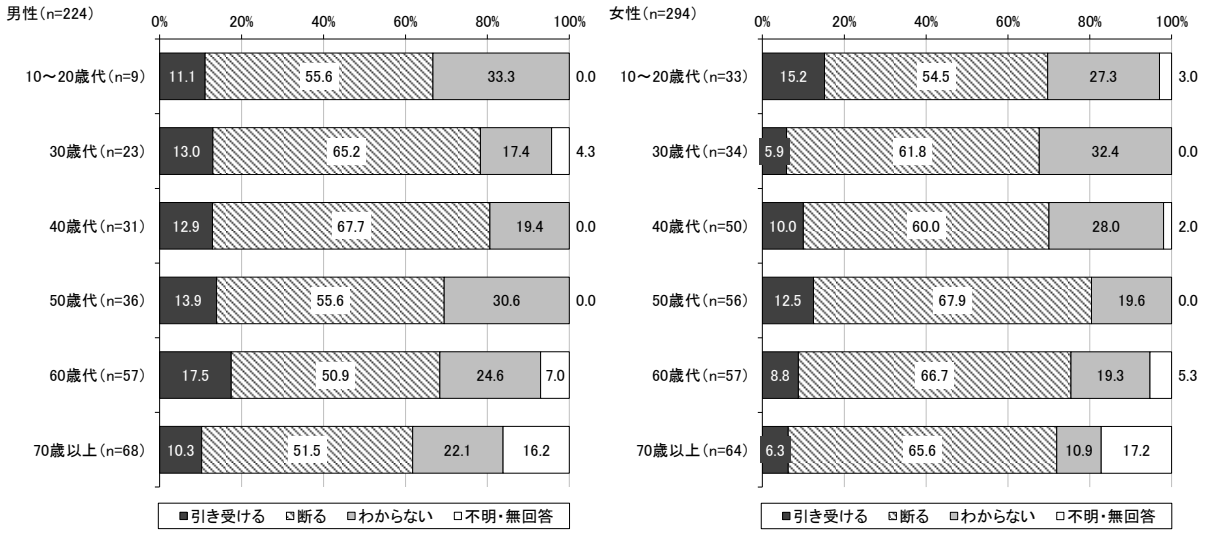
性別でみると、「引き受ける」は男性が 13.4%、女性が 9.5%となっており、「断る」は男性が 55.8%、女性は 63.6%となっています。



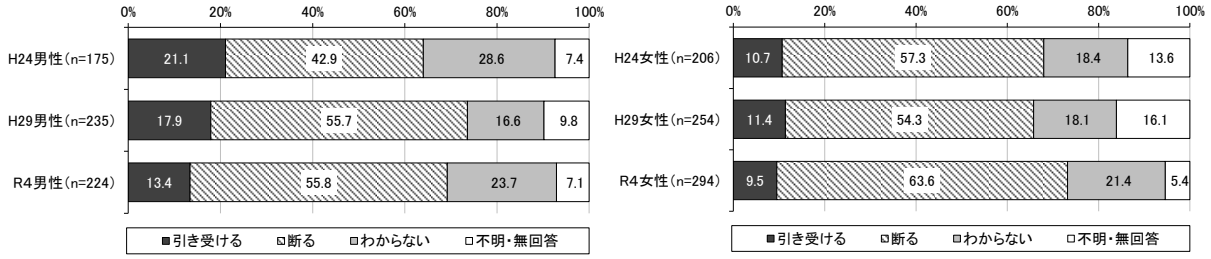
年齢別でみると、男性の「断る」は 40 歳代で 67.7%と最も高くなっており、60 歳代で 50.9%と最も低くなっています。

女性の「断る」は、50 歳代で 67.9%と最も高くなっており、10～20 歳代で 54.5%と最も低くなっています。

「引き受ける」では男性の 60 歳代で 17.5%と他と比べて高くなっています。

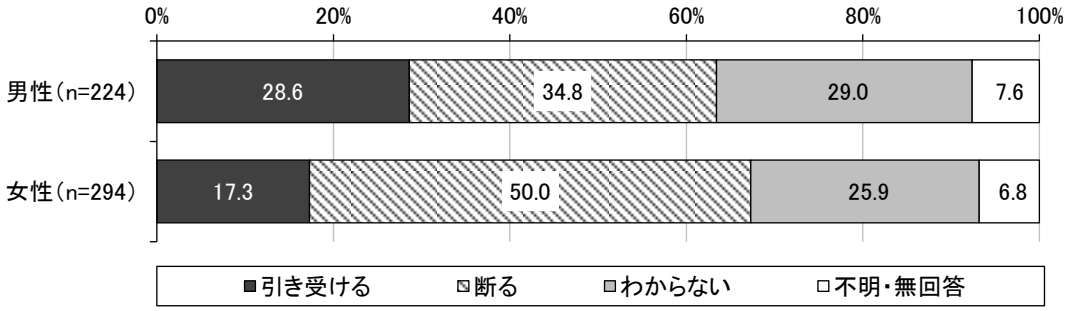


過年度調査との比較によると、男性は「引き受ける」が減少傾向にあり、女性では「断る」が増加しています。



②職場の管理職

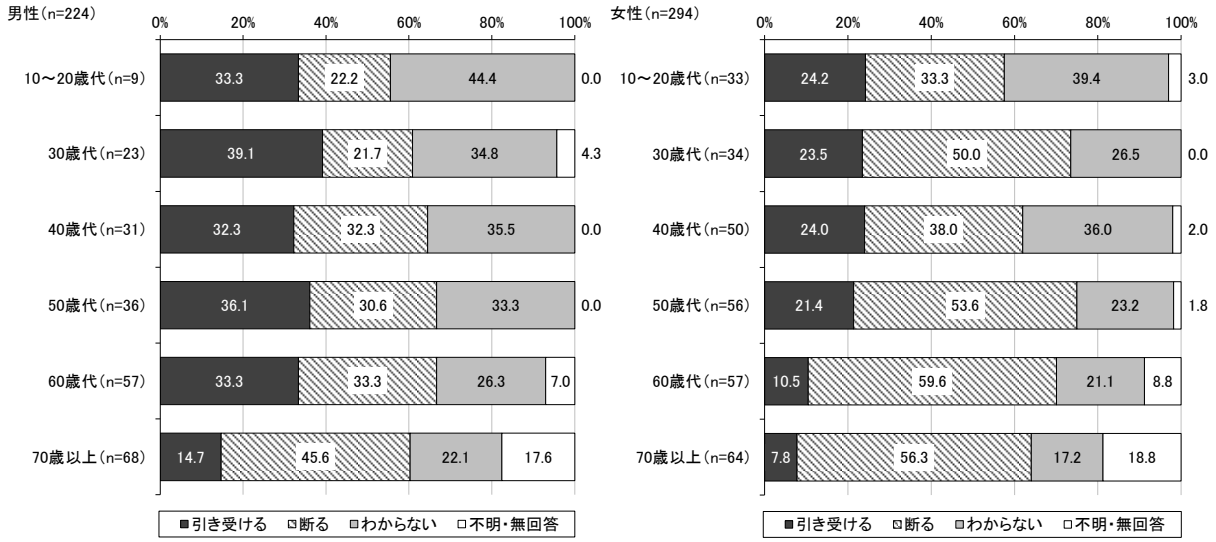
性別でみると、「引き受ける」が男性が 28.6%、女性が 17.3%となっており、「断る」は男性が 34.8%、女性は 50.0%となっています。



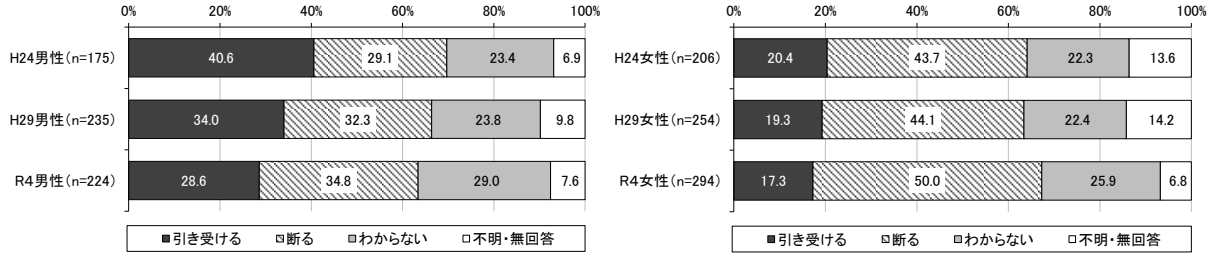
年齢別でみると、男性の「断る」は 70 歳以上で 45.6%と最も高くなっており、30 歳代で 21.7%と最も低くなっています。

女性の「断る」は、60 歳代で 59.6%と最も高くなっており、10～20 歳代で 33.3%と最も低くなっています。

「引き受ける」では男性の 30 歳代で 39.1%と他と比べて高くなっています。

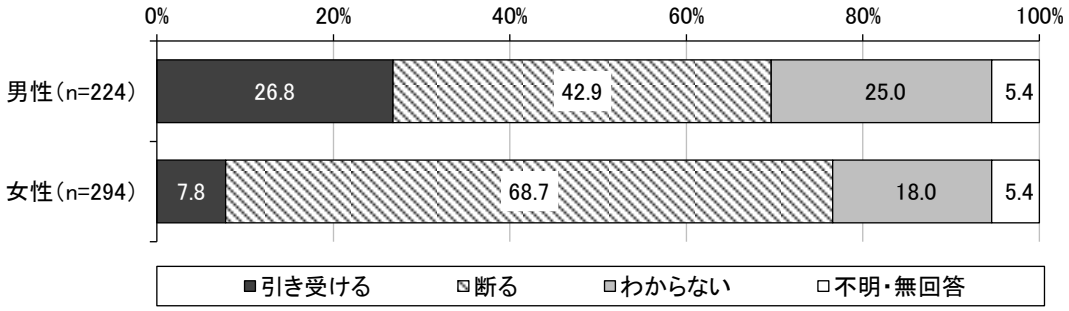


過年度調査との比較によると、男性は「引き受ける」が減少傾向にあり、「断る」が増加傾向にあります。女性では「断る」が増加傾向にあります。



③町内会会長、区長、自治会会長

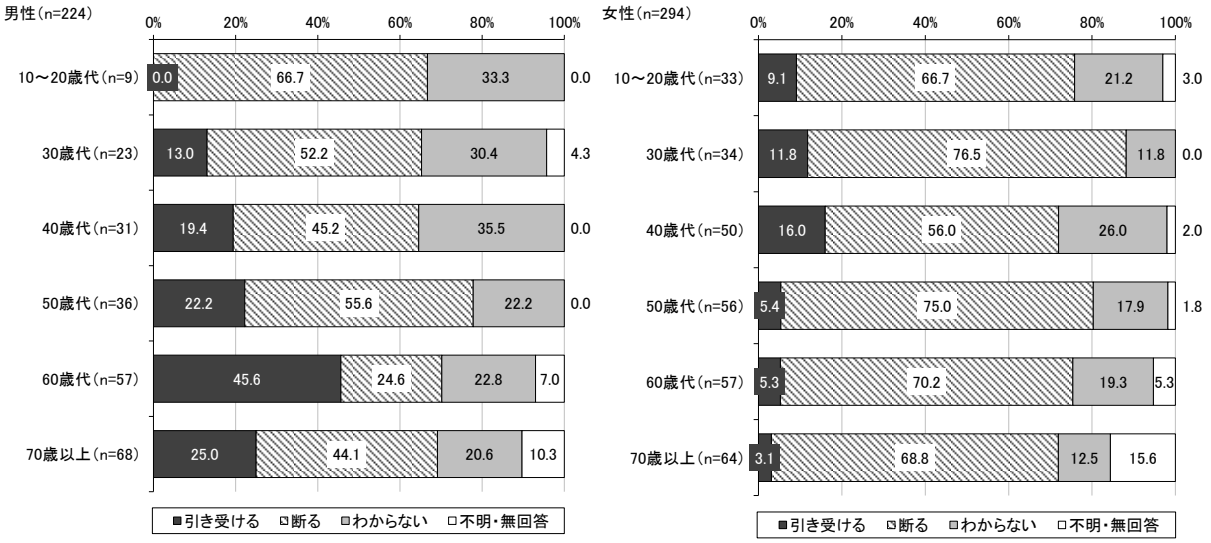
性別でみると、「引き受ける」は男性が 26.8%、女性が 7.8%となっており、「断る」は男性が 42.9%、女性が 68.7%となっています。



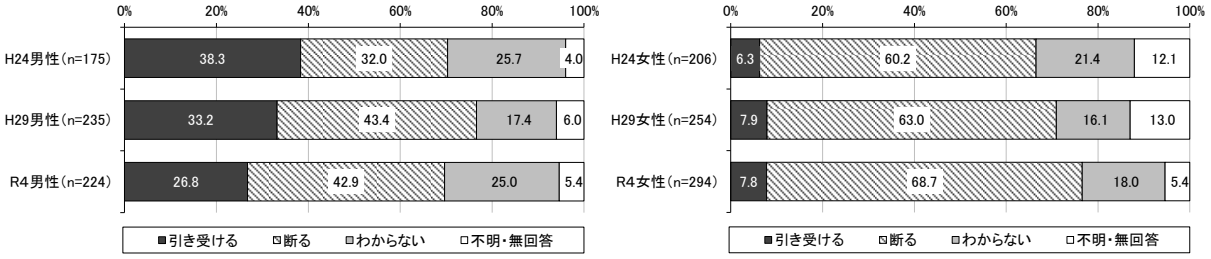
年齢別でみると、男性の「断る」は 10～20 歳代で 66.7%と最も高くなっており、60 歳代で 24.6%と最も低くなっています。

女性の「断る」は、30 歳代で 76.5%と最も高くなっており、40 歳代で 56.0%と最も低くなっています。

「引き受ける」では男性の 60 歳代で 45.6%と他と比べて高くなっています。

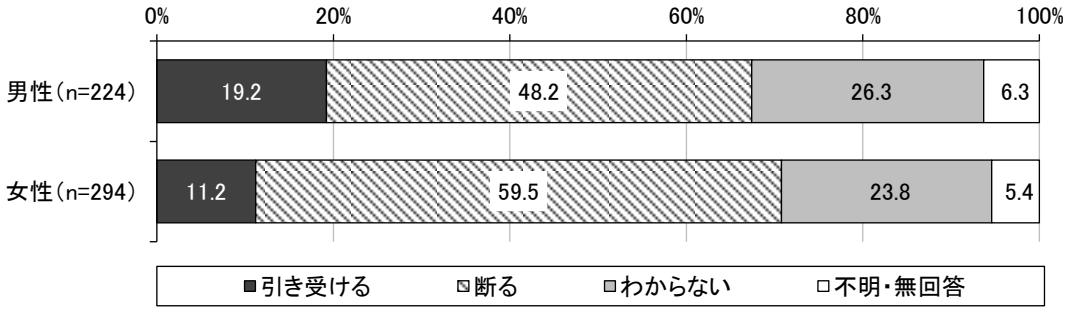


過年度調査との比較によると、男性は「引き受ける」が減少傾向にあり、女性では「断る」が増加傾向にあります。



④府や市町村の審議会や委員会のメンバー

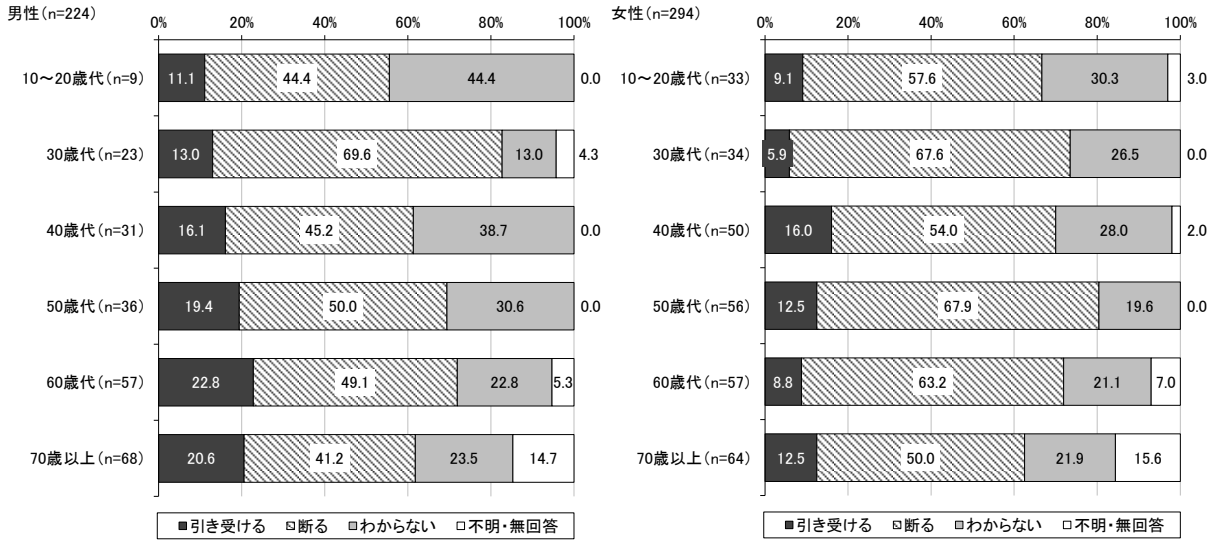
性別でみると、「引き受ける」は男性が 19.2%、女性が 11.2%、「断る」は男性が 48.2%、女性が 59.5%となっています。



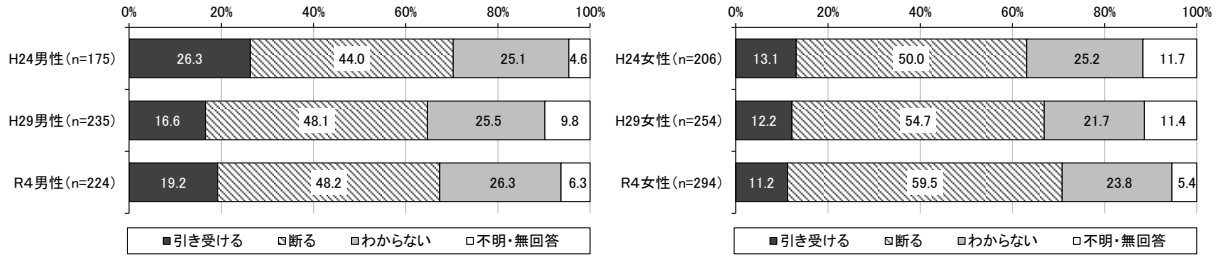
年齢別でみると、男性の「断る」は 30 歳代で 69.6%と最も高くなっており、70 歳以上で 41.2%と最も低くなっています。

女性の「断る」は、50 歳代で 67.9%と最も高くなっており、70 歳以上で 50.0%と最も低くなっています。

「引き受ける」では男性の 60 歳代で 22.8%と他と比べて高くなっています。

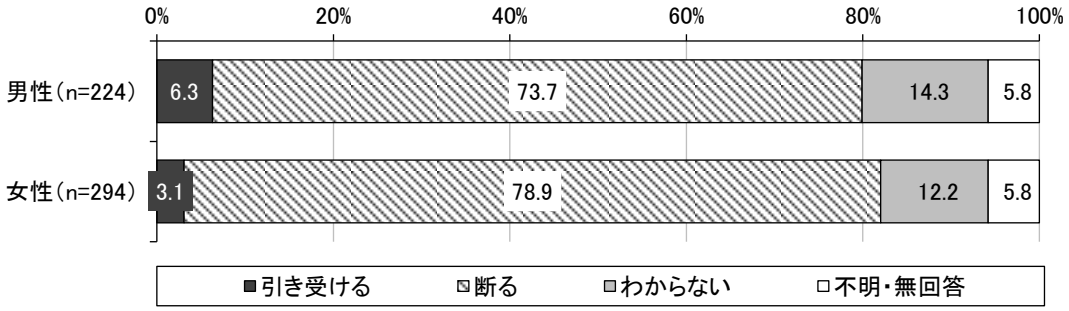


過年度調査との比較によると、男性は「引き受ける」が減少傾向にあり、女性では「断る」が増加傾向にあります。



⑤府議会議員や市町村議会議員

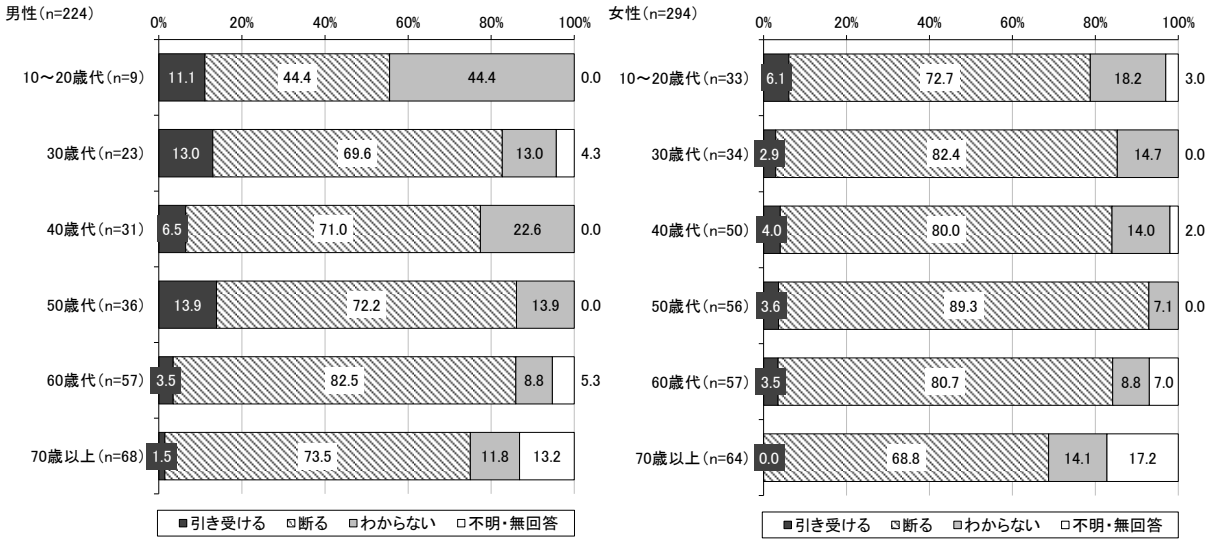
性別でみると、「引き受ける」は男性が 6.3%、女性が 3.1%、「断る」は男性が 73.7%、女性が 78.9%となっています。



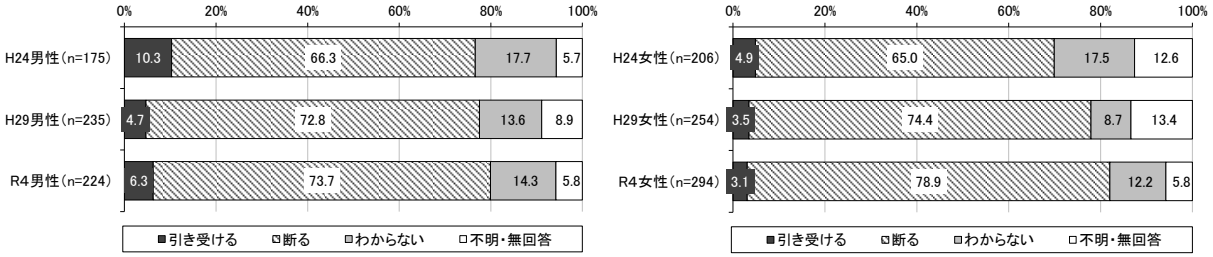
年齢別でみると、男性の「断る」は 60 歳代で 82.5%と最も高くなっており、10～20 歳代で 44.4%と最も低くなっています。

女性の「断る」は、50 歳代で 89.3%と最も高くなっており、70 歳以上で 68.8%と最も低くなっています。

「引き受ける」では男性の 50 歳代で 13.9%と他と比べて高くなっています。

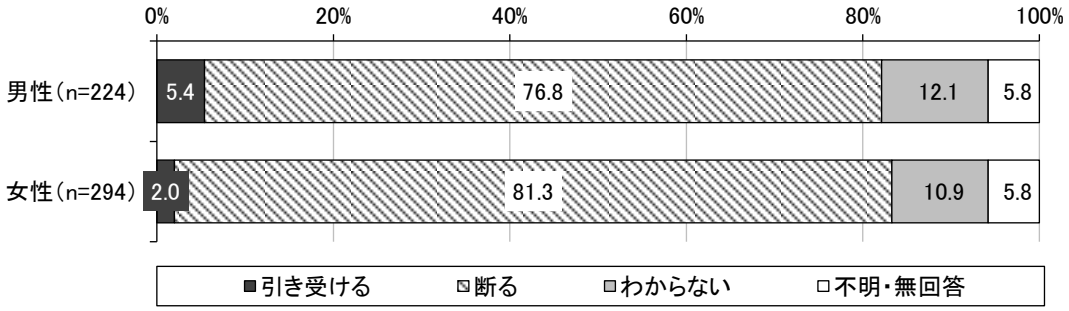


過年度調査との比較によると、女性は「引き受ける」が減少傾向にあり、「断る」が増加傾向にあります。



⑥知事や市町村長

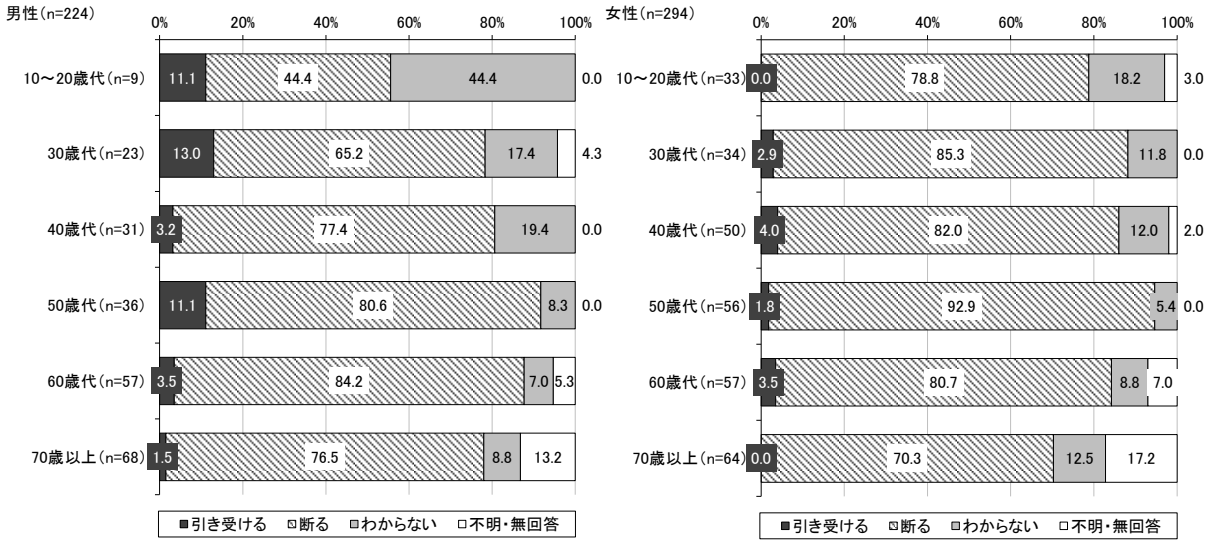
性別でみると、「引き受ける」は男性が 5.4%、女性が 2.0%、「断る」は男性が 76.8%、女性が 81.3%となっています。



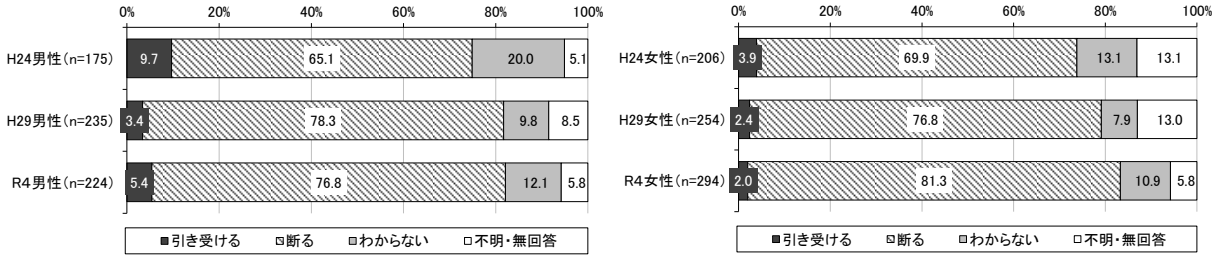
年齢別でみると、男性の「断る」は 60 歳代で 84.2%と最も高くなっており、10～20 歳代で 44.4%と最も低くなっています。

女性の「断る」は、50 歳代で 92.9%と最も高くなっており、70 歳以上で 70.3%と最も低くなっています。

「引き受ける」では男性の 30 歳代で 13.0%と他と比べて高くなっています。



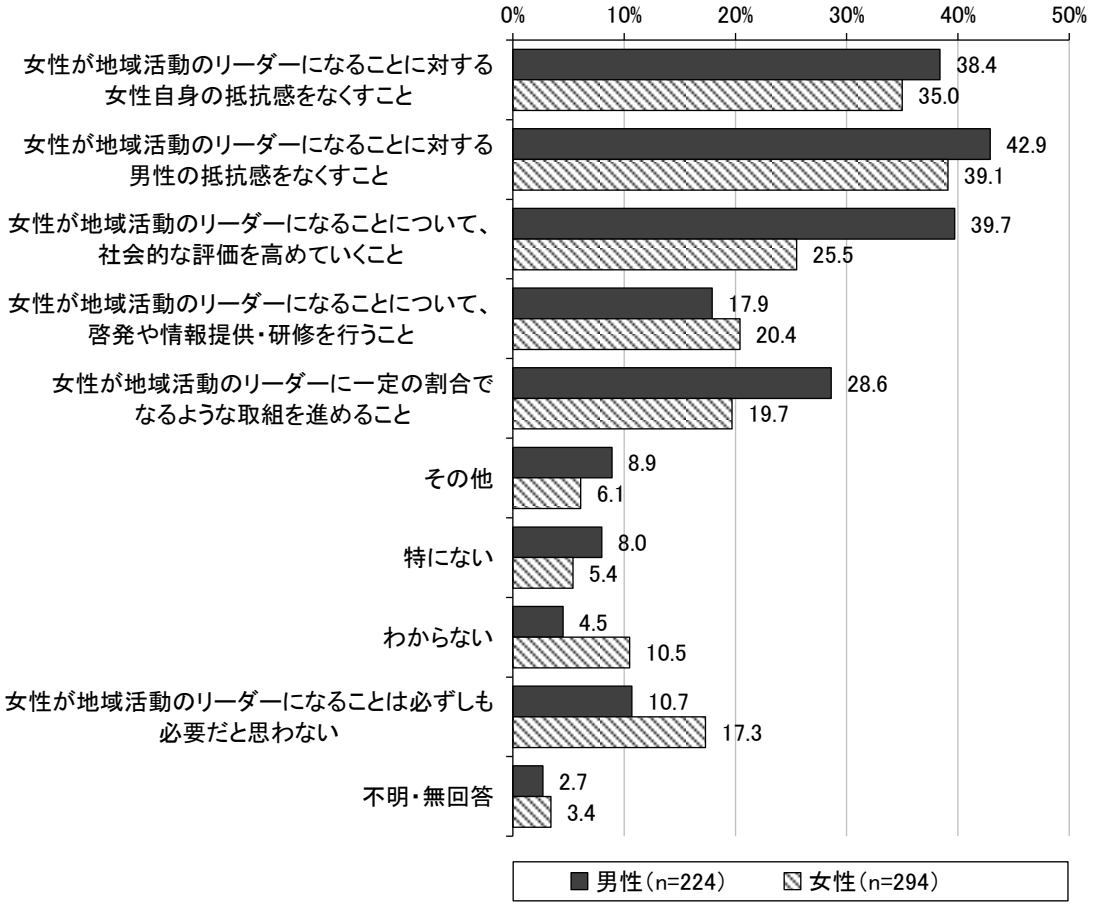
過年度調査との比較によると、女性は「引き受ける」が減少傾向にあり、「断る」が増加傾向にあります。



問 10　あなたは、女性が自治会会長やＰＴＡ会長など、地域のリーダーになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

女性が地域のリーダーになるために必要なことについてみると、男女ともに「男性の抵抗感をなくすこと」が最も高くなっており、男性が 42.9%、女性が 39.1%となっています。次いで、男性では「社会的な評価を高めていくこと」が 39.7%、「女性自身の抵抗感をなくすこと」が 38.4%となっており、女性では「女性自身の抵抗感をなくすこと」が 35.0%、「社会的な評価を高めていくこと」が 25.5%となっています。

女性と比較し、男性では「社会的な評価を高めていくこと」が 14.2 ポイント、「女性が地域活動のリーダーに一定の割合でなるような取組を進めること」が 8.9 ポイントそれぞれ高くなっています。また、男性と比較し、女性では「女性が地域活動のリーダーになることは必ずしも必要だと思わない」が 6.6 ポイント高くなっています。



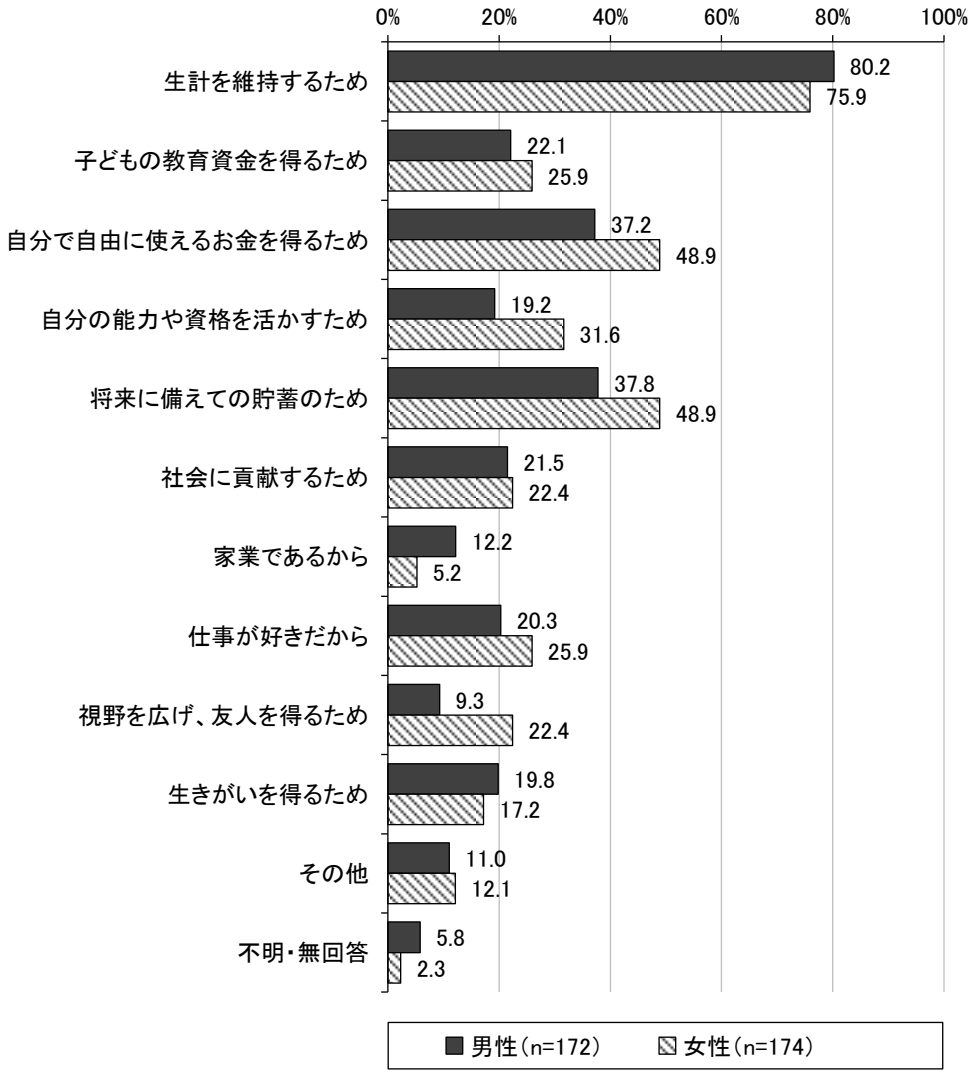
5．就労・働き方について

〔現在働いている方対象〕

問 11　あなたが働いているのは、どのような理由からですか。
（あてはまるものすべてに○）

働いている理由についてみると、男女ともに「生計を維持するため」が最も高くなっており、男性が 80.2%、女性が 75.9%となっています。次いで、男性では「将来に備えての貯蓄のため」が 37.8%、「自分で自由に使えるお金を得るため」が 37.2%となっており、女性では「自分で自由に使えるお金を得るため」「将来に備えての貯蓄のため」がそれぞれ 48.9%となっています。

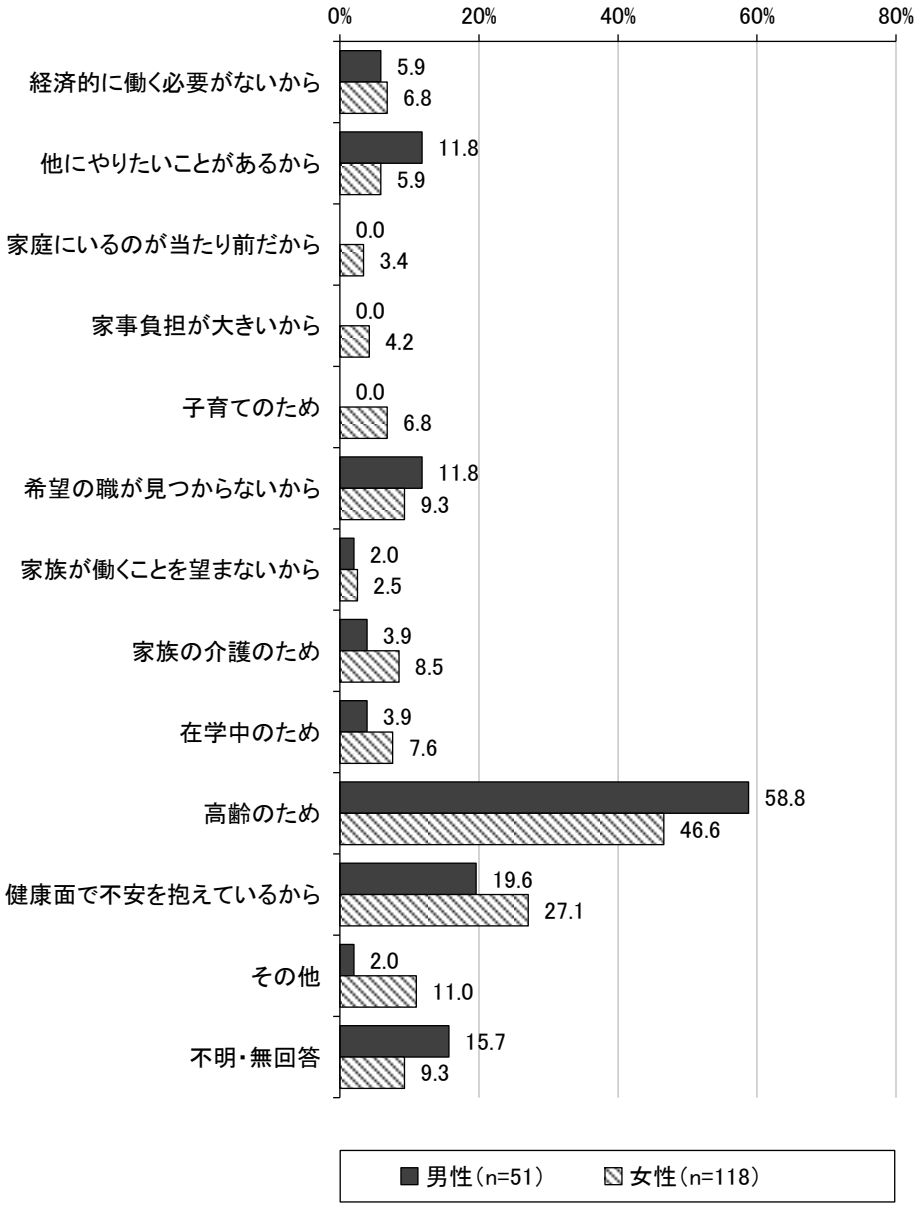
男性と比較し、女性では「自分で自由に使えるお金を得るため」「自分の能力や資格を活かすため」「将来に備えての貯蓄のため」「視野を広げ、友人を得るため」がそれぞれ 10 ポイント以上高くなっています。



〔現在働いていない方対象〕

問 12　あなたが働いていないのは、どのような理由からですか。（あてはまるものすべてに○）

働いていない理由についてみると、男女ともに「高齢のため」が最も高くなっており、男性が58.8%、女性が 46.6%となっています。次いで、「健康面で不安を抱えているから」が高くなっており、男性が 19.6%、女性が 27.1%となっています。

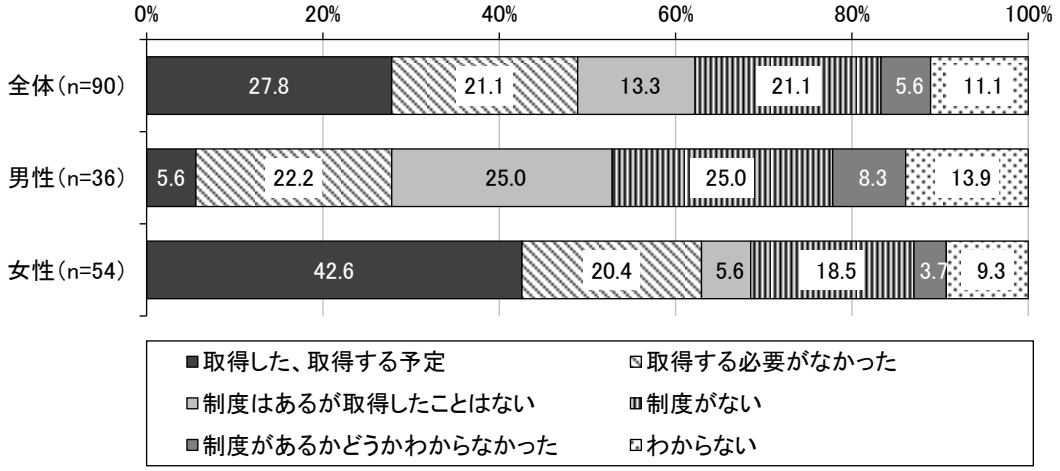


〔現在、就学前の子どもがいる方（妊娠中も含む）対象〕

問 13　あなたは、育児休業を取得されましたか。また、今後取得する予定がありますか。（○は１つだけ）

育児休業の取得についてみると、男性では「制度はあるが取得したことはない」「制度がない」がそれぞれ 25.0%と最も高くなっており、女性では「取得した、取得する予定」が 42.6%と最も高くなっています。

「取得した、取得する予定」においては、男性と比較し女性が 37.0 ポイント高くなっています。



「不明・無回答」を除く回答のみ集計

育児休暇の取得状況について、過年度調査との比較によると、平成 29 年度調査では、女性は「取得した、取得する予定」が 11 件でしたが、今回の調査では 23 件の回答がありました。「制度はあるが取得したことがない」は男女ともに減少しています。

育児休業の取得状況　平成 29 年度調査との比較

	取得した、取得する予定	制度はあるが取得したことはない
H29男性（n＝58）	2件（3.4%）	30件（51.7%）
R4男性（n＝36）	2件（5.6%）	9件（25.0%）
増減（R4−H29）	0件（2.2%）	−21件（−26.7%）

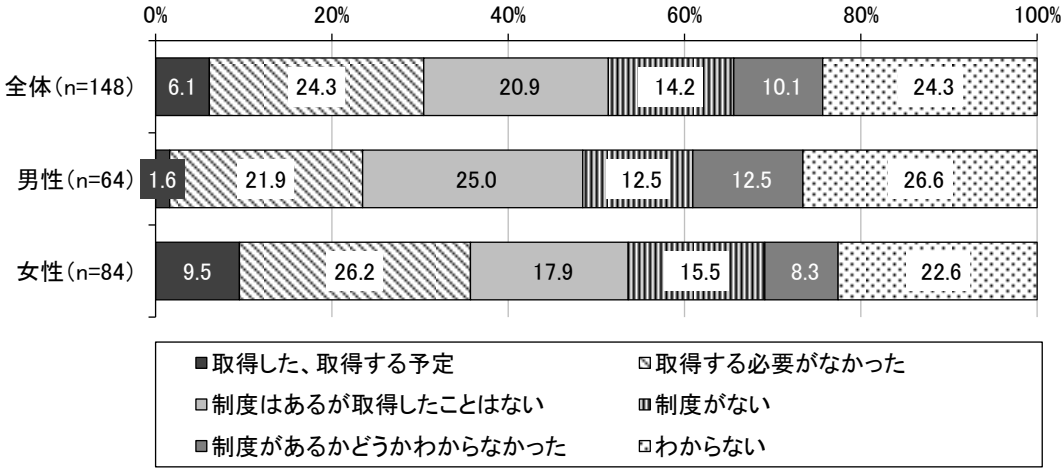
	取得した、取得する予定	制度はあるが取得したことはない
H29女性（n＝38）	11件（28.9%）	16件（42.1%）
R4女性（n＝54）	23件（42.6%）	3件（5.6%）
増減（R4−H29）	12件（13.7%）	−13件（−36.5%）

〔現在、介護の必要な親族がいる方（いた方）対象〕

問 14　あなたは、介護休業を取得されましたか。また、今後取得する予定がありますか。（○は１つだけ）

介護休業の取得についてみると、男性では「わからない」が 26.6%と最も高くなっており、女性では「取得する必要がなかった」が 26.2%と最も高くなっています。

「取得した、取得する予定」において男性と比較し、女性が 7.9 ポイント高くなっています。



※「不明・無回答」を除く回答のみ集計

介護休暇の取得状況について、過年度調査との比較によると、「取得した、取得する予定」は男性が減少、女性は変化がありませんでした。「制度はあるが取得したことがない」は男女ともに減少しています。

介護休業の取得状況　平成 29 年度調査との比較

	取得した、取得する予定	制度はあるが取得したことはない
H29男性（n＝66）	4件（6.1%）	30件（45.5%）
R4男性（n＝64）	1件（1.6%）	16件（25.0%）
増減（R4−H29）	−3件（−4.5%）	−14件（−20.5%）

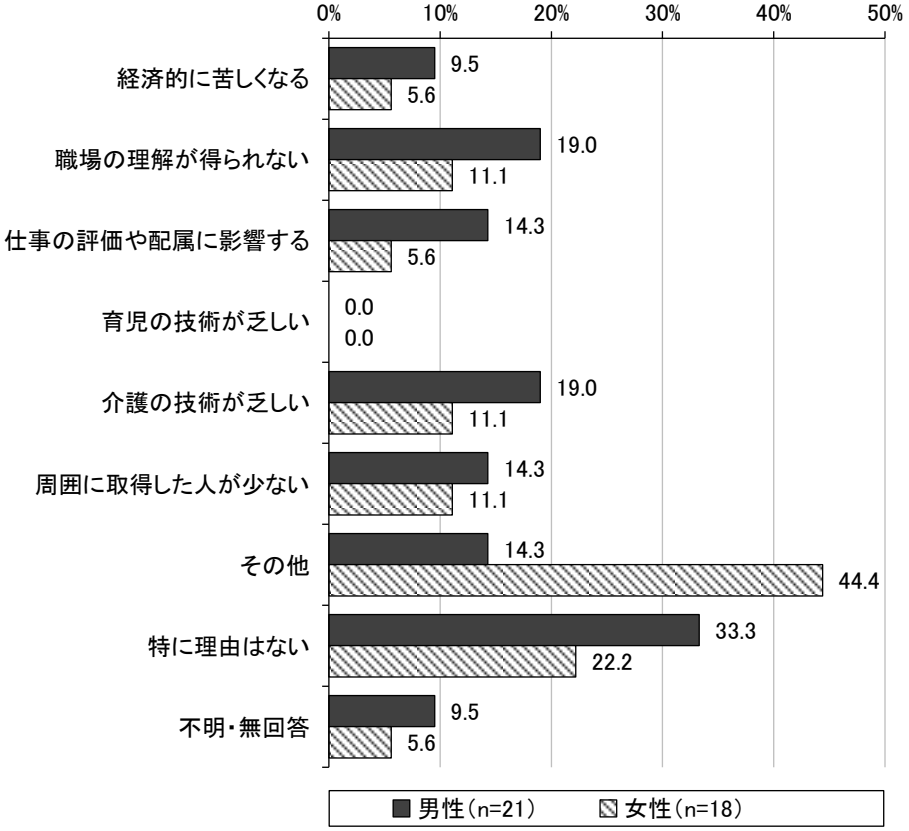
	取得した、取得する予定	制度はあるが取得したことはない
H29女性（n＝77）	8件（10.4%）	21件（27.3%）
R4女性（n＝84）	8件（9.5%）	15件（17.9%）
増減（R4−H29）	0件（−0.9%）	−6件（−9.4%）

〔問 13 もしくは問 14 で育児休業・介護休業について「２．制度はあるが取得したことはない」と答えた方対象〕

問 15　それはどのような理由からですか。（あてはまるものすべてに○）

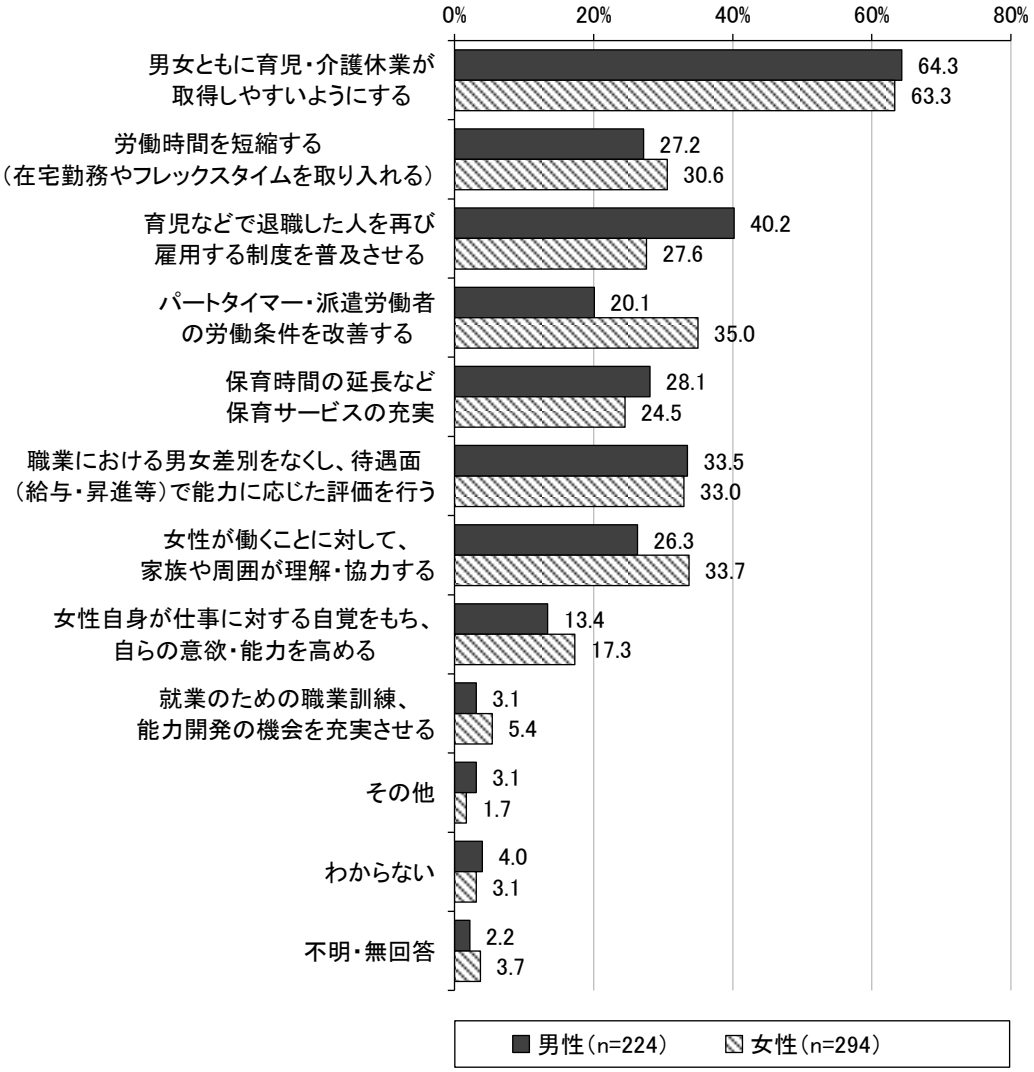
制度はあるが取得したことはない理由についてみると、男性は「特に理由はない」が 33.3%と最も高くなっており、女性では「その他」が 44.4%と最も高くなっています。

主な「その他」の回答としては、「専業主婦のため」や「職場に迷惑をかけるから」などが挙げられています。



問 16　あなたは、女性が働き続けるためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。（○は３つまで）

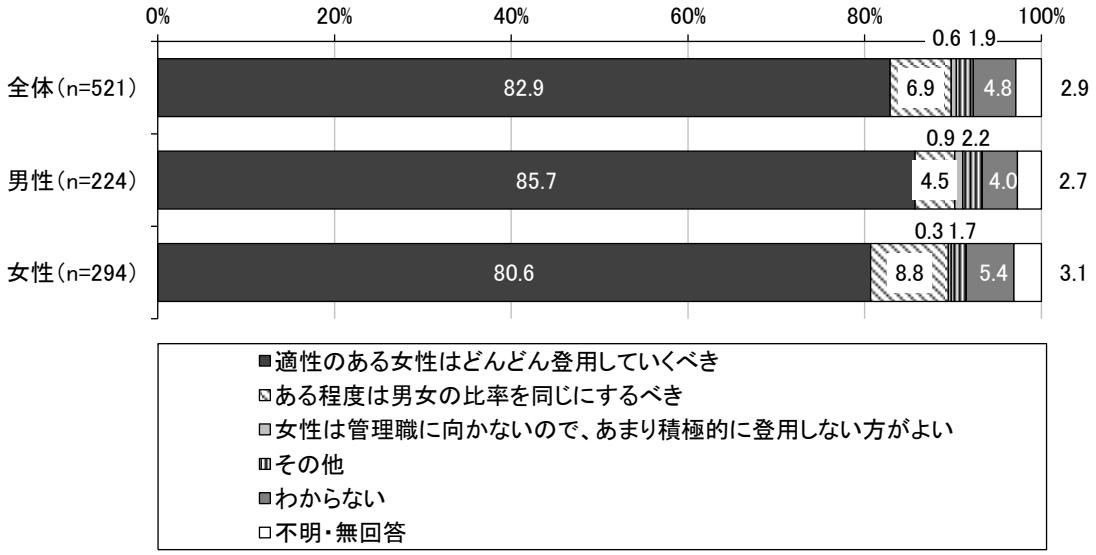
女性が働き続けるために必要なことについてみると、男女ともに「男女ともに育児・介護休業が取得しやすいようにする」が最も高くなっており、男性が 64.3%、女性が 63.3%となっています。次いで、男性は「育児などで退職した人を再び雇用する制度を普及させる」が 40.2%、「職業における男女差別をなくし、待遇面（給与・昇進等）で能力に応じた評価を行う」が 33.5%、女性は「パートタイマー・派遣労働者の労働条件を改善する」が 35.0%、「女性が働くことに対して、家族や周囲が理解・協力する」が 33.7%となっています。



問 17　女性の管理職の登用についてあなたはどう思いますか（○は１つだけ）

女性の管理職登用について思うことについてみると、男女ともに「適性のある女性はどんどん登用していくべき」が最も高くなっており、男性で 85.7%、女性で 80.6%となっています。

「ある程度は男女の比率を同じにするべき」において男性と比較し、女性が 4.3 ポイント高くなっています。



６．生活全般について

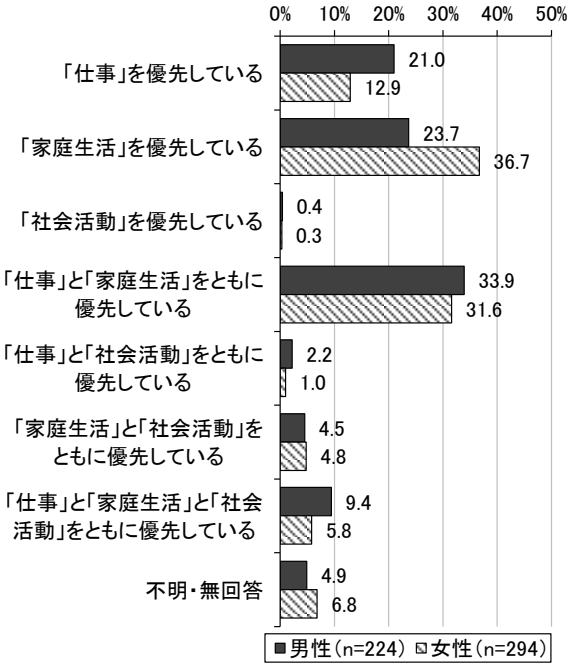
問 18　あなたの実際の生活は、次のどれにあてはまりますか。（○は１つだけ）
問 19　あなたの理想の生活は、次のどれにあてはまりますか。（○は１つだけ）

実際の生活については、男性は『「仕事」と「家庭生活」をともに優先している』が 33.9%と最も高く、次いで『「家庭生活」を優先している』が 23.7%となっています。女性は『「家庭生活」優先している』が 36.7%と最も高く、次いで『「仕事」と「家庭生活」をともに優先している』が 31.6%となっています。『「仕事」を優先している』は男性が女性を 8.1 ポイント上回り、『「家庭生活」を優先している』は、女性が男性を 13.0 ポイント上回っています。

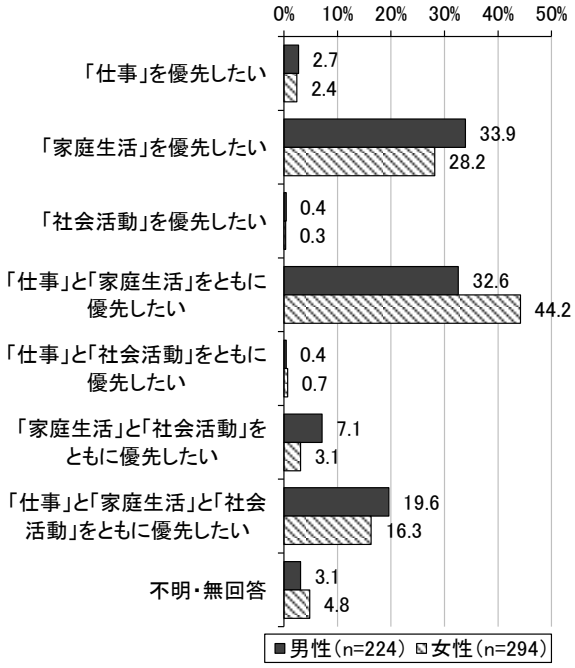
理想の生活については、男性は『「家庭生活」を優先したい』が 33.9%と最も高く、次いで『「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい』が 32.6%となっています。女性は『「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい』が 44.2%と最も高く、次いで『「家庭生活」を優先したい』が 28.2%となっています。

『「家庭生活」を優先したい』は男性が女性を 5.7 ポイント上回り、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい』は、女性が男性を 11.6 ポイント上回っています。

実際

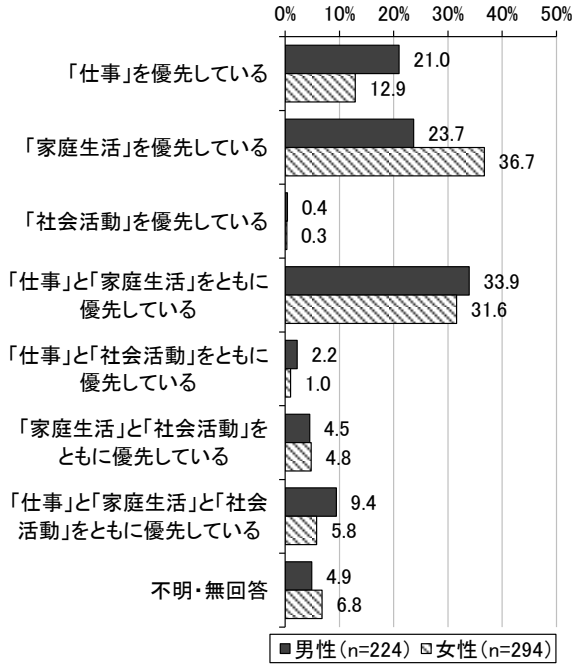


理想

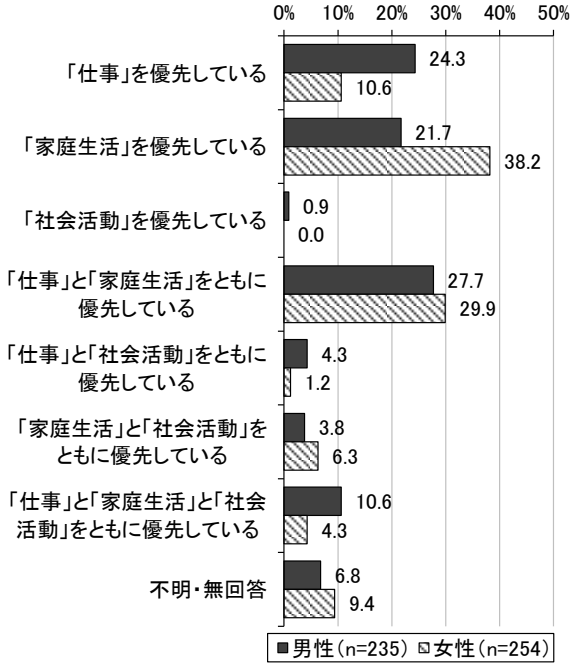


実際の生活について、前回調査との比較によると、男女ともに『「仕事」と「家庭生活」をともに優先している』が増加しており、『「仕事」と「社会活動」をともに優先している』が減少しています。

R４実際

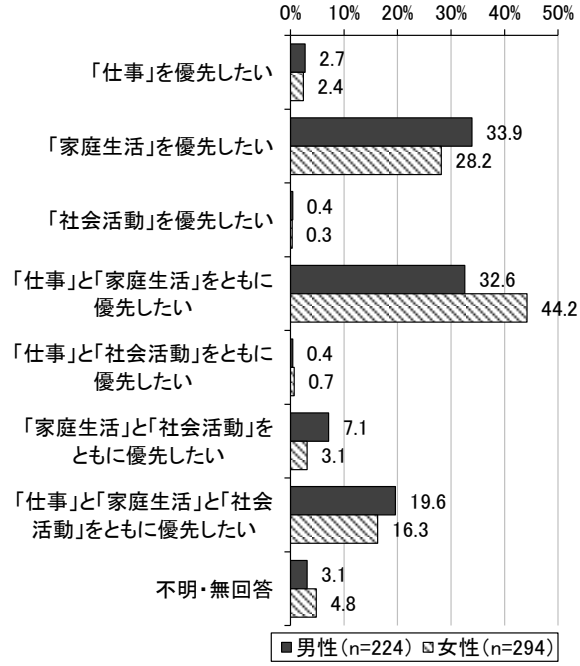


H29 実際

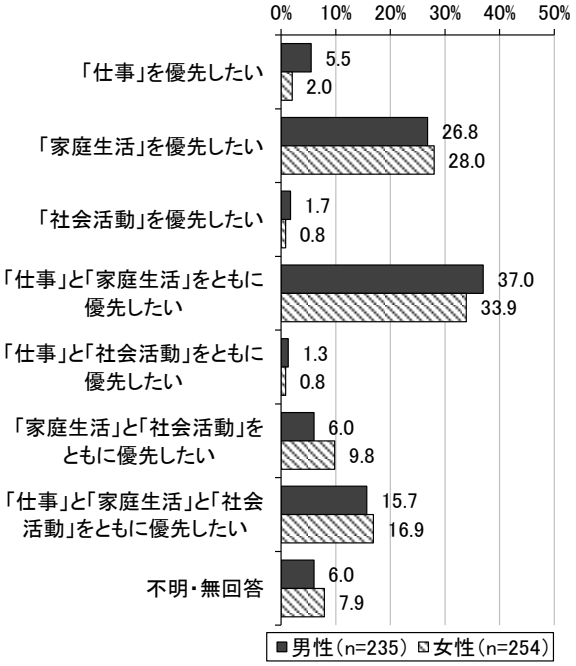


理想の生活について、前回調査との比較によると、男女ともに『「家庭生活」を優先したい』が増加しており、『「社会活動」を優先したい』『「仕事」と「社会活動」をともに優先したい』が減少しています。また、女性は『「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい』が 10.3 ポイント増加しています。

R４理想



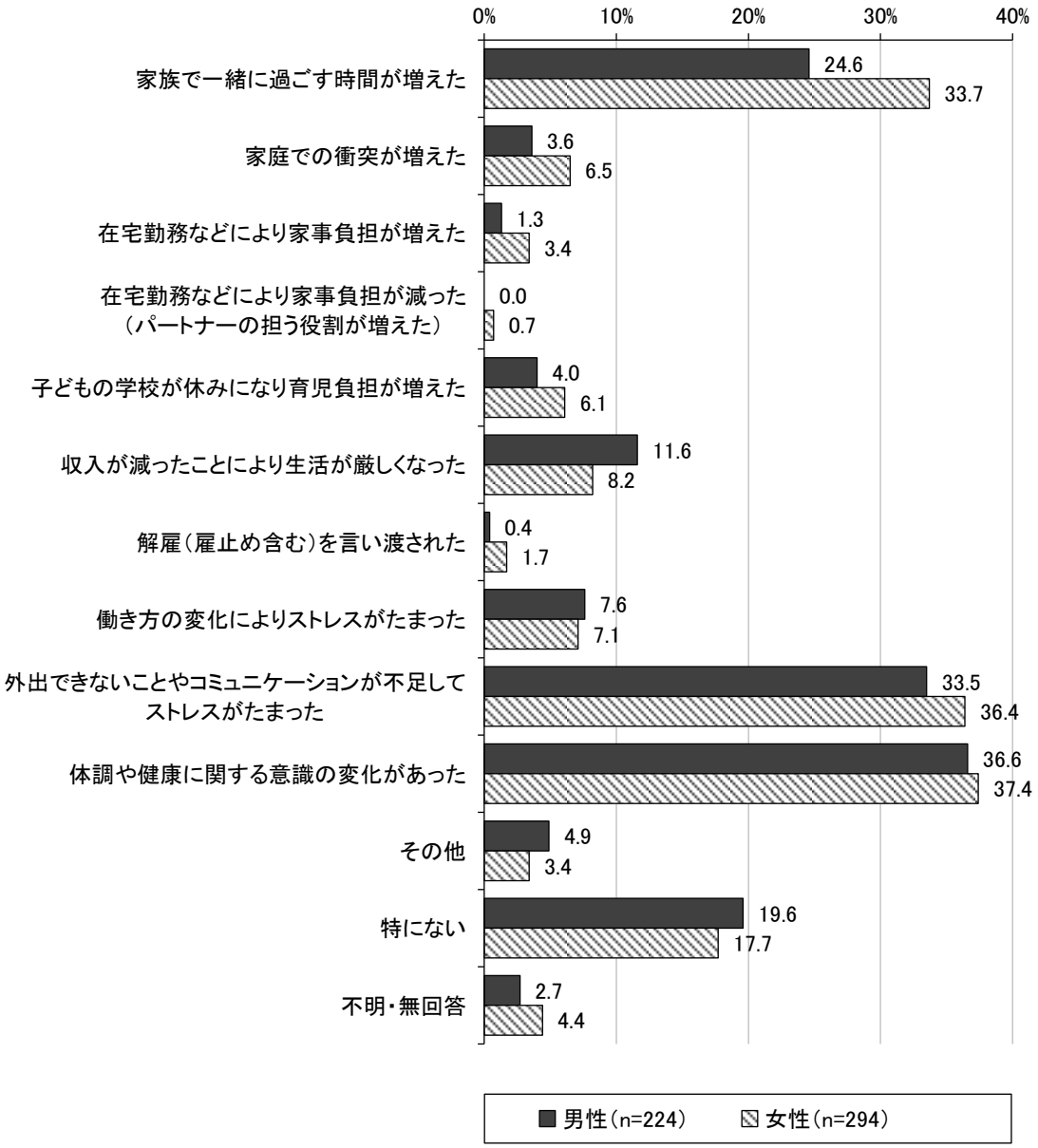
H29 理想



問 20　新型コロナウイルス感染症拡大による自粛期間などについて、あなたは次のようなことがありましたか。（あてはまるものすべてに○）

新型コロナウイルス感染症拡大による自粛期間の状況についてみると、男女ともに「体調や健康に関する意識の変化があった」が最も高くなっており、男性が 36.6%、女性が 37.4%となっています。次いで「外出できないことやコミュニケーションが不足してストレスがたまった」が男性で 33.5%、女性で 36.4%、「家族で一緒に過ごす時間が増えた」が男性で 24.6%、女性で 33.7%となっています。

また、男性と比較し、女性では「家族で一緒に過ごす時間が増えた」が 9.1 ポイント高くなっています。

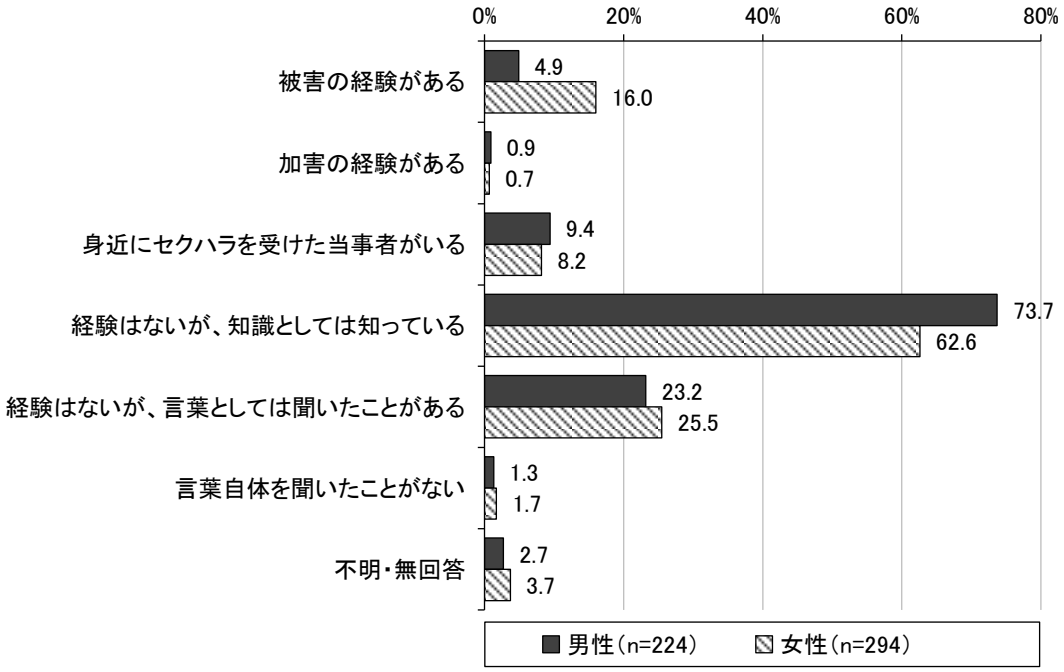


7．人権について

問 21　セクシュアル・ハラスメント（セクハラ・性的嫌がらせ）に関して、あなたは経験したり、見聞きしたことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

セクハラを経験したり見聞きしたかについてみると、男女ともに「経験はないが、知識としては知っている」が最も高くなっており、男性が 73.7%、女性が 62.6%となっています。次いで「経験はないが、言葉としては聞いたことがある」が男性で 23.2%、女性で 25.5%となっています。

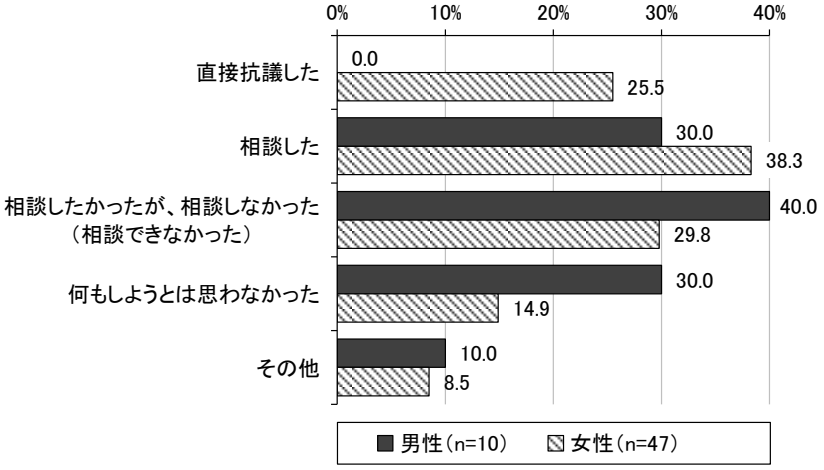
また、「被害の経験はある」は男性が 4.9%に対して、女性が 16.0%と高くなっています。



〔問 21 で「１．被害の経験がある」と答えた方対象〕

問 22　あなたはどのような対応をしましたか。（あてはまるものすべてに○）

被害を受けた際の対応についてみると、男性は「相談したかったが、相談しなかった（相談できなかった）」が 40.0%と最も高くなっており、女性は「相談した」が 38.3%と最も高くなっています。

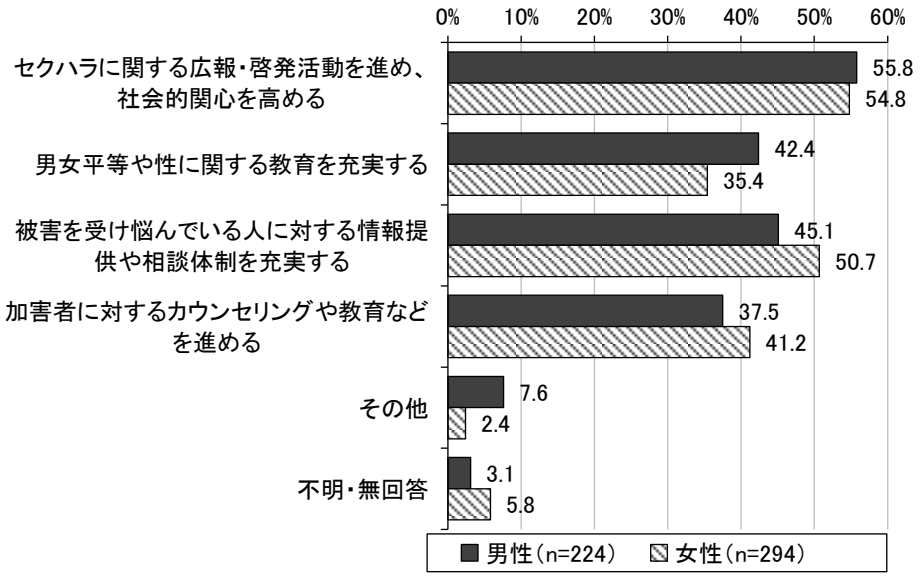


平成 29 年度調査との比較

	直接抗議した	相談した	相談したかったが、相談しなかった（相談できなかった）	何もしようとは思わなかった	その他
H29男性（n＝4）	－ －	1件 （25.0%）	－ －	2件 （50.0%）	1件 （25.0%）
R4 男性（n＝10）	－ －	3件 （30.0%）	4件 （40.0%）	3件 （30.0%）	1件 （10.0%）
H29女性（n＝38）	11件 （28.9%）	12件 （31.6%）	10件 （26.3%）	6件 （15.8%）	4件 （10.5%）
R4 女性（n＝47）	12件 （25.5%）	18件 （38.3%）	14件 （29.8%）	7件 （14.9%）	4件 （8.5%）

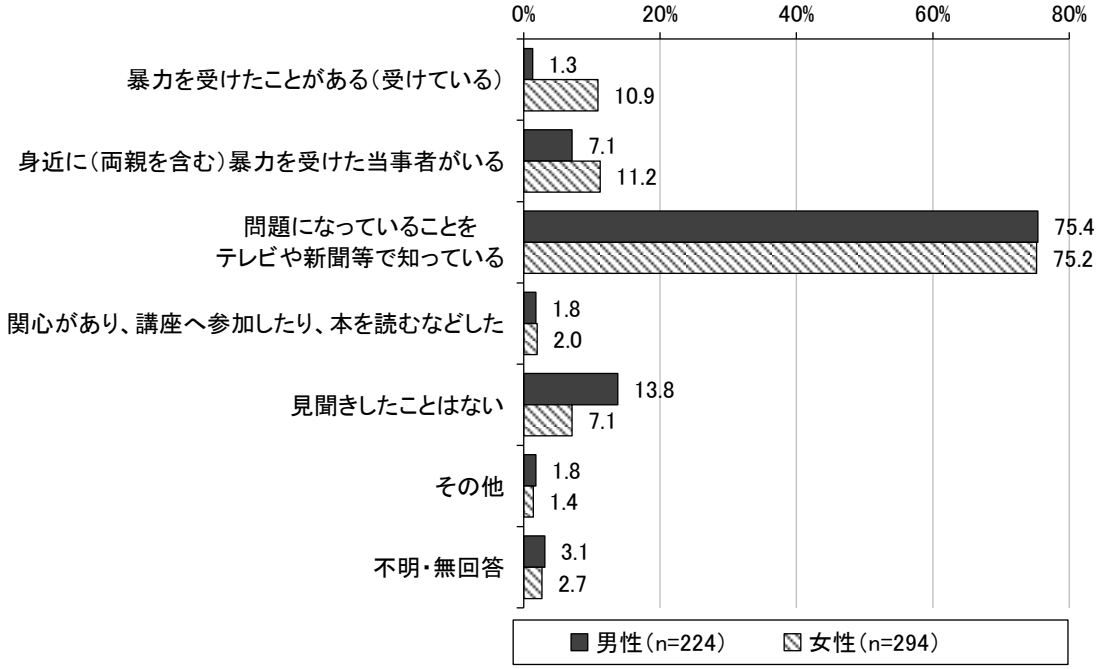
問 23　セクハラをなくすためには、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

セクハラをなくすために必要なことについてみると、男女ともに「セクハラに関する広報・啓発活動を進め、社会的関心を高める」が最も高くなっており、男性が 55.8%、女性が 54.8%となっています。次いで、「被害を受け悩んでいる人に対する情報提供や相談体制を充実する」が高くなっており、男性が 45.1%、女性が 50.7%となっています。



問 24　ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）※を経験したり、見聞きしたことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

ドメスティック・バイオレンスを経験したり見聞きしたかについてみると、男女ともに「問題になっていることをテレビや新聞等で知っている」が最も高くなっており、男性が 75.4%、女性が 75.2%となっています。また、「暴力を受けたことがある（受けている）」は男性の 1.3%に対して、女性が 10.9%と高くなっています。



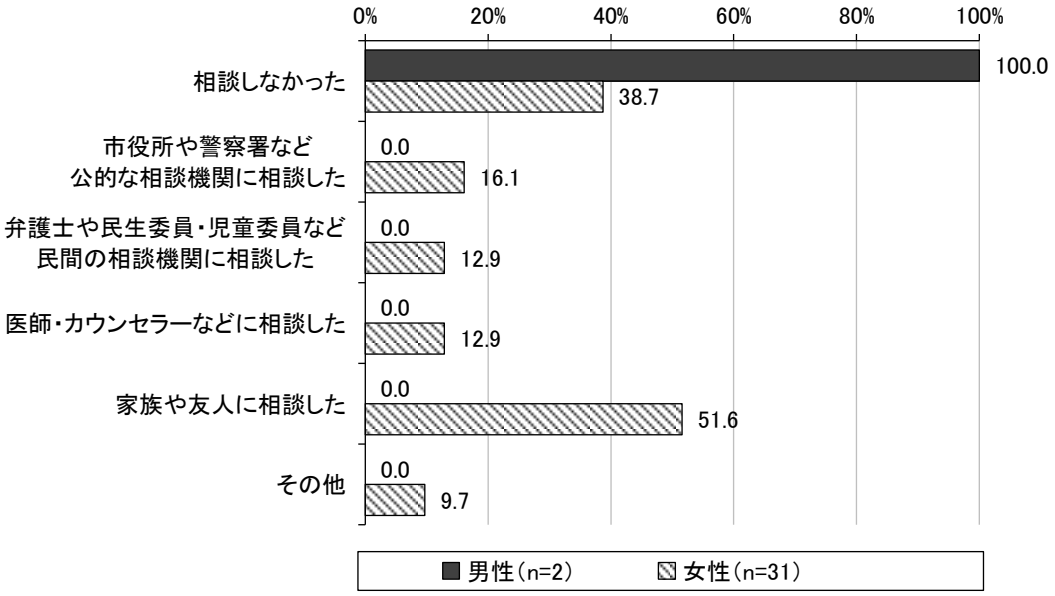
※ドメスティック・バイオレンスとは、夫婦や恋人など親しい関係にある（あった）者から振るわれる暴力のことであり、身体的・性的なものだけでなく、心理的・経済的なものなども含まれます。

〔問 24 で「１．暴力を受けたことがある（受けている）」と答えた方対象〕

問 25　ドメスティック・バイオレンスについて、あなたはだれかに打ち明けたり相談したりしましたか。（あてはまるものすべてに○）

被害時の相談相手についてみると、男性は「相談しなかった」が 100.0%となっています。女性は「家族や友人に相談した」が 51.6%と最も高く、次いで「相談しなかった」が 38.7%となっています。

前回調査との比較によると、被害件数は、男性は５件から２件に減少していますが、女性は 14 件から 31 件に増加しています。



平成 29 年度調査との比較

	相談しなかった	市役所や警察署など公的な相談機関に相談した	弁護士や民生委員・児童委員など民間の相談機関に相談した	医師・カウンセラーなどに相談した	家族や友人に相談した	その他
H29男性（n＝5）	4件　（80.0%）	－　－	－　－	－　－	1件　（20.0%）	1件　（20.0%）
R4 男性（n＝2）	2件　（100.0%）	－　－	－　－	－　－	－　－	－　－
H29女性（n＝14）	4件　（28.6%）	1件　（7.1%）	1件　（7.1%）	3件　（21.4%）	6件　（42.9%）	1件　（7.1%）
R4 女性（n＝31）	12件　（38.7%）	5件　（16.1%）	4件　（12.9%）	4件　（12.9%）	16件　（51.6%）	3件　（9.7%）

〔問 25 で「１．相談しなかった」と答えた方対象〕

問 26　相談しなかったのは、なぜですか。（あてはまるものすべてに○）

相談しなかった理由についてみると、男性は「どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから」と「相談しても無駄だと思ったから」に１件ずつ回答があり、女性は「相談しても無駄だと思ったから」が６件と最も多く、次いで「どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから」「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」がそれぞれ３件となっています。

上段:件数 下段:%	合計	どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから	恥ずかしくてだれにも言えなかったから	相談しても無駄だと思ったから	相談したことがわかると、仕返しや、もっとひどい暴力を受けると思ったから	加害者に「だれにも言うな」とおどされたから	相談相手の態度や言動によって不快な思いをさせられると思ったから
全体	13	4	2	7	1	－	－
	100.0	30.8	15.4	53.8	7.7	－	－
男性	2	1	－	1	－	－	－
	100.0	50.0	－	50.0	－	－	－
女性	11	3	2	6	1	－	－
	100.0	27.3	18.2	54.5	9.1	－	－

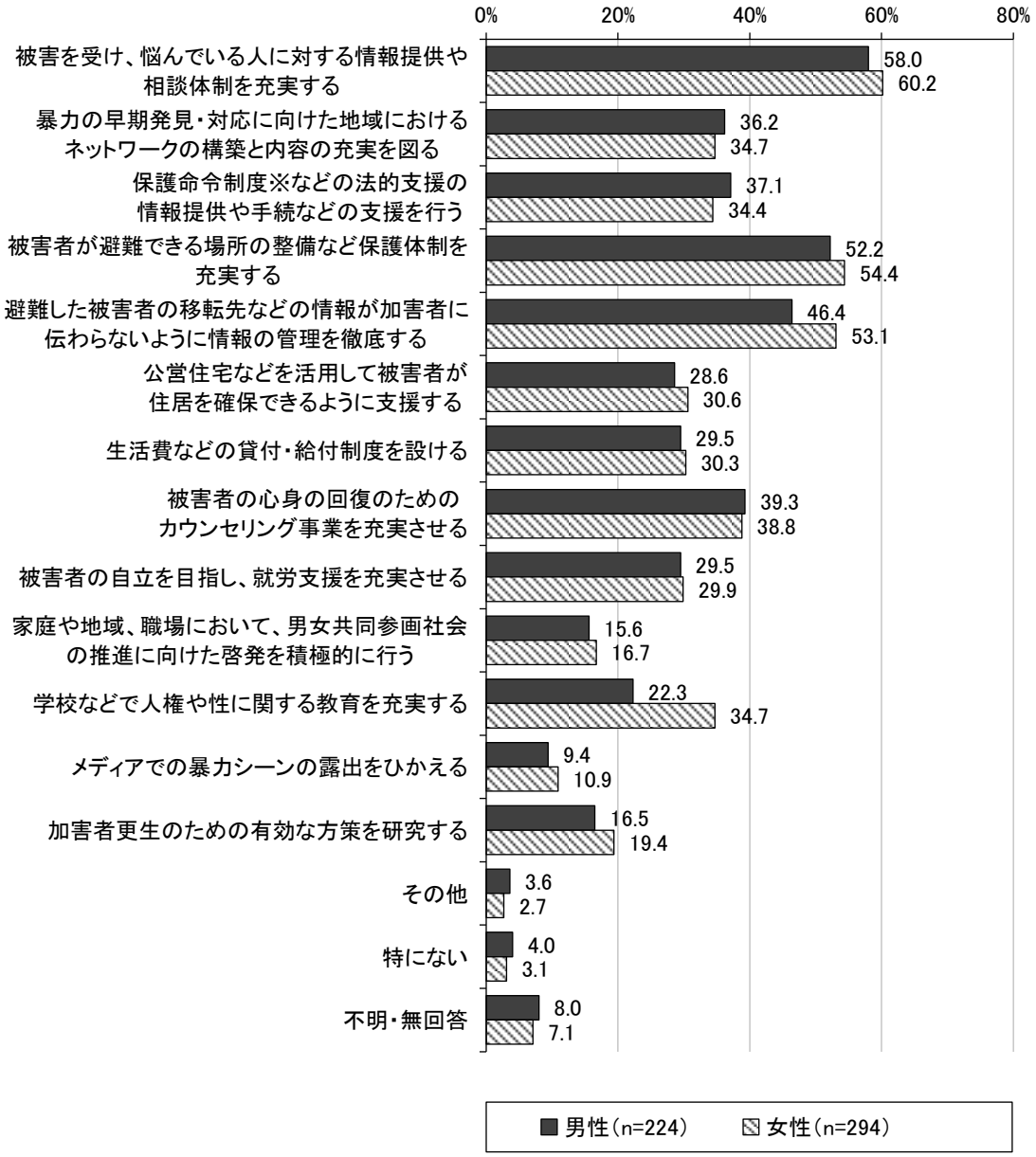
上段:件数 下段:%	合計	自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	子どもに危害が及ぶと思ったから	世間体が悪いから	他人を巻き込みたくなかったから	他人に知られると、これまでどおりの付き合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから	そのことについて思い出したくなかったから
全体	13	3	－	1	1	1	1
	100.0	23.1	－	7.7	7.7	7.7	7.7
男性	2	－	－	－	－	－	－
	100.0	－	－	－	－	－	－
女性	11	3	－	1	1	1	1
	100.0	27.3	－	9.1	9.1	9.1	9.1

上段:件数 下段:%	合計	自分にも悪いところがあると思ったから	相手の行為は愛情の表現だと思ったから	相談するほどのことではないと思ったから	その他	不明・無回答
全体	13	2	－	2	1	－
	100.0	15.4	－	15.4	7.7	－
男性	2	－	－	－	－	－
	100.0	－	－	－	－	－
女性	11	2	－	2	1	－
	100.0	18.2	－	18.2	9.1	－

問 27　あなたは、配偶者や交際相手などからの暴力の防止や被害者支援のために、特にどのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

暴力防止や被害者支援のために必要なことについてみると、男女ともに「被害を受け、悩んでいる人に対する情報提供や相談体制を充実する」が最も高く、男性が 58.0%、女性が 60.2%となっています。次いで、「被害者が避難できる場所の整備など保護体制を充実する」が高くなっており、男性が 52.2%、女性が 54.4%となっています。

また、男性と比較し、女性では「学校などで人権や性に関する教育を充実する」が 12.4 ポイント高くなっています。

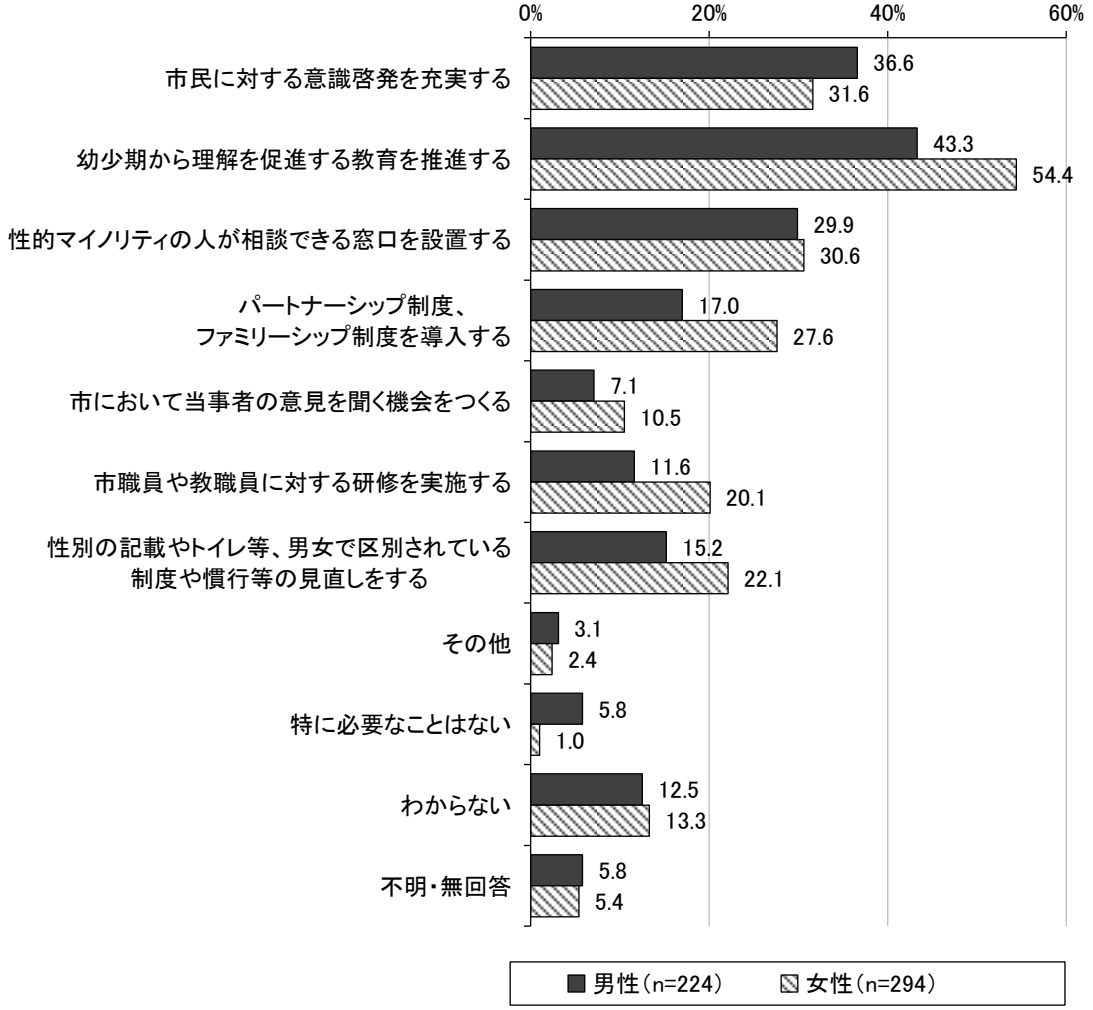


※保護命令とは、被害者の申立てにより裁判所が加害者（相手側）に出す命令のこと

問 28　あなたは、性的マイノリティ（ＬＧＢＴＱ）※の人たちも暮らしやすい社会をつくるためには、どのような意識啓発や取り組みが必要だと思いますか。（○は３つまで）

性的マイノリティの意識啓発や取り組みに必要なことについてみると、男女ともに「幼少期から理解を促進する教育を推進する」が最も高く、男性が 43.3%、女性が 54.4%となっています。次いで、「市民に対する意識啓発を充実する」が高くなっており、男性が 36.6%、女性が 31.6%となっています。

また、男性と比較し、女性では「幼少期から理解を促進する教育を推進する」「パートナーシップ制度、ファミリーシップ制度を導入する」において 10 ポイント以上高くなっています。



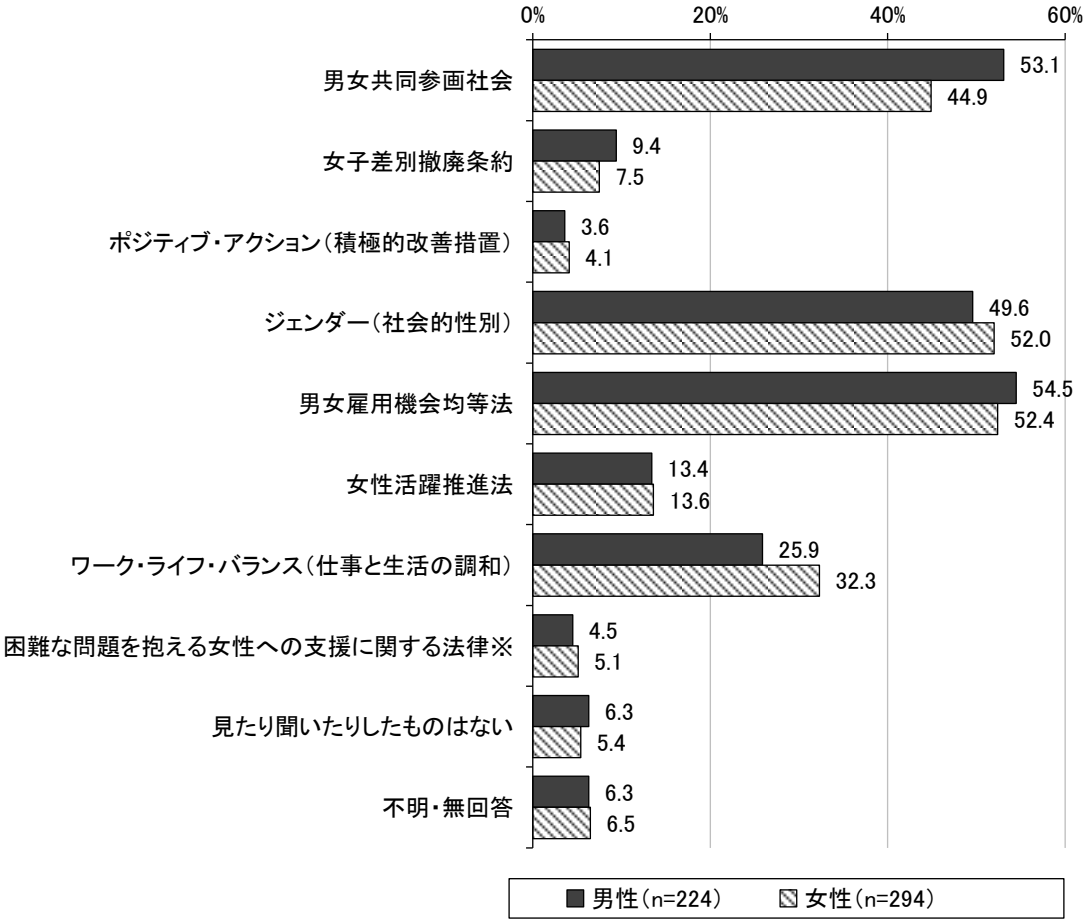
※人の「性」は、「体の性：生物学的性」、「心の性：性自認」、「好きになる性：恋愛対象」、「表現する性：服装等」からなり、性的マイノリティとは、「性」の在り方が社会的に少数派になる人のことを指します。

８．男女共同参画社会について

問 29　次にあげる言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものはどれですか。（あてはまるものすべてに○）

見聞きした項目についてみると、男女ともに「男女雇用機会均等法」が最も高くなっており、男性が 54.5%、女性が 52.4%となっています。次いで、男性は「男女共同参画社会」が 53.1%となっており、女性は「ジェンダー（社会的性別）」が 52.0%となっています。

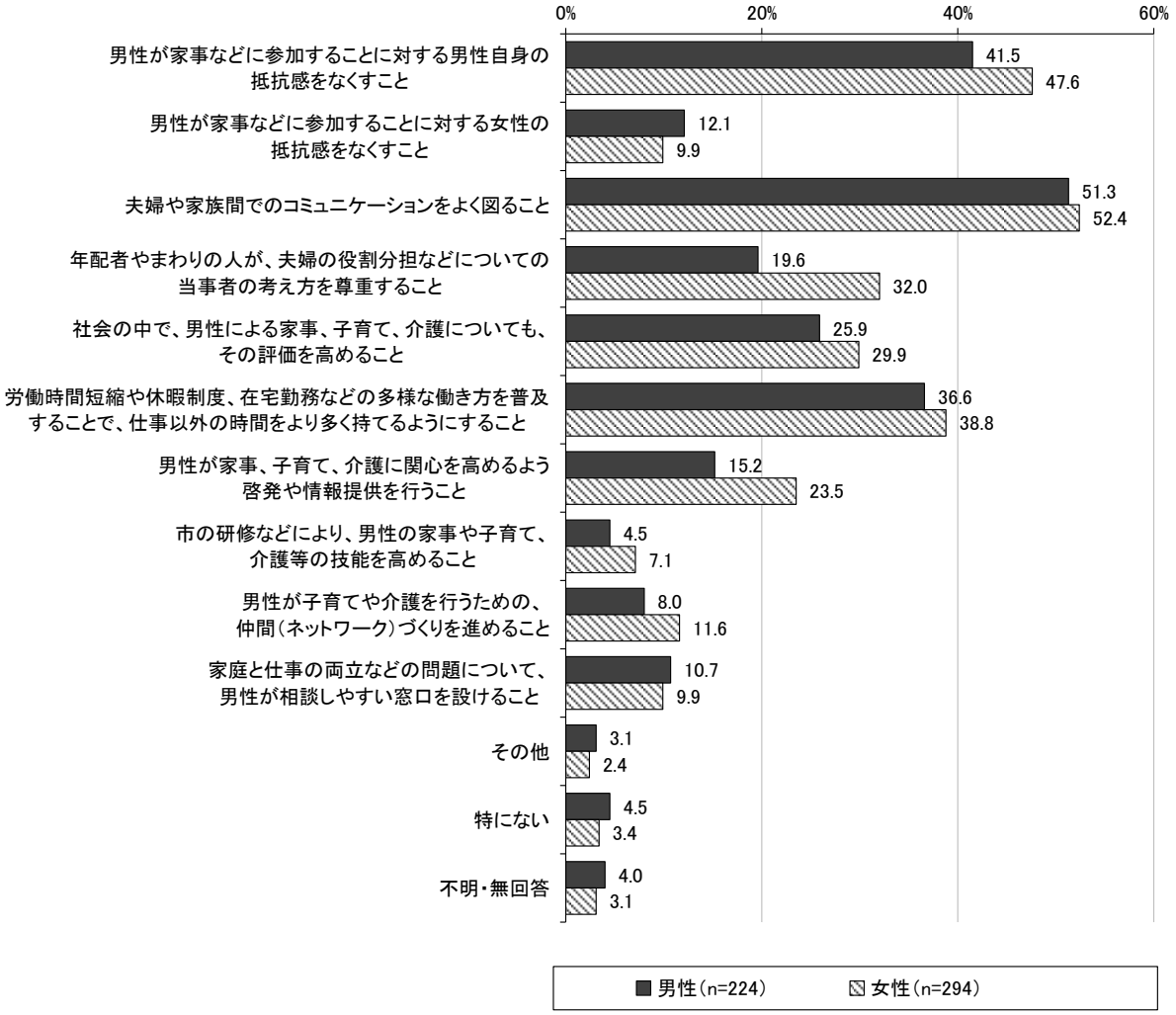
また、令和４年５月に成立された「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」については、男女ともに６%以下となっています。



※令和４年５月に、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が成立しました。この法律は、貧困やＤＶ、性暴力などに直面する女性の自立に向けて公的支援を強化していくものです。

問 30　今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○は３つまで）

男性が女性とともに家事、子育て、介護に積極的に参加していくために必要なことについてみると、男女ともに「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が最も高くなっており、男性が 51.3%、女性が 52.4%となっています。次いで、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が高くなっており、男性が 41.5%、女性が 47.6%、「労働時間短縮や休暇制度、在宅勤務などの多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が男性で 36.6%、女性で 38.8%となっています。

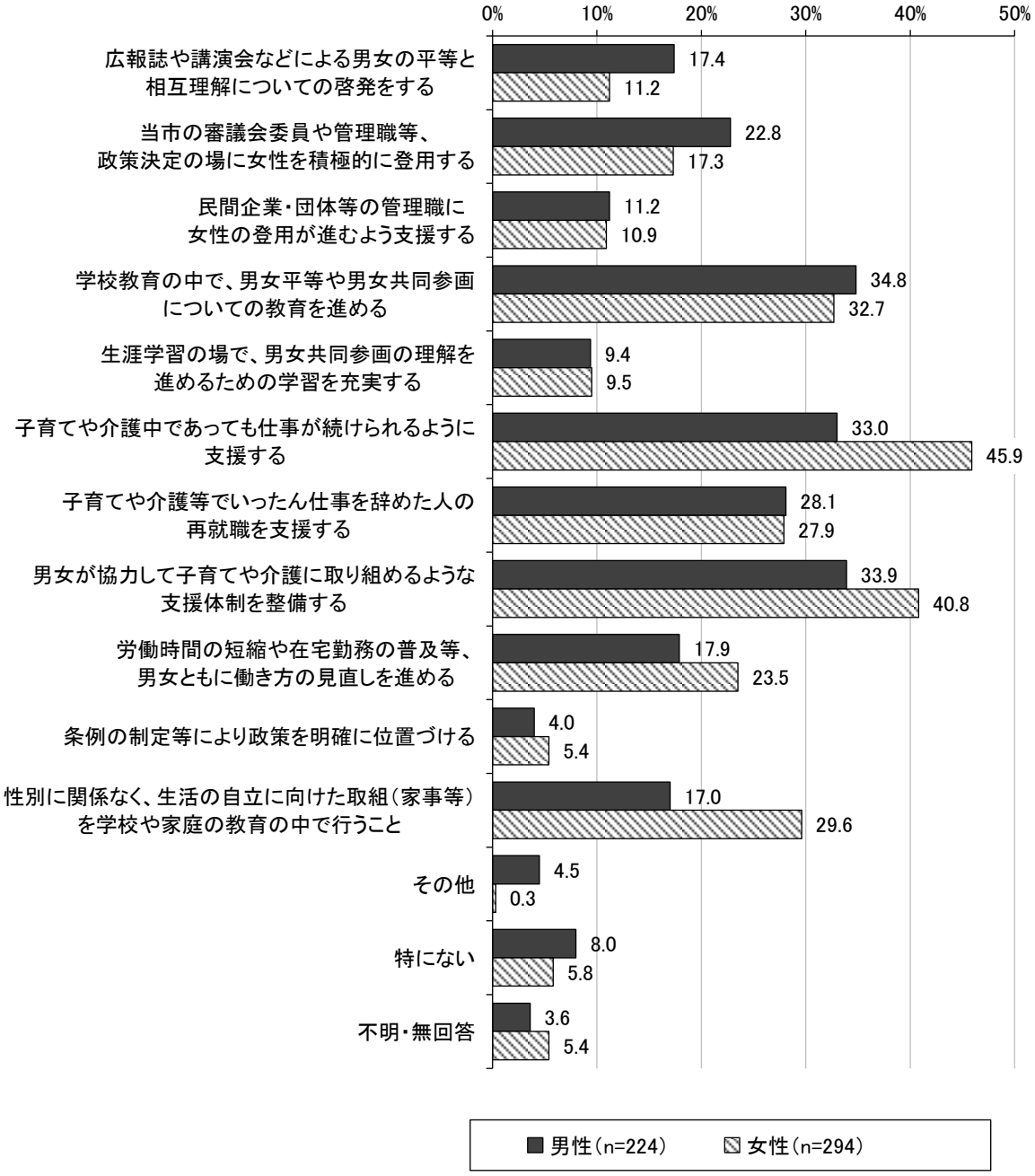


問 31　男女共同参画社会の実現に向けて、今後、南丹市においてどのようなことに力を入れてほしいですか。（○は３つまで）

男女共同参画社会の実現に向けて、南丹市に力を入れてほしいことについてみると、男性は「学校教育の中で、男女平等や男女共同参画についての教育を進める」が 34.8%と最も高く、次いで「男女が協力して子育てや介護に取り組めるような支援体制を整備する」が 33.9%、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるように支援する」が 33.0%となっています。

女性は「子育てや介護中であっても仕事が続けられるように支援する」が 45.9%と最も高く、次いで「男女が協力して子育てや介護に取り組めるような支援体制を整備する」が 40.8%、「学校教育の中で、男女平等や男女共同参画についての教育を進める」が 32.7%となっています。

また、男性と比較し、女性では「子育てや介護中であっても仕事が続けられるように支援する」「性別に関係なく、生活の自立に向けた取組（家事等）を学校や家庭の教育の中で行うこと」において 12 ポイント以上高くなっています。



９．自由意見

自由意見　意見数		124 件
キーワードごとの意見件数	男女共同参画・男女平等意識	34 件
	本アンケート調査について	33 件
	行政について	28 件
	仕事・職場での意識	10 件
	社会風習・地域	8件
	その他	11 件

■キーワードごとの主なご意見

【男女共同参画・男女平等意識】

内容	件数
まずは理解が大切で時間を要しても前向きに取り組めば理解し少しでも変わると思います。	６件
平等意識は、つけやきばでは表層的にすぎていくため、義務教育段階から子どもの意識に浸透させることがまずは最も有効かと考えます。	３件
国際的にみて、日本は男女共同の意識が少ないと統計学にあらわれている。改善するために、法律や制度上の見直しが必要だ。	２件
男女平等が当たり前になり、この言葉自体がなくなることを願っています。	２件
１日中働いているのだから専業主婦も大変な仕事と見てほしい。	１件
男は男らしく、女は女らしくという事ですからお互いに助け合いながら協力して生きてゆくのがよいと思う。	１件
最近では男女共同参画の言葉は定着していると思います。	１件
“男女平等に、女性も能力に応じて、政策決定等の場に参加できるようにする”というのでははっきりいって弱いと感じる。	１件
本人自身が男だから、女だから…との意識を改める事が一番だと思う。	１件
お金さえあれば、男性は仕事・女性は家庭といった問題で悩まなくても、両方が家庭、もしくはシッターにあずけるなどの選択もできるが、意識を変えても賃金が高い男性が働くことに変わりない。	１件
性別に関係なく、協力しての生活や民間企業も女性の活躍場面をつくる。	１件
男子トイレより女子トイレの方が多い。女性は男子トイレに入れる事が多い。平等にしたいのなら女性にも消防団に入ってもらって下さい。	１件
やはり男性は仕事、女性は、“もっと大切な”“子育てと家庭”により、社会が安定し、人間が精神的安定を得ることができ、良識ある社会が構築できると思う。	１件
男性女性それぞれが、尊重し合って生活をする事で結婚、子育てにつながると思う。男だから！女だから！（嫁）なんて考え方、無くしてもらいたいものだと思う。それぞれが大切にし合ってこそ介護も子育ても成り立つと思う。	１件
男性であろうが女性であろうが、一人ひとり違うということを理解して全て受け止められるようにならないと無理。	１件
出産から育児は人として最大の重要事。それを男女共同で行なうのは人間として当然という社会風土を築くための法的な施策が必要かもしれない。	１件

形ばかりで中味が無い様にならないことを考える。マイノリティが尊重され、マジョリティの差別にならない様、慎重に進める。	1件
性別に関係なく自立した生活ができているか考えてみると良い。その上で個人の自由を尊重して欲しい。	1件
内閣府にて男女共同参画が設置されてから、長くたつが何か違う方法はないか。	1件
男女その他にかかわらず、人それぞれの適性によって仕事・家庭・社会活動に携われるようになると良いと思います。	1件
家庭生活が基本なので子ども含め家庭でしっかり教育する。	1件
共働きが必然的に求められている時代だと感じているため、柔軟に　対応できる世の中になればいいと思います。	1件
性別に関係なく、能力によって正当な評価を受けることのできる社会の実現を切望します。	1件
女性の職場は大切ですが、忙しい為に手づくりの食生活が損なわれ、冷凍食品に頼る傾向に思われます。両立は困難と思いますが母のぬくもりを知る子が一人でも多い事を望みます。	1件
男女別姓が認められない国において男女共同参画は本質的に無理だと思う。	1件
合計	34件

【本アンケート調査について】

内容	件数
オンライン回答へのご指摘	22件
高齢のため回答が難しい。	3件
アンケートへのお礼。	2件
この中にある質問自体、女性を下に見ているような、男性主導のアンケートなような気がします。	1件
かたよった設問が多いアンケートでした。	1件
アンケートの母数が1,500人は少なすぎだと思う。	1件
はじまりが紙ベースでなく南丹市のラインなどを活用してもっと上手くできなかったのか?	1件
この結果集計はどこかに掲載されますか?	1件
パートナーシップ制度さえない市からのこのようなアンケートに違和感を覚える。	1件
合計	33件

【行政について】

内容	件数
南丹市に住みたいと思える様なまちづくりをお願いします。	6件
南丹市の取組み状況、現状について、広報等で積極的に開示し、民間の見本となる様に市民に啓発する。	4件
市役所、議会、市長は高年齢男性を必要とする社会や地域全体の在り方を変える努力をしてください。	3件
南丹市の今後の計画策定に期待しています。	2件
市の管理職の男女比や市議会議員の女性の比率を平等にしてください。	2件

いくら条例や法律が出来ても実際に社会生活の中で実行されなければ、何の意味も無いと思います。	1件
男女共同参画など基本は人権の問題で、思いやりが大切だと思います。	1件
特段女性を優遇する施策を定めるのではなく、機会均等を図るべきであると思う。	1件
女性や LGBTQ+の方の考えを政治に反映し、インクルーシブな社会の実現に向け市民が関わるアクションを起こしてください。	1件
まずは市役所でモデルとなるような行動をされる事で啓発になると思います。	1件
家事労働の共同参画…条例でも良いので、意識改善できる方向を希望します。このままでは、母、女子ばかりが、負担となり、ホッとする時間がない。（仕事している女性は）不公平、不平等にならない様に。	1件
現状の改革という点では、行政に携わる人たちの意識改革を真剣な対応を表明・実行すること。	1件
今は“男女男女”と偏見であろうかと思う。これ以上行政主導だと、女性優偶しすぎて“男性弱者”が社会の底辺になり、さらに男性自殺者増に、結果としてなると思う。	1件
共働き核家族が増える中、親族等の支援が無い世帯の場合、子供が熱を出したりした時の支援があれば良い。	1件
公的な助成金を利用される団体に対して監査する機関の存在は必須であると思われる。	1件
若年貧困女性がいるなら、若年貧困男性もいる。男女問わず、どちらも救済できる仕組みが望ましい。	1件
合計	28件

【仕事・職場での意識】

内容	件数
男女の給料を同等にする。	1件
女性の管理職を応援したいが、どうしても、好きなタイプでひいきをしたりすることが多いと思われる。	1件
犠牲と言う訳では無いが、子どもの世話や介護によって女性の立場が弱くなっている。休職するのはいつも女性の方。男性の稼ぎが多いのは当たり前、男性が働き、女性が休職する方が理にかなっている意識を変えて欲しい。	1件
管理職や政策決定の場等、男女同等の人数を登用する目に見える平等を確立する。	1件
男女関係なく能力ある人が、管理職になるべきで、そのために育児休暇を取ったら、不利になるようにすべきではない。	1件
雇用側の賛意を徹底して、就労時間を短くするなどの、現状克服から始めれば、女性の質的不安がわずかでも軽くなるのではと考えます。	1件
働きたい女性・働かねばならない女性の負の部分への大らかな救援、助成など必要です。	1件
女性が社会人となり出産しても心配することなく職場に復帰できる環境をまずつくることが大切。キャリアウーマンが注目されるのではなく、男女を問わずキャリアを積める社会をつくらないといけない。	1件
年間休日、長期休暇制度を取り入れ、プライベートの充実感を高めれば家庭が足かせとならなくなる。	1件
職場では子育てをしている人には優しいと思いますが、子供がいない人の負担は増すばかりです。	1件
合計	10件

【社会習慣・地域】

内容	件数
田舎の慣習がなくなるよう願います。	３件
南丹市（京都）では、伝統を重んじることから後世に残していきたい物や事がらが多いと思います。昔からこうだったという風習は良いものもあれば、科学的退拠のないものもあるので、見極める視点が必要だと感じます。	１件
人と人とのコミュニケーションが疎遠になっている中で、他人との比較をやめなければ優しく住みやすい地域にはならないと思います。	１件
男女共同参画社会と一言で何もかもが平等になるとは思われない、地域によって風習が根強く残っている所もあり、移住者が多く住める土地柄になると空気も変わり男女区分なくいろんな事が出来るのではと思う。	１件
女性天皇制を認めない限り男女平等の世の中にはならないと思います。	１件
女性の意識として地元の役員等は男がやるもの…というのがあり、何もかも男性に押しつけることには憤りを感じています。	１件
合計	８件

【その他】

内容	件数
特になし	５件
高齢の為、これからの若い人を応援しています。	１件
市長は家事をしたことがありますか？	１件
ご近所の方々とのコミュニティーを大切に日々、過ごしていけたらと思っています。	１件
生活が苦しいです。	１件
地域住民からの、家族に対する差別的発言がある。	１件
コロナの給付金関連を受けている人に疑問を感じます。通常の病気でも学保休を何回も使用している人がいます。本当に子供が病気かも疑わしいです、同じ職場の他のママさんとも不平等。	１件
合計	11 件

Ⅴ　総括

１．男女の平等について

●男女平等に関する意識

各分野での男女の地位が平等になっていると思うかとたずねたところ、男女ともに『学校教育の場』において平等であると回答した割合が高く、男性で 44.6%、女性で 47.3%となっています。男性優遇と感じる回答が多かった分野は、『社会通念・習慣・しきたりなど』が最も高く、男性で 71.0%、女性で 74.8%となっており、女性優遇と感じる回答が多かった分野は、『地域活動の場』が最も高く、男性で 8.9%、女性で 5.8%となっています。男性優遇の回答で、性別での差が最も大きかった分野は『家庭生活』で、男性が 37.5%、女性が 52.7%となっており、15.2 ポイントの差があります。

●男女平等社会に向けて

男女平等の社会にするために必要なことについてみると、『女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念・慣習・しきたりを改めること』が最も高く、男性で 41.5%、女性で 36.4%となっています。また、女性では、『行政や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること』が前回調査と比較し 6.1 ポイント高くなっており、女性が重要な役職に就く必要性が高まっていることがうかがえます。

●性別での役割分担意識

「男は仕事、女は家庭」という考え方についてみると、男女ともに『同感できない』が最も高く、男性で 53.1%、女性で 63.9%となっています。過年度調査との比較では、男女ともに『同感できない』が増加傾向にあります。また、『同感できない』理由についてたずねたところ、『男女平等に反すると思うから』が最も高く、男性で 37.8%、女性で 37.2%となっており、市民の男女平等意識が高まっていることがうかがえます。

●子育てについて

「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく」という子どもの育て方についてみると、男女ともに『どちらともいえない』が最も高くなっているものの、『肯定意見（「良いと思う」と「どちらかといえば良いと思う」の合計）』は男性で 40.2%、女性で 26.9%となっており、性別での差は、13.3 ポイントとなっています。

２．地域・社会活動について

●地域活動の参加有無

地域活動に参加しているかについてみると、男女ともに『町内会・自治会の活動』が最も高く、男性で 62.1%、女性で 40.1%となっており、性別での差は、22.0 ポイントとなっています。また、女性では、『参加していない』が前回調査と比較し 9.6 ポイント高くなっています。

●地域活動への参加支障について

活動に参加する場合に支障となることについてみると、男女ともに『仕事が忙しい』が最も高く、男性で 42.9%、女性で 28.2%となっています。また、女性では、『関心がない、または参加したいと思わない』が前回調査と比較し 8.5 ポイント高くなっており、地域活動の内容を周知し、参加率向上に向けた取り組みを進めることが重要です。

●役職や公職に就くこと

各分野での役職や公職への就任依頼があればどうするかとたずねたところ、男女ともに『職場の管理職』において「引き受ける」と回答した割合が高く、男性で 28.6%、女性で 17.3%となっています。「断る」の回答が多かった分野は、『知事や市町村長』が最も高く、男性で 76.8%、女性で 81.3%となっています。年齢別でみると、男性においては 60 歳代で「引き受ける」の割合が高い傾向にあり、『町内会会長、区長、自治会長』で 45.6%となっています。女性においては 40 歳代で「引き受ける」の割合が高い傾向にあり、『職場の管理職』で 24.0%となっています。

●女性が地域のリーダーになること

女性が自治会会長や PTA 会長など、地域のリーダーになるために必要なことについてみると、男女ともに『女性自身の抵抗感をなくすこと』『男性の抵抗感をなくすこと』で３割以上となっており、性別に関係なく、女性が地域のリーダーとなることへの抵抗感をなくすことが求められています。また、『女性が地域活動のリーダーになることについて、社会的な評価を高めていくこと』においては、男性で 39.7%、女性で 25.5%となっており、性別での差は、14.2 ポイントとなっています。『女性が地域活動のリーダーになることは必ずしも必要だと思わない』においては、男性で 10.7%、女性で 17.3%となっており、性別での差は、6.6 ポイントとなっています。

３．就労について

●働いている/働いていない理由

働いている理由についてみると、男女ともに『生計を維持するため』が最も高く、男性で 80.2%、女性で 75.9%となっています。また、女性において、『自分で自由に使えるお金を得るため』『将来に備えての貯蓄のため』が約５割となっています。性別での差が最も大きかった項目は『視野を広げ、友人を得るため』で、男性が 9.3%、女性が 22.4%となっており、13.1 ポイントの差があります。

働いていない理由についてみると、『高齢のため』が最も高く、男性で 58.8%、女性で 46.6%となっています。また、男性において『家庭にいるのが当たり前だから』『家事負担が大きいから』『子育てのため』では 0%となっています。

●育児/介護休業の取得

育児休業の取得状況についてみると、『取得した、取得する予定』において男性で 5.6%、女性で 42.6%となっており、性別での差は、37.0 ポイントとなっています。『制度はあるが取得したことはない』においては男性で 25.0%、女性で 5.6%となっており、性別での差は、19.4 ポイントとなっています。また、女性において前回調査では『取得した、取得する予定』が 11 件でしたが、今回調査では 23 件となっています。

介護休業の取得状況についてみると、『取得した、取得する予定』において男性で 1.6%、女性で 9.5%となっており、性別での差は、7.9 ポイントとなっています。『制度はあるが取得したことはない』においては男性で 25.0%、女性で 17.9%となっており、性別での差は、7.1 ポイントとなっています。また、前回調査と比較し『制度はあるが、取得したことはない』では、男性で 14 件、女性で６件の減少となっています。

『制度はあるが取得したことはない』と選択した方に理由をたずねたところ、男性では『特に理由はない』が 33.3%と最も高く、女性では『その他』（主な回答：「専業主婦のため」「職場に迷惑をかけるから」など）が 44.4%となっています。

●女性の就労

女性が働き続けるために必要なことについてみると、『男女ともに育児・介護休業が取得しやすいようにする』が最も高く、男性で 64.3%、女性で 63.3%となっており、男性において『育児などで退職した人を再び雇用する制度を普及させる』『職業における男女差別をなくし、待遇面（給与・昇進等）で能力に応じた評価を行う』、女性において『労働時間を短縮する（在宅勤務やフレックスタイムを取り入れる）』『パートタイマー・派遣労働者の労働条件を改善する』『職業における男女差別をなくし、待遇面（給与・昇進等）で能力に応じた評価を行う』『女性が働くことに対して、家族や周囲が理解・協力する』で３割以上となっています。

女性の管理職の登用についてみると、『適正のある女性はどんどん登用していくべき』が最も高く、男性で 85.7%、女性で 80.6%となっています。

４．生活全般について

●実際/理想の生活

回答者の実際の生活についてみると、男性において『「仕事」と「家庭生活」をともに優先している』が最も高く、33.9%となっており、女性において『「家庭生活」を優先している』が最も高く、36.7%となっています。前回調査と比較すると、男性では、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先している』が前回調査と比較し 6.2 ポイント高くなっています。

回答者の理想の生活についてみると、男性において『「家庭生活」を優先したい』が最も高く、33.9%となっており、女性において『「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい』が最も高く、44.2%となっています。前回調査と比較すると、女性では、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい』が前回調査と比較し 10.3 ポイント高くなっています。

●コロナウイルスによる自粛期間について

コロナウイルスによる自粛期間の状況についてみると、『体調や健康に関する意識の変化があった』『外出できないことやコミュニケーションが不足してストレスがたまった』において、男女ともに３割以上となっています。また、女性では『家族で一緒に過ごす時間が増えた』においても３割以上となっています。

５．人権について

●セクシャルハラスメント

セクシャルハラスメントの認知度・経験についてみると、『経験はないが、知識としては知っている』が最も高く、男性で 73.7%、女性で 62.6%となっており、また、『被害の経験がある』が男性で 4.9%、女性で 16.0%となっています。

被害の経験があると回答した方に対して、どのような対応をしたかたずねたところ、男性では『相談したかったが、相談しなかった（相談できなかった）』が最も高く、女性では『相談した』が最も高くなっています。

セクハラをなくすために必要なことについてみると、『セクハラに関する広報・啓発活動を進め、社会的関心を高める』が最も高く、男性で 55.8%、女性で 54.8%となっており、セクハラに対する社会的関心の向上が必要とされています。

●ドメスティック・バイオレンス

ドメスティック・バイオレンスの認知度・経験についてみると、『問題になっていることをテレビや新聞等で知っている』が最も高く、男性で 75.4%、女性で 75.2%となっており、また、『暴力を受けたことがある（受けている）』が男性で 1.3%、女性で 10.9%となっています。

被害の経験があると回答した方に対して、だれかに相談したかたずねたところ、男性では『相談しなかった』が２件、女性では『家族や友人に相談した』が最も高くなっています。また、相談しなかった理由についてたずねたところ、『どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから』『相談しても無駄だと思ったから』などが挙げられており、一人ひとりが安心し住み続けるための相談体制の充実が必要です。

●暴力防止・被害者支援

配偶者や交際相手からの暴力防止・被害者支援で必要なことについてみると、男女ともに『被害を受け、悩んでいる人に対する情報提供や相談体制を充実する』『被害者が避難できる場所の整備など保護体制を充実する』『避難した被害者の移転先などの情報が加害者に伝わらないように情報の管理を徹底する』で４割以上となっており、被害者支援体制の充実が求められています。

●性的マイノリティ（LGBTQ）

性的マイノリティ（LGBTQ）の人たちも暮らしやすい社会をつくるために必要なことについてみると、男女ともに『幼少期から理解を促進する教育を推進する』が最も高く、男性で 43.3%、女性で 54.4%となっており、『市民に対する意識啓発を充実する』『性的マイノリティの人が相談できる窓口を設置する』では男女ともに３割前後と、理解を促進するための啓発や相談窓口の充実が重要となっています。また、『パートナーシップ制度、ファミリーシップ制度を導入する』においては、男性で 17.0%、女性で 27.6%となっており、性別での差は、10.6 ポイントとなっています。

６．男女共同参画

●条例・法律の認知

条例・法律の認知度についてみると、『男女共同参画社会』『ジェンダー（社会的性別）』『男女雇用機会均等法』において、男女ともに４割以上となっています。また、女性では『ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）』においても３割以上となっています。認知度が１割以下の項目もあり、条例や法律などの情報提供の充実が重要となっています。

●男性が家庭生活に積極的に参加することについて

男性が女性とともに家事、子育て、介護に積極的に参加していくために必要なことについてみると、男女ともに『夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること』が最も高く、男性で51.3%、女性で 52.4%となっており、『男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと』『労働時間短縮や休暇制度、在宅勤務などの多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること』において、男女ともに３割以上となっています。また、女性では『年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること』においても３割以上となっています。

●南丹市に取り組んでほしいこと

男女共同参画社会の実現に向けて、南丹市に力を入れて取り組んでほしいことについてみると、『学校教育の中で、男女平等や男女共同参画についての教育を進める』『子育てや介護中であっても仕事が続けられるように支援する』『男女が協力して子育てや介護に取り組めるような支援体制を整備する』において、男女ともに３割以上となっています。教育の推進や支援体制の充実が求められており、関係機関と連携を図り取り組みを進めていく必要があります。

南丹市男女共同参画行動計画

策定に関する市民意識調査

報　告　書

発行年月　令和5年3月
発　　行　南丹市　市民部　人権政策課
〒622-8651
京都府南丹市園部町小桜町 47 番地
TEL:0771-68-0015
FAX:0771-63-2850